



ANNUAL REPORT

2024年度 (令和6年度)

vol.11



SAISEIKAI

OTARU
HOSPITAL



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会小樽病院

令和6年度年報 目次

巻頭言	1	・ 外来看護課	70
理念・基本方針・沿革・施設概要・組織図	2	・ 透析看護課	72
Netflixドラマ『さよならのつづき』に撮影協力	6	・ 手術・中材看護課	74
令和6年度「ふるさと企業大賞（総務大臣賞）」受賞について	7	・ 地域看護課	77
I 年間主要行事		・ 教育看護課	79
令和6年度 年間行事	8	事務部	83
年度表彰	9	・ 総括	83
永年勤続	9	・ 総務課	85
令和6年度購入備品	12	・ 経理課 経理グループ	88
II 診療実績		・ 経理課 用度購買グループ	89
1. 外来患者数	14	・ 医事課	91
2. 入院患者数	15	・ 医療クラーク課	93
3. 紹介率・逆紹介率	17	・ 健康診断課	95
4. 救急搬送件数	17	・ 地域連携課	97
5. 手術件数	17	・ 情報システム課	99
学生受け入れ	18	各委員会・診療チーム・その他	100
・ 診療部	18	・ N S T 委員会	100
・ 医療技術部	20	・ 院内感染予防対策委員会、感染対策室、ICT、AST	101
・ 看護部	22	・ 医療安全管理対策委員会、医療安全管理室	105
III 部門報告		・ 褥瘡対策委員会	108
診療部	23	・ クリニカルパス委員会	110
・ 総括	23	・ 患者サービス検討委員会	112
・ 内科・消化器内科	24	・ 内分泌・糖尿病診療センター	113
・ 循環器内科	25	・ 緩和ケアチーム	114
・ 脳神経内科	26	・ 認知症ケア推進室	115
・ 外科・消化器外科	28	・ 手・肘センター	117
・ 整形外科	29	・ 北海道済生会 支部事業	119
・ 泌尿器科	30	IV 教育・研究報告	
・ 緩和ケア内科・腫瘍精神科・精神科	31	初期研修・地域研修	121
・ 放射線科	32	論文発表	124
医療技術部	34	著書	125
・ 総括	34	学会・研究発表	126
・ 薬剤室	35	講義（大学・専門学校他）	129
・ 臨床検査室	38	講演	130
・ 放射線室	40	座長	131
・ リハビリテーション室	43	認定資格	131
・ 栄養管理室	48	V 職員福利厚生会	
・ 臨床工学室	51	総括	132
看護部	54	部活動	133
・ 総括	54	・ 野球部	133
・ 3 A 病棟	56	・ 釣り部	134
・ 3 B 病棟	58	・ 自転車・陸上競技部	135
・ 4 A 病棟	60	院内保育所「なでしこキッズクラブ」	136
・ 4 B 病棟	64	売店・食堂	140
・ 5 B 病棟	67	あとがき	141



令和6年度 済生会小樽病院年報発刊にあたり

病院長 和田 卓郎

令和6年度（2024年度）の済生会小樽病院年報をお届けできることを嬉しく思います。本年は北海道済生会創立100周年の節目にあたり、8月22日に開催した記念式典には全国から多くの皆さまにご臨席を賜り、温かいお言葉を頂戴いたしました。あらためて厚く御礼申し上げます。

さて、全国の多くの病院が経営悪化に苦しんでいます。病院6団体の調査によれば、令和6年度には全国の自治体病院の85%が経常赤字となり、過去最悪の水準に達しました。公的病院である済生会グループ全体の2024年度決算は260億円の赤字であり、全国83病院のうち当院を含む63病院が赤字に陥っています。炭谷茂理理事長はこの状況を「戦後最大の経営危機」と捉え、3年間で赤字を解消するべく、①済生会ブランドの強化、②多様な人材が働きやすい環境づくり、③ソーシャルインクルージョンの街づくり、の3点を重点施策として掲げています。

当院におきましても、令和6年度より地域の病院・診療所・介護施設との連携強化を進めてまいりました。高度急性期病院からの下り搬送の積極的な受け入れ、紹介受診重点医療機関および在宅療養後方支援病院の取得、さらには介護施設との連携協定の締結を実現しました。人材確保・育成の面では、令和7年度より基幹型臨床研修病院へ移行し、2名の研修医が意欲的に研修を行っています。また、モンゴルから3名の看護助手を迎え、いずれも誠実で人柄の良い方々であり、患者さんからも好評を得ています。

さらに、隣接する商業施設とともに取り組んできたソーシャルインクルージョンの街づくりでは、小樽市との連携協定を締結し、保健所が施設内に移転するなど、新たな展開を迎えています。これらの活動を通じて、地域社会に貢献しつつ、経営改善にもつなげていく所存です。

本年報には、経営状況の報告に加え、各部門職員のオフタイムの様子も楽しく掲載しています。当院ホームページからご覧いただけますので、ぜひご一読いただければ幸いです。

令和7年10月

——— 法 人 の 理 念 ———

「施薬救療の精神」

(分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべる)

——— 院 是 ———

恕：(じょ)

(意味：おもいやり)

——— 済生会小樽病院の理念 ———

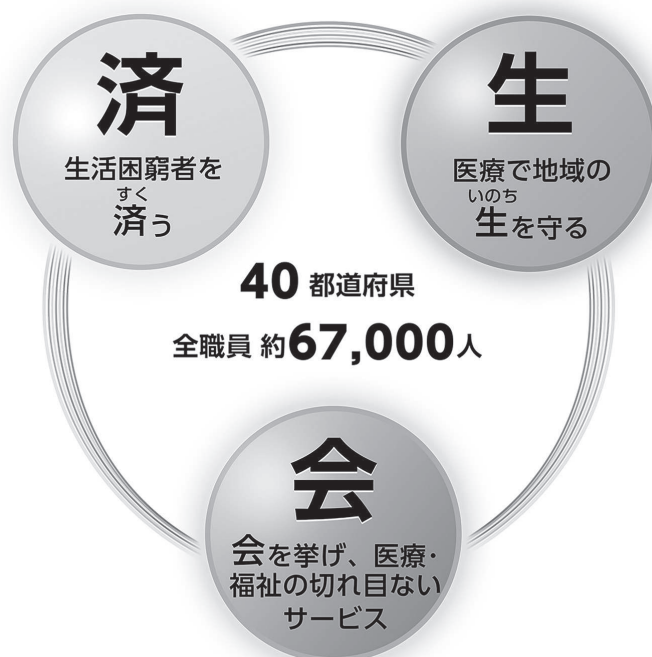
かかって良かったと思う病院

働いて良かったと思う病院

地域と共に歩む病院

——— 基 本 運 営 方 針 ———

1. 急性期から回復期へ一貫した医療
2. 断らない医療
3. 地域包括ケアシステム構築
4. 無料低額診療事業の推進
5. 地域に必要な医療人の育成
6. 研究活動を支える環境整備
7. 医療・経営の可視化



すべてのいのちの虹になりたい

済生会は、明治天皇が「恵まれない人々のために施薬救療によって生活困窮者を救済しよう」と明治44（1911）年に設立しました。以来110年以上の活動の中で「施薬救療の精神」という済生会理念の下、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約67,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を **済**（すく）う
- 医療で地域の **生**（いのち）を守る、
- 医療と福祉、**会** を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇……悩むすべてのいのちの虹になりたい。
済生会はその願って、いのちに寄り添い続けます。

生活困窮者支援の積極的推進

済生会設立の目的は、生活に困っている人を医療で助けることです。

生活保護受給者をはじめ、経済的に困っている人の医療費を無料にしたり減額したりする「無料低額診療事業」を積極的に行っています。令和6年度は延べ200万人が対象となりました。

済生会生活困窮者支援「**なでしこプラン**」を実施しています。対象者をホームレスやDV被害者、刑務所出所者、外国人等へも広げ、訪問診療、健康診断、予防接種等を無料で行う事業で、令和6年度は延べ24万人に実施しました。事業名の「なでしこ」は本会の紋章に由来しています。

さらに、済生丸が離島を回って診療を行う瀬戸内海巡回診療など、離島やへき地での医療にも力を注いでいます。

最新の医療で地域に貢献

済生会は、いのちの面から地域を支えます。最新の医療機器、高度な技術、手厚い看護。超急性期から亜急性期、慢性期・リハビリと段階に合わせて対応し、常に患者の立場に立った医療を提供します。

災害時には地域を越えてスタッフを派遣。救命救急から慢性期、そして生活再建に向けた心のサポートまで、緊急時も段階に合わせた支援活動を展開しています。

医療と福祉、切れ目なく

医療と福祉は密接な関係にあります。済生会は医療・保健・福祉を総合して提供できる団体です。全組織が連携し、施設・設備・人というすべての資源を動員して切れ目のない、シームレスなサービスを提供しています。

そして、高齢者や子どもたち、障害者が当たり前になり、共に生きる地域づくりに貢献します。

病院の沿革

大正13年	7月	済生会小樽診療所開設「小樽市手宮町1丁目20番地」
昭和27年	12月	社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽北生病院開院「小樽市梅ヶ枝町38番地」病床数22床5科（内科、小児科、外科、産婦人科、眼科）
昭和30年	1月	増床（62床 一般32床、結核30床）
昭和30年	9月	北海道済生会小樽北生病院附属 准看護婦養成所併設
昭和31年	4月	病院の一部焼失
昭和33年	2月	病棟、管理棟増改築（33年棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階2139.56㎡ 増床（185床）
昭和36年	1月	整形外科開設
昭和40年	11月	病棟、管理棟増改築（南棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階3023.65㎡
昭和41年	4月	皮膚・泌尿器科開設
昭和48年	12月	乳児保育所併設
昭和51年	7月	増床（277床 一般140床、結核31床、老人106床）耳鼻咽喉科開設
昭和55年	4月	人工透析開始（268床）
昭和56年	9月	結核病棟廃止（237床）
昭和58年	1月	増床（311床 一般131床、老人180床）
昭和59年	2月	病棟、管理棟増改築（北棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階塔屋付4252.45㎡
平成	2年	10月 看護師宿舎増改築
平成	5年	6月 病棟、管理棟増改築（中央棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上5階塔屋付2803.59㎡
平成	6年	5月 麻酔科増設
平成10年	10月	循環器内科開設 小児科廃止
平成13年	12月	一部療養病床へ転換(289床 一般245床、療養44床)
平成14年	4月	MRI（1.5テスラ）導入
平成14年	10月	社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院に名称変更
平成15年	3月	北海道済生会小樽病院附属 准看護婦養成所 閉校
平成15年	10月	体外衝撃波結石破碎装置導入
平成15年	11月	皮膚科廃止
平成16年	4月	神経内科開設
平成17年	3月	産婦人科廃止、眼科廃止
平成18年	6月	院内全面禁煙開始
平成18年	9月	一般病床入院基本料10対1取得 マルチスライスCT（16列）導入
平成20年	7月	療養病床から回復期リハビリテーション病棟へ変更（44床から42床へ）回復期リハビリテーション入院料2取得（42床）
平成21年	1月	回復期リハビリテーション入院料1取得
平成21年	7月	医療画像管理システム（PACS）導入
平成22年	9月	臨床研修病院（協力型）に指定
平成23年	12月	新病院建築工事着工
平成24年	7月	MRIバージョンアップ
平成24年	9月	オーダーリングシステム運用開始
平成24年	10月	マルチスライスCT（64列）に更新
平成25年	2月	一般病床入院基本料7対1取得
平成25年	8月	北海道小樽市築港10番1に移転、延17704.29㎡。許可病床数、一般258床（うち回復期リハビリ病床50床）婦人科（女性診療科）新設。電子カルテ運用開始
平成26年	4月	指定居宅介護支援事業所はまなす併設
平成26年	10月	地域包括ケア病棟（53床）開設
平成27年	4月	地域ケアセンター併設・小樽市南部地域包括支援センター事業開始 婦人科廃止 人工透析内科開設
平成30年	2月	特定行為研修 指定研修機関に指定
令和	元年	12月 訪問看護ステーション併設
令和	2年	3月 外科手術用3D内視鏡システム導入
令和	2年	9月 重症心身障がい児（者）施設みどりの里移転統合延2万6,677.00㎡ 許可病床数378床（急性期一般155床、地域包括ケア53床、回復期リハビリテーション50床、重症心身障がい児（者）120床）小児科標榜
令和	2年	10月 MRI更新
令和	3年	3月 地域ケアセンター 済生会ビレッジに移転
令和	3年	11月 CT更新
令和	5年	4月 通院支援アプリ導入
令和	5年	12月 会計表示システム、自動精算機導入
令和	6年	3月 臨床研修病院（基幹型）に指定
令和	6年	12月 紹介受診重点医療機関に指定

病院概要

名 称	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
所 在 地	〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号
電 話 / FAX	電話番号：0134-25-4321 FAX番号：0134-25-2888
管 理 者	病院長 和田 卓郎
病 院 種 別	一般病院
敷 地 面 積	19,147.41平方メートル
延 べ 床 面 積	26,677.00平方メートル （鉄筋コンクリート造、病院棟5階建て、エネルギー棟2階建て、みどりの里6階建て）
駐車スペース	147台
そ の 他 施 設	保育施設
許 可 病 床 数	一般病床 378床（急性期一般病棟155床、地域包括ケア病棟53床、回復期リハビリテーション病棟50床、重症心身障がい児（者）病棟120床）
診 療 科 目	内科：消化器内科：循環器内科：脳神経内科：外科：消化器外科：整形外科：泌尿器科：人工透析内科：放射線科：リハビリテーション科：緩和ケア内科：精神科：腫瘍精神科：麻酔科（標榜医：数馬 聡）：小児科
外来診療時間	【受付】 （午前の部）8時50分～11時30分 （午後の部）12時40分～16時00分 【診療時間】 （午前の部）9時00分～12時40分 （午後の部）13時40分～17時20分
面 会 時 間	【平日・土曜】 13時00分～20時00分 【日曜・祝日】 10時00分～20時00分 ☆病室案内は、病院窓口にてご確認ください ※現在感染症対策の観点から14:00～17:30となっています
職 員 数	676名

認定施設一覧

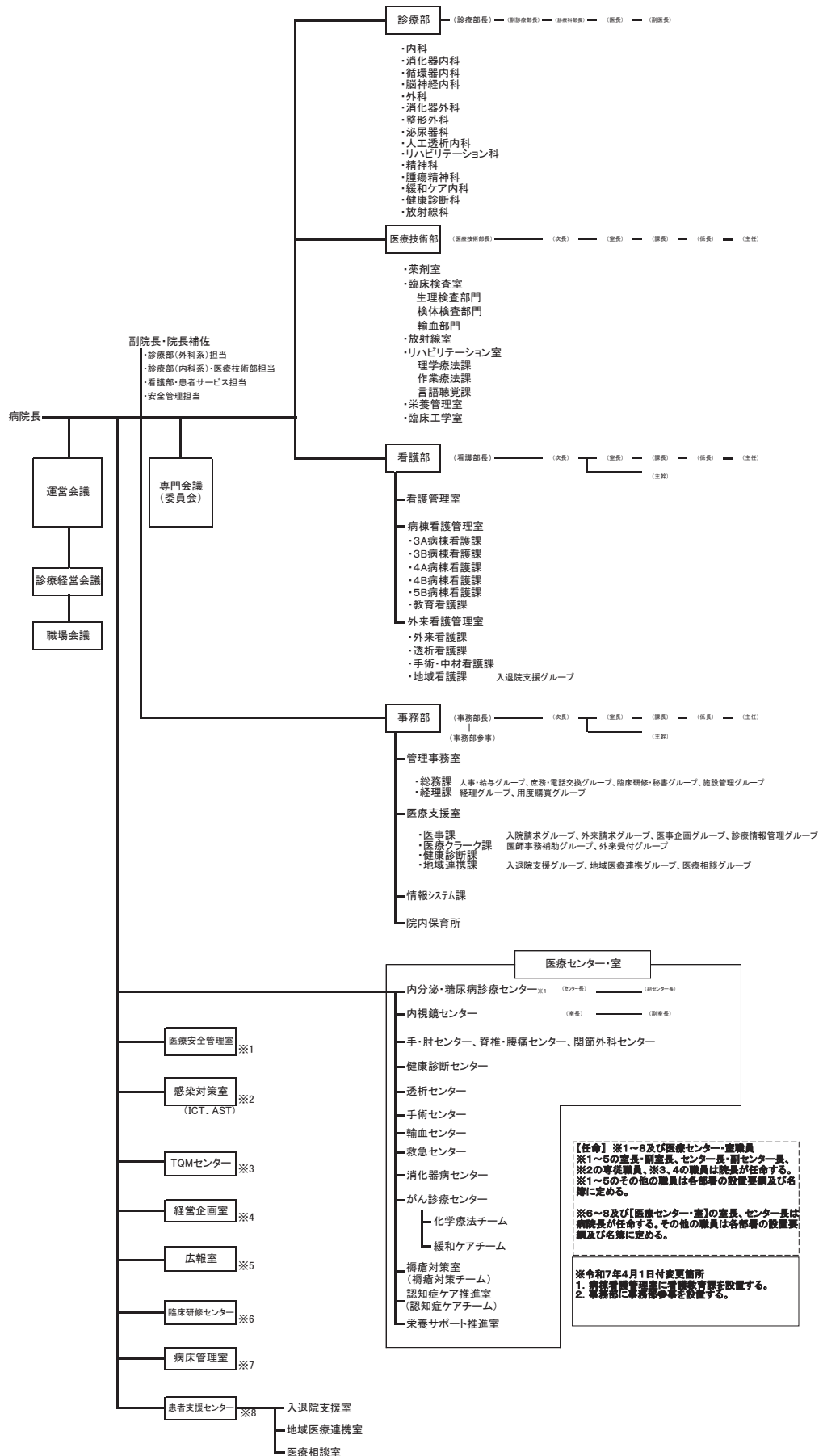
- ・日本内科学会教育関連病院
- ・日本消化器内視鏡学会指導連携施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本神経学会教育施設
- ・日本認知症学会専門医制度教育施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本外科学会外科専門医制度関連施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会基幹研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
- ・JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設
- ・基幹型臨床研修病院
- ・看護師特定行為研修指定研修機関
- ・日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医特定研修認定施設

※病院概要については令和7年4月1日時点を掲載

組織図

令和7年4月1日

済生会小樽病院 組織図



Netflixドラマ『さよならのつづき』に撮影協力

2024年11月14日よりNetflixで配信が開始されたドラマ『さよならのつづき』は、有村架純さんと坂口健太郎さんのダブル主演による全8話のラブストーリーです。生田斗真さん、中村ゆりさん、三浦友和さん、斉藤由貴さん、宮崎美子さんといった豪華な俳優陣が出演し、小樽とその近隣地域を舞台に物語が展開されます。

この作品で、坂口健太郎さん演じる大学職員が心臓移植を受けるために入院する病院として、済生会小樽病院が登場します。

最初にNetflixから撮影協力の要請があったのは2023年春。主演やストーリーの詳細は一切知らされないまま、院長の「撮影に協力する」との一言で協力が決定しました。

撮影は、2023年9月17日（土）に外来と4B病棟で、12月16日・17日（土・日）に手術室、3B病棟、廊下などで行われました。

特に3B病棟での撮影では、坂口健太郎さん演じる患者を中村ゆりさん演じる妻が見舞うシーンがあり、窓の外からの撮影のために大掛かりな足場が組み立てられ、照明も煌々と焚かれました。その様子は高速道路からも見え、多くの市民の目に留まりました。

手術室では、生田斗真さん演じるドナー役が心臓摘出手術を受けるシーンの撮影が行われ、当院の職員やその家族がエキストラとして多数参加しました。実際に映っていたのは麻酔科医役の整形外科医と若手看護師2名で、台詞のあった医師のシーンは残念ながらカットされてしまいました。

また、3日間にわたる撮影にもかかわらず、実際に使用された映像はほんの数分であったことには驚きました。

撮影当日は、80人以上のスタッフが病院内を出入りしました。5類に移行したとはいえ、感染対策上の懸念もありましたが、患者・職員と撮影スタッフの動線を明確に分けたことで、感染やトラブルもなく無事に撮影を終えることができました。

ただし、12月の3B病棟での撮影に備え、1週間前から3部屋12床を空ける必要があり、繁忙期である12月に入院制限をかけたため、病棟課長をはじめ先生方、病棟スタッフの皆様には大変なご迷惑をおかけしました。この場を借りて、心よりお詫び申し上げます。誠に申し訳ありませんでした。

私自身、打ち合わせが進む中で、有村架純さん、坂口健太郎さんのダブル主演に加え、生田斗真さん、中村ゆりさんも出演していると聞き、ぜひ全員にお会いしたいと思っていました。しかし、有村架純さんにだけお会いできなかったのは非常に残念です。サイン色紙もいただきましたが、有村さんのサインだけがなく、これもまた心残りです。

撮影協力を快諾した和田院長は、このドラマが全世界に配信されることで大ヒットし、より多くの観光客が小樽を訪れるようになれば、病院として地域貢献につながると考えていたようです。

ストーリーだけでなく、小樽後志の素晴らしい四季が見事に映像化されたこの作品を、みなさんも是非ご覧ください。

文責 松尾 覚志



令和6年度「ふるさと企業大賞（総務大臣賞）」受賞について

北海道済生会小樽病院は、令和6年度ふるさと企業大賞（総務大臣賞）を受賞いたしました。

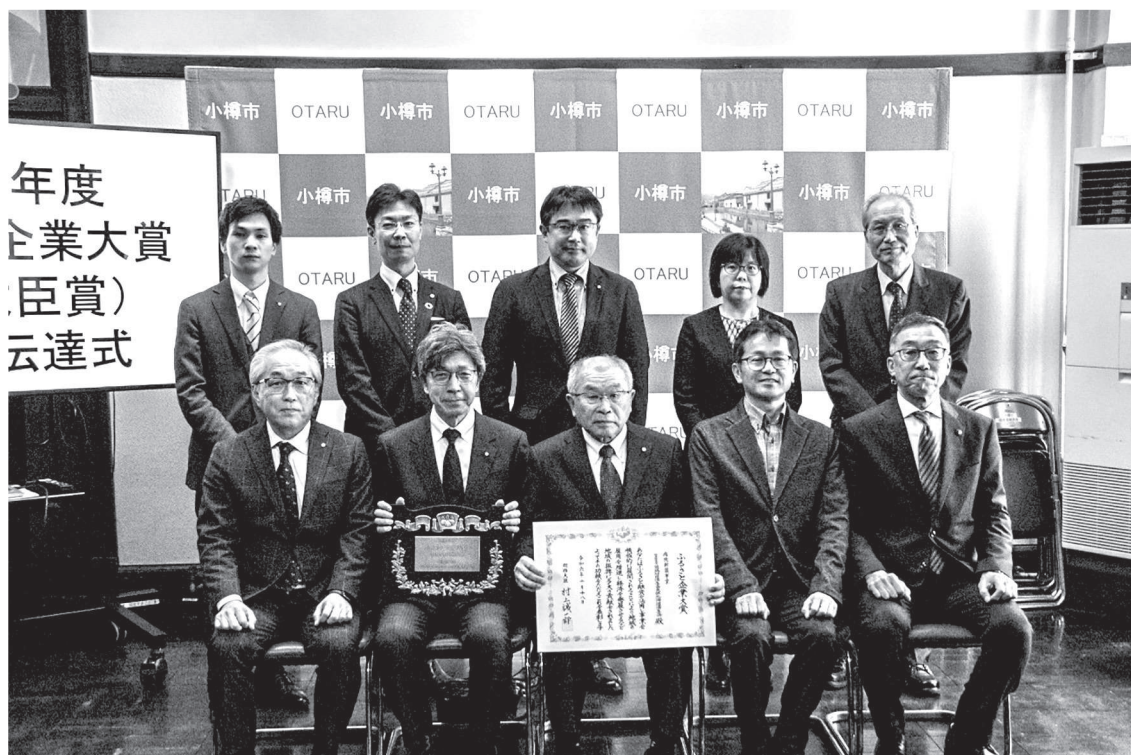
本賞は、地域総合整備財団が実施する表彰制度であり、ふるさと融資を活用して地域活性化に取り組む企業のうち、3年以上の事業実績を有し、健全な経営状況を維持しながら、地域経済への貢献、雇用創出、地域イメージの向上などにおいて特に顕著な成果を挙げた企業に贈られるものです。

北海道済生会は、小樽市との連携による地域共生の実現に向けて取り組み、商業施設ウイングベイ小樽内に「済生会ビレッジ」を設置し、発達支援事業や疾病・介護予防事業、障がいの有無にかかわらず誰もが活躍できる事業の展開など、地域に根ざした多様な活動が高く評価されました。

特に「済生会ビレッジ」を拠点とした取り組みでは、地域住民が健康で生き生きと、自分らしく生活できることを目指し、医療・福祉・介護・予防・地域交流の各分野が連携した包括的な支援を行っています。こうした活動は、誰もが排除されることなく社会の一員として尊重される「ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）」の実現にもつながるものであり、地域社会の持続的な発展に寄与するものと考えています。

今後も、地域における包括的な支援体制の構築と、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて、継続的な取り組みを進めてまいります。

文責 清水 雅成



I 年間主要行事

令和6年度 年間行事

4月	1日(月)	辞令交付式 新採用者研修会
	2日(火)	病院長新年度方針
5月	22日(水)	桜町中学校 病院見学
6月	19日(水)	ふれあい看護体験
	28日(金)	長橋中学校 病院見学 職員福利厚生会 新人歓迎会 (グランドパーク小樽)
7月	9日(火)	献血車 来院
	27日(土)	潮まつり ねりこみ
8月	2日(金)	保育所 夏祭り
	22日(木)	100周年記念式典 (グランドパーク小樽)
	23日(金)	全国済生会病院長会 (グランドパーク小樽)
9月	8日(日)	小樽くらしたい共生フェス
	23日(月)	第42回東北・北海道ブロック親善ソフトボール大会 (福島)
10月	5日(土)	ミドルマネジメント研修
	11日(金)	済生会東北・北海道ブロック会議 (岩手)
	18日(金)	保育所 ハロウィン
	25日(金)	不在者投票
11月	9日(土)	幹部研修会
	19日(火)～20日(水)	QCサークル大会
	22日(金)	全国済生会事務(部)長会、第2回院内保育研究会 潮見台中学校 病院見学
	26日(火)	献血車 来院
	29日(金)	保育所 お楽しみ会
12月	19日(木)	永年勤続表彰式並びに職員福利厚生会忘年会
	20日(金)	保育所 クリスマス会
	27日(金)	仕事納め
1月	6日(月)	仕事始め 病院長年頭挨拶
	15日(水)	保健所立入監査
2月	3日(月)	保育所 まめまき
	16日(日)	第77回済生会学会・令和5年度済生会総会(愛媛)
3月	27日(木)	保育所 進級・お別れ会
	31日(月)	辞令交付式

年度表彰

●永年勤続

30年表彰 病院長付
看護師

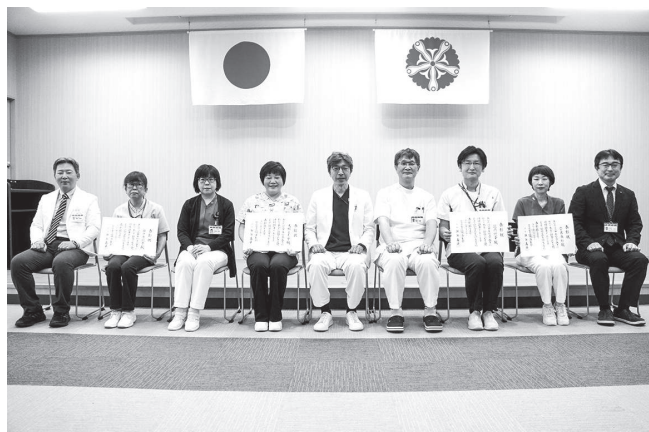
大 橋 とも子
小野寺 由 美

20年表彰 看護師
看護助手

早 川 晃 子
田 中 亜紀子

10年表彰 病院長
診療部長
看護係長
事務係長
薬剤室技術主任
リハビリテーション室技術主任
看護師
看護師
看護師
看護師
薬剤室
理学療法士
理学療法士
理学療法士
理学療法士
理学療法士
作業療法士
作業療法士
事務職員
事務職員
事務職員
事務職員
事務職員
事務職員
看護助手

和 田 卓 郎
織 田 崇 美
大 崎 朱 美
内 山 泰 男
一 野 勇 太
松 村 真 満
前 田 亨
田 中 貴 俊
渡 邊 美 香
古 山 真 代
又 村 健 太
神 田 充 博
城 田 祐 輔
富 樫 優 樹
長 瀬 拓 真
上 野 直 也
石 川 竜 乃
齋 藤 駿 介
川 畑 有 太
平 光 美 香
大 渡 美 帆
高 橋 菜 子
峯 あ かね
新 将 大
櫛 田 舞
引 紀 代 子



4.1 辞令交付式



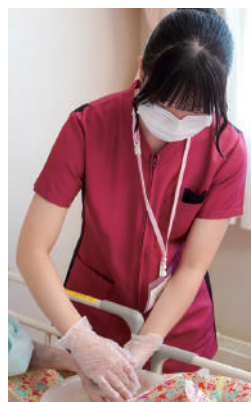
4.1 新採用者研修会



5.22 桜町中学校 病院見学



6.19 ふれあい看護体験



6.28 職員福利厚生会 新人歓迎会 (グランドパーク小樽)



7.27 潮まつり ねりこみ



8.2 保育所 夏祭り



8.22 100周年記念式典
(グランドパーク小樽)



8.23 全国済生会病院長会
(グランドパーク小樽)



9.23 第42回東北・北海道ブロック
親善ソフトボール大会 (福島)



10.18 保育所 ハロウィン



12.19 永年勤続表彰式並びに職員福利厚生会忘年会

6年度 永年勤続表彰式並びに忘年



2.3 保育所 豆まき



令和6年度購入備品



令和6年5月27日
コア2 コンソール



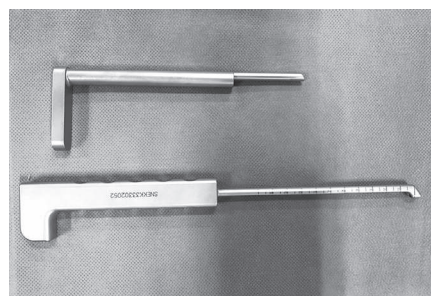
令和6年5月27日
コア2 コンソール



令和6年7月10日
私設ポスト



令和6年9月11日
血液ガス分析装置



令和6年9月25日
GOガイドⅢ
トランスティピアル フェモラル ダイレーター



令和6年9月27日
手術用Cアーム イメージングシステム



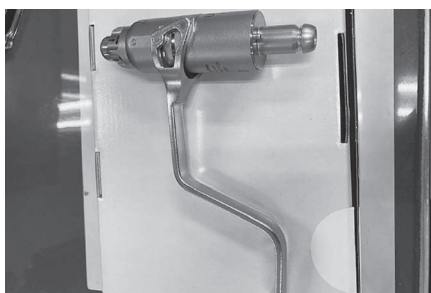
令和6年9月30日
PrecisionIE4K アースロスコープ



令和6年11月13日
UNIMUM モジュラーハンドピース



令和6年11月13日
UNIMUM パワーユニット×2台



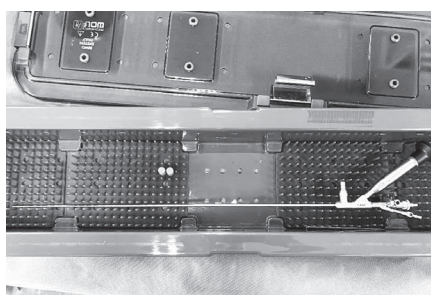
令和6年11月13日
UNIMUM Kワイヤーチェック



令和6年11月13日
バッテリーチャージャーⅡ



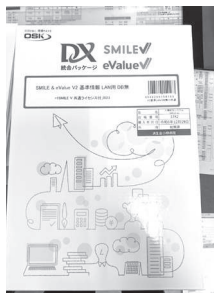
令和6年11月29日
超音波骨折治療器 アクセラス2×3セット



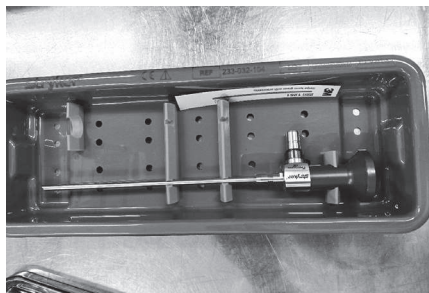
令和6年11月29日
WOLF ウレテロレノスコープ



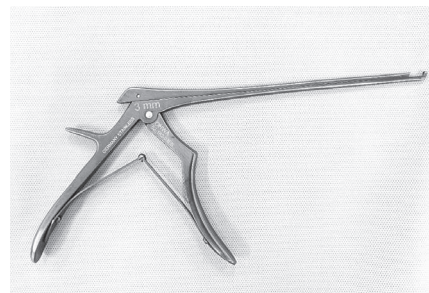
令和6年11月30日
フロージェネレーターAirvo2



令和6年12月19日
人事給与システム SMILE V2



令和7年1月15日
PrecisionIE4K アースロスコープ



令和7年1月29日
ブラックパールケリソンパンチ



令和7年2月17日
HDレコーダー HVO-3300MT×2台



令和7年3月19日
RICOH SP 8400M (複合機)



令和7年3月31日
上部消化管汎用ビデオスコープ



令和7年3月31日
上部消化管汎用ビデオスコープ



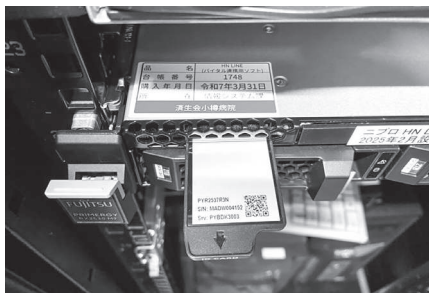
令和7年3月31日
上部消化管汎用ビデオスコープ



令和7年3月31日
EVISX1 システムセンター



令和7年3月31日
筋電計 MEB-2300X3 (6ch)

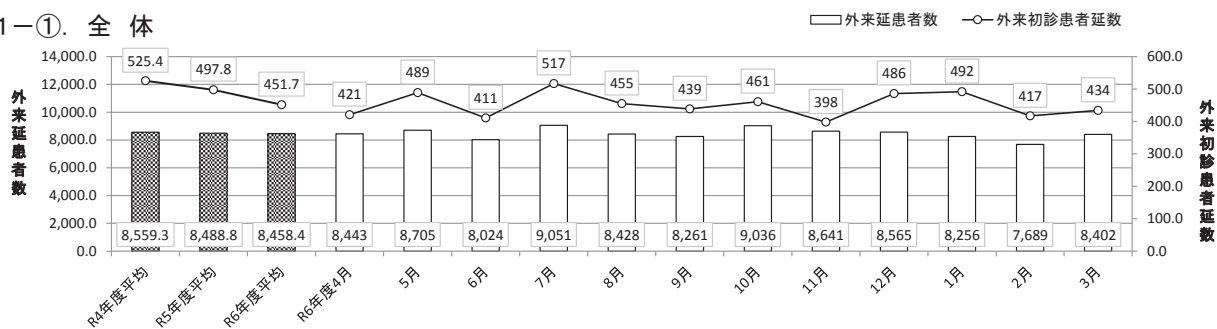


令和7年3月31日
HNLINE (バイタル連携用ソフト)

Ⅱ 診療実績

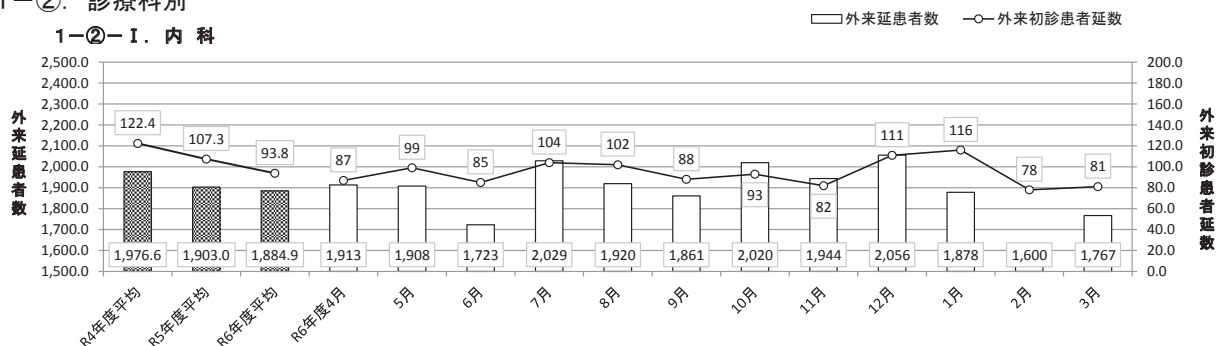
1. 外来患者数

1-①. 全体

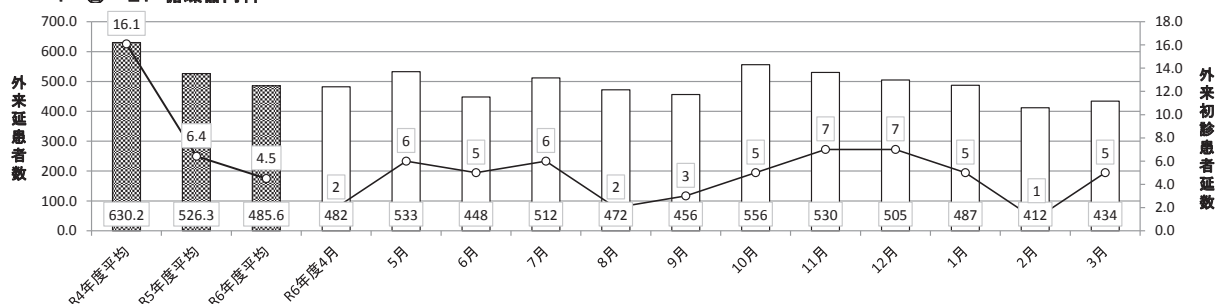


1-②. 診療科別

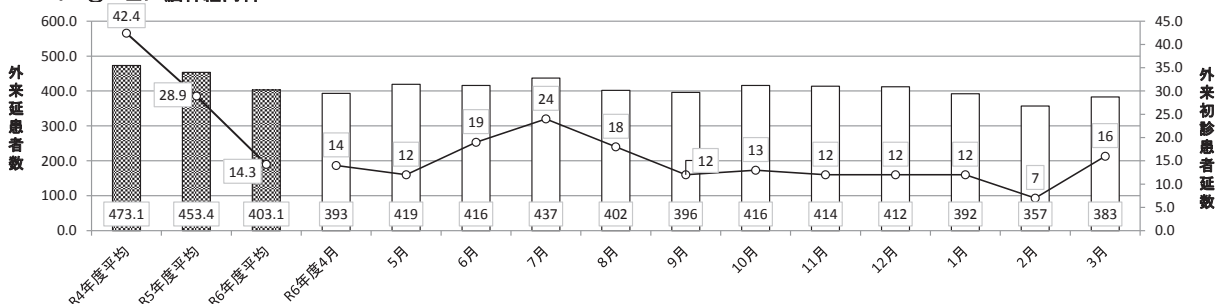
1-②-I. 内科



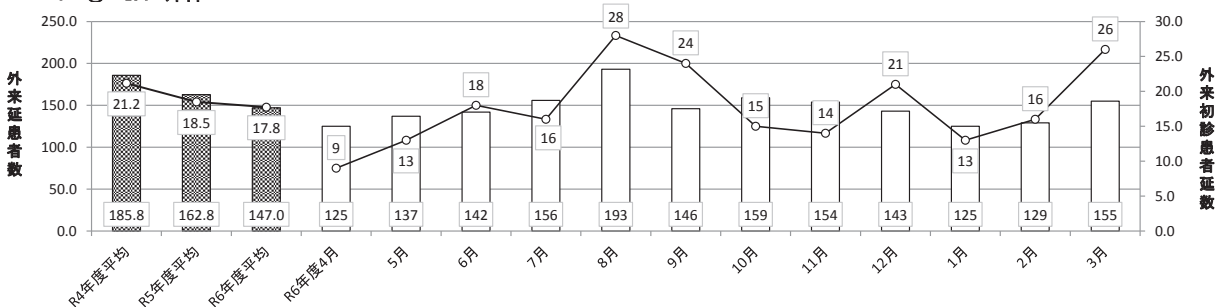
1-②-II. 循環器内科

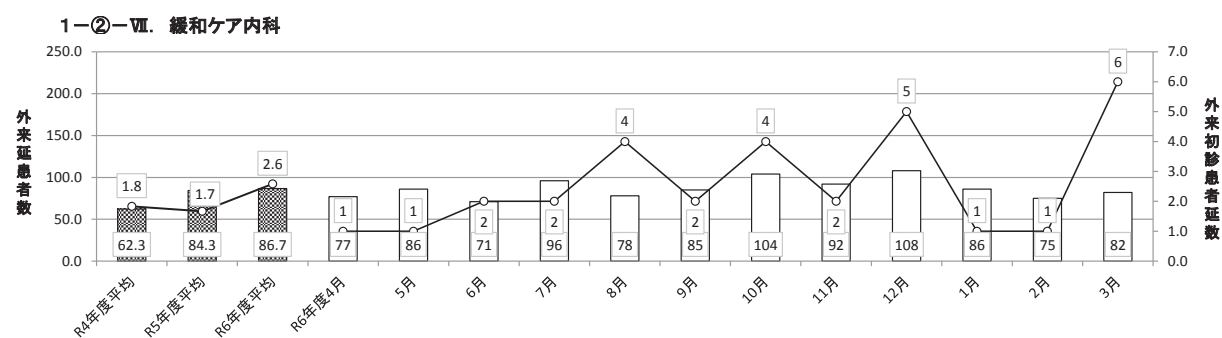
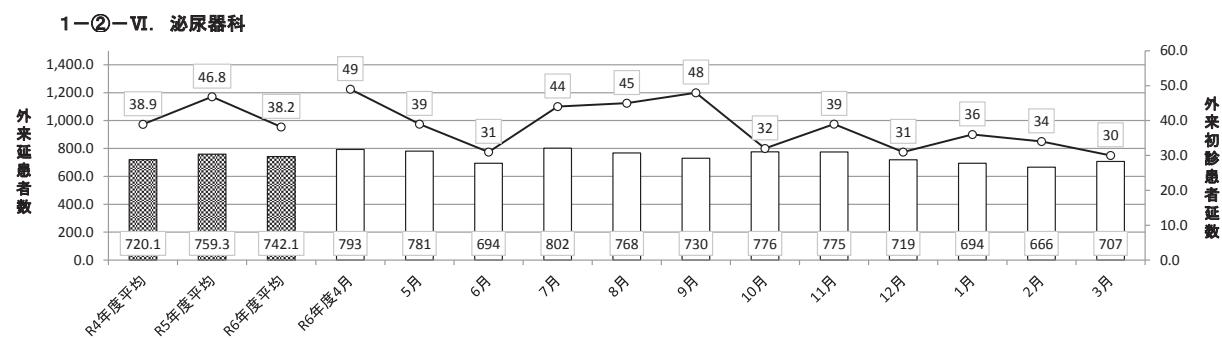
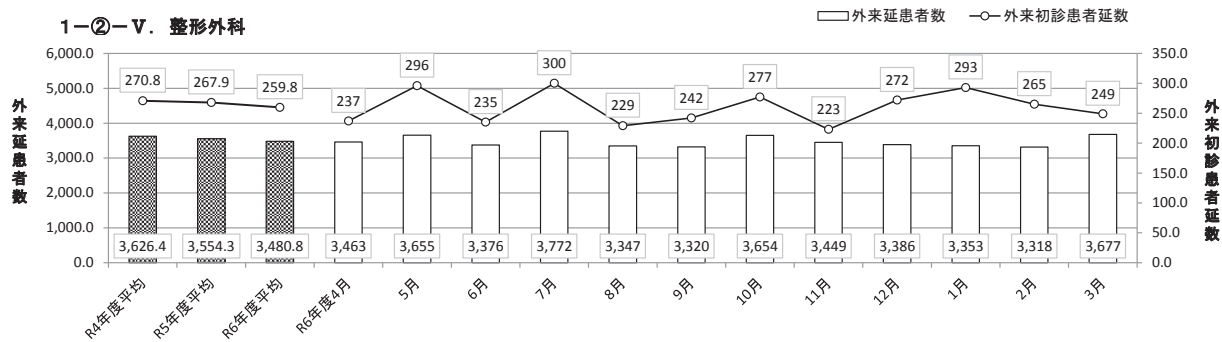


1-②-III. 脳神経内科



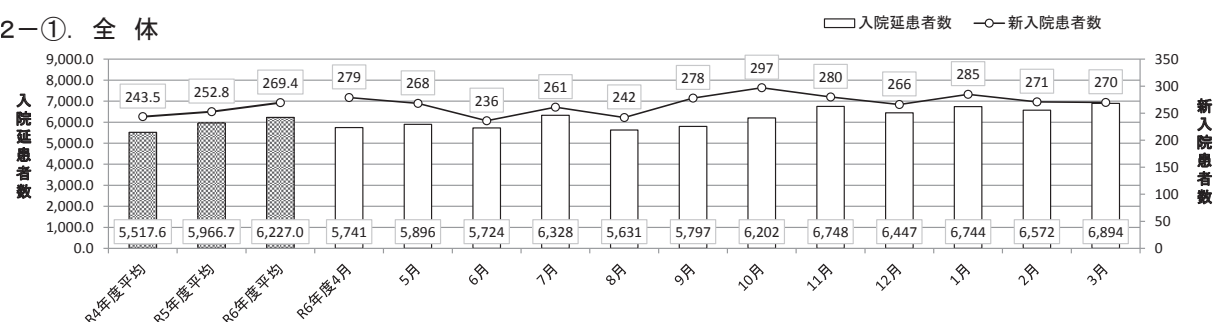
1-②-IV. 外科





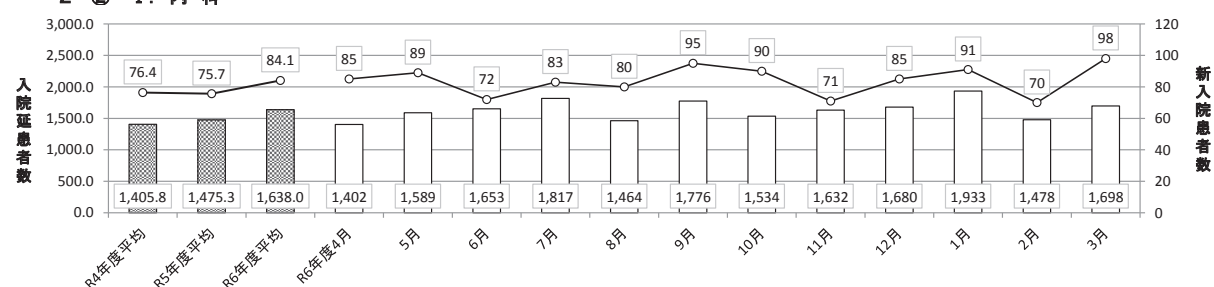
2. 入院患者数

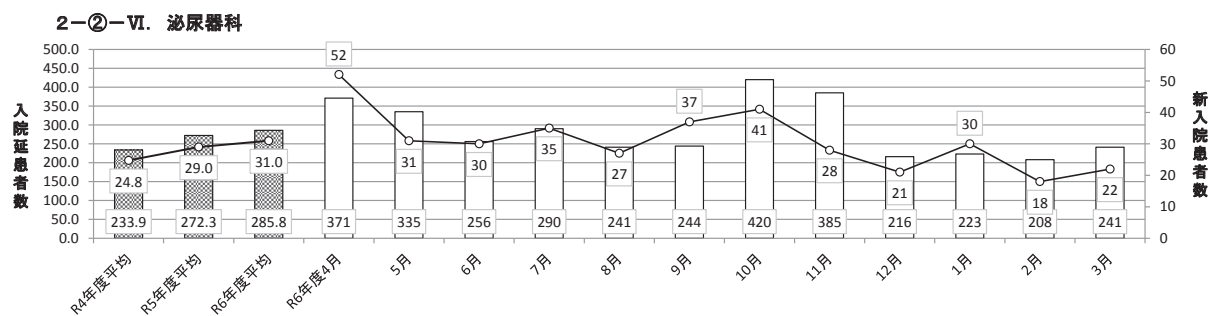
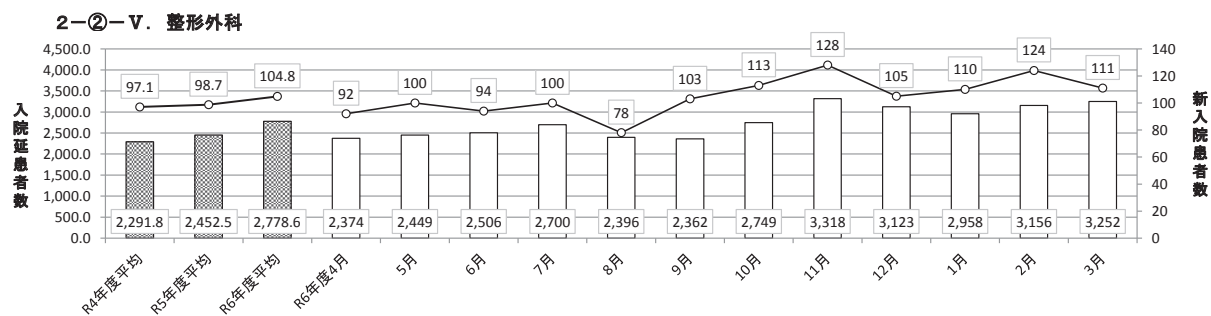
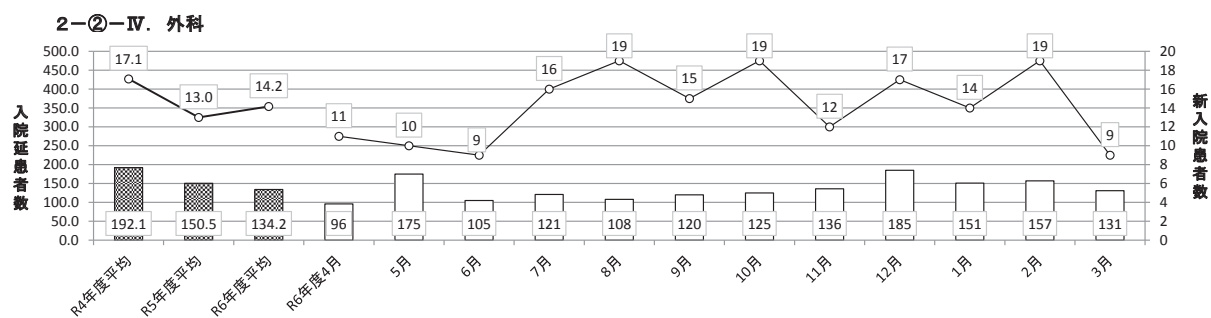
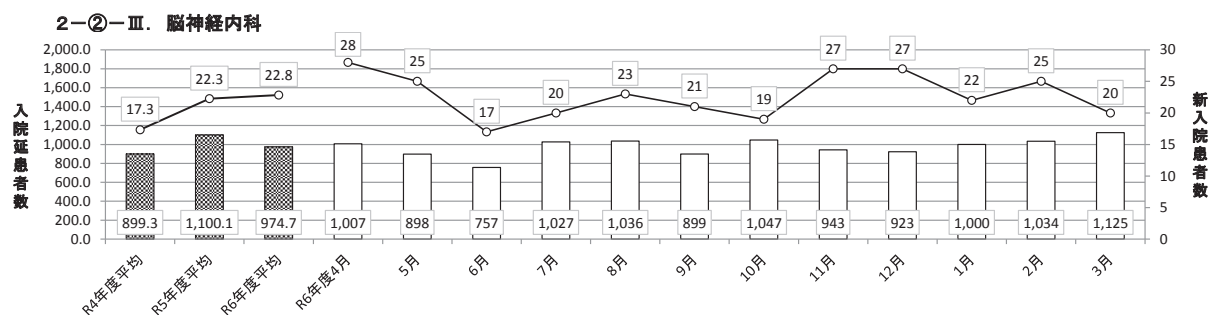
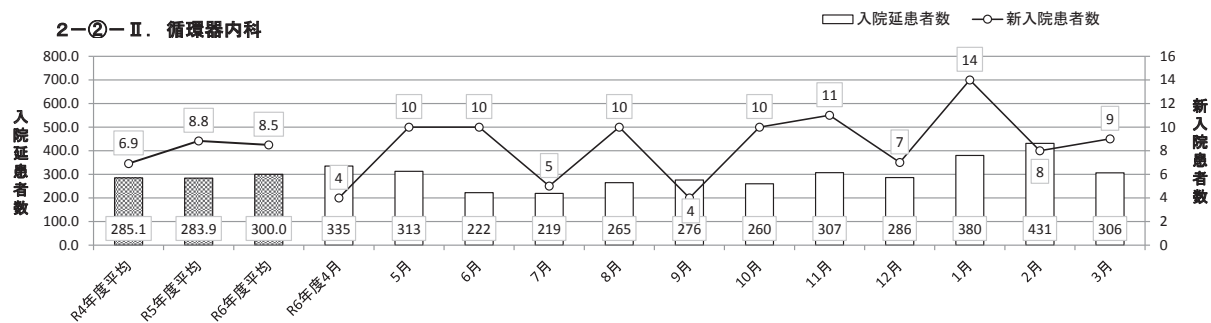
2-①. 全体

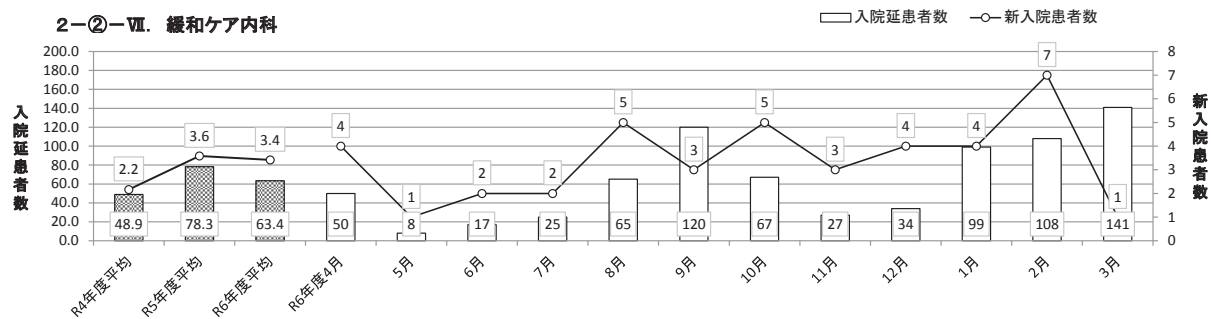


2-②. 診療科別

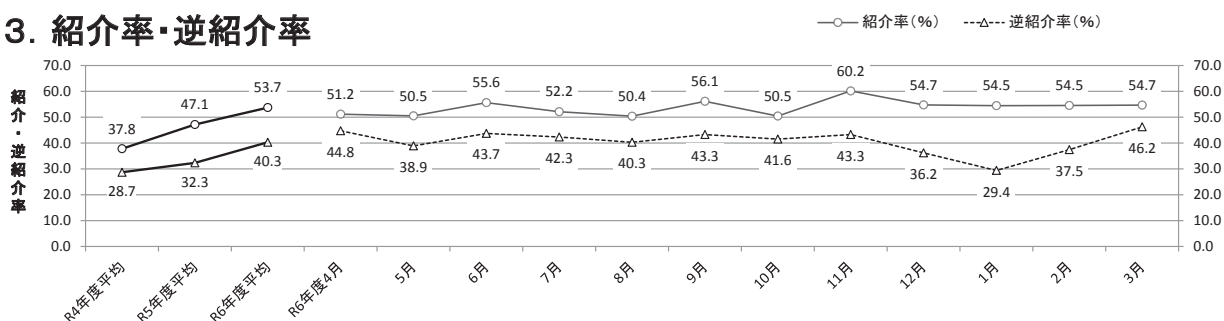
2-②-I. 内科



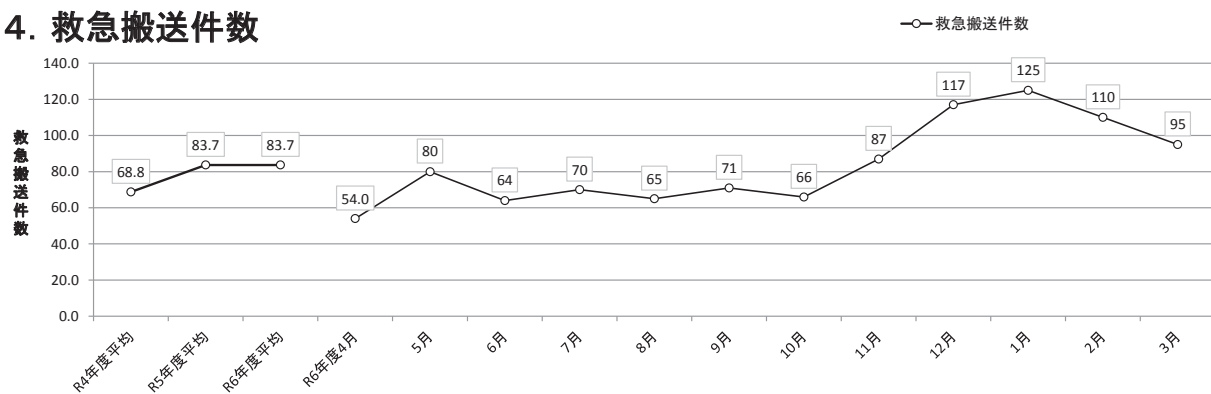




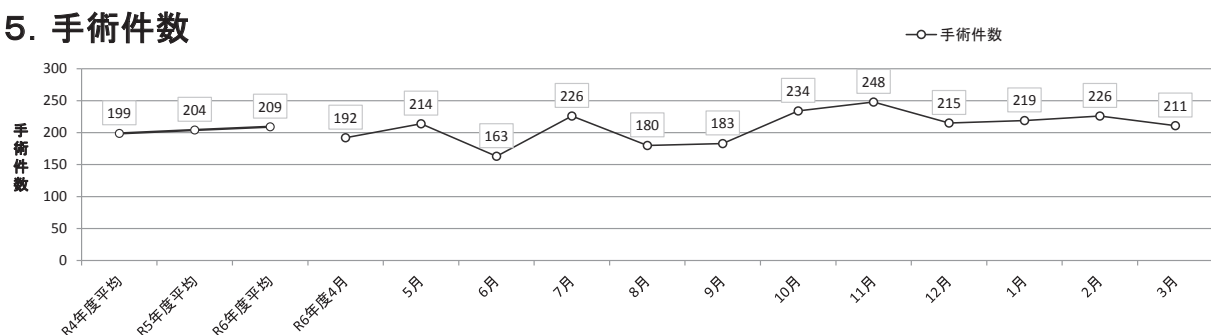
3. 紹介率・逆紹介率



4. 救急搬送件数



5. 手術件数



学生受け入れ

■ 診 療 部

令和6年度 実習受け入れ実績

令和6年度は札幌医科大学より計152名を受け入れました。

養成職種	関連機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医 師	札幌医科大学	6年	地域包括型診療参加臨床実習	令和6年 6月10日～ 7月 4日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 4月 4日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 4月11日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 4月17日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 4月18日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 4月25日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 5月 9日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 5月16日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 5月23日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 5月30日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 6月12日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 6月13日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 6月20日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 6月27日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 7月 4日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 8月15日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 8月28日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 8月29日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 8月30日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 9月 5日	1
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 5月15日	1
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 6月26日	4
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 8月 7日	3
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和6年 9月 4日	6
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 4月17日	7
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 5月 8日	6
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 5月22日	7
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 6月 5日	6
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 6月19日	7
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 7月 3日	6
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 7月17日	7
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 7月31日	6
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 8月28日	7
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年 9月11日	6
		5年	外科臨床実習(選択クリクラ)	令和7年 1月14日～ 1月17日	1
		4年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年12月11日	7

養成職種	関連機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医 師	札幌医科大学	4年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和6年12月25日	6
		4年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和7年 1月22日	6
		4年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和7年 2月 5日	7
		4年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和7年 2月19日	7
		4年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和7年 3月 5日	7
		3年	医学概論・医療総論3(地域滞在実習)	令和6年10月22日～10月24日	7

今年度も多くの医学生に来ていただきました。

地域包括型診療参加臨床実習として4週間滞在型のもの、選択クリニカルクラークシップ、必修クリニカルクラークシップ、地域医療について学ぶ医学総論の一環としてなど、early exposureはもとより3年目から6年目まで来院する学生さんの年次も、その学ぶ内容や枠組みも多様です。

全て大学の教育カリキュラムの一環としての実習ですが、大学ともことなる当院の医療に係わる地域から救急現場、病棟、外来、手術室等幅広い場面を体験し学修されていたとおもいます。

またその中からも将来当院での卒後臨床研修や専門研修、就職等の希望をされるかたも若干名おられるようです。

大変御多忙中、受け入れ調整や直接間接にご指導いただいた各部門部署の皆様に感謝いたします。

来年度も院内挙げてのご協力をお願いします。

文責 脳神経内科医長 松谷 学

■医療技術部

医療技術部における令和6年度の実習受け入れ実績として、4部署において計12校からの実習受け入れ依頼に応じ、6職種、55名の学生が当院で実習を行いました。当院及び医療技術部では人材育成を重要な取り組みの一つに掲げており、実習受け入れの依頼があった際には可能な限り要望に応じていきたいと考えております。また、実習生を受け入れる際には教育機関と連携をとりながら実習内容の質向上に努め、学生が済生会で実習を受けて良かったと思えるような時間を提供したいと考えております。

【栄養管理室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
管理栄養士	名寄市立大学	4年	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	令和6年 5月20日～令和6年 5月31日	1名
	藤女子大学	3年	臨床栄養学実習Ⅲ	令和6年10月21日～令和6年11月 1日	2名

【臨床工学室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床工学技士	北海道科学大学	3年	実務実習	令和6年11月26日～令和6年12月12日	2名

【放射線室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
診療放射線技師	北海道科学大学	3年	臨床実習	令和6年 5月27日～令和6年 5月31日	2名
		3年		令和6年 6月 3日～令和6年 6月 7日	2名
		4年		令和6年12月16日～令和6年12月20日	2名

【リハビリテーション室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
理学療法士	北海道医療大学	4年	臨床実習Ⅳ(総合)	令和6年 5月 7日～令和6年 6月24日	2名
		1年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和6年 7月29日・8月1日・8月 2日	9名
		3年	臨床実習Ⅲ(総合)	令和6年11月 1日～令和6年12月13日	2名
		2年	臨床実習Ⅱ(検査・測定)	令和7年 1月27日～令和7年 2月 7日	2名
	北海道文教大学	4年	臨床実習Ⅳ(総合)	令和6年 6月24日～令和6年 8月 2日	2名
		1年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和6年 9月 2日～令和6年 9月 6日	2名
		3年	臨床実習Ⅳ(評価)	令和6年10月14日～令和6年11月 8日	2名
	札幌医学技術 福祉歯科専門学校	2年	臨床実習Ⅲ(評価)	令和6年 4月 8日～令和6年 4月26日	1名
	東北福祉大学	4年	実践実習Ⅱ	令和6年 5月13日～令和6年 7月 5日	1名
	北海道千歳 リハビリテーション大学	4年	治療学実習Ⅱ	令和6年 7月 1日～令和6年 8月23日	1名
		1年	臨床見学実習	令和6年 9月 2日～令和6年 9月 6日	1名
	日本医療大学	4年	臨床実習Ⅲ	令和6年 8月12日～令和6年 9月27日	1名
		2年	臨床実習Ⅰ(見学①)	令和7年 1月13日～令和7年 1月18日	1名
		2年	臨床実習Ⅰ(見学②)	令和7年 1月20日～令和7年 1月24日	1名
	札幌リハビリテーション 専門学校	4年	総合実習Ⅳ	令和6年 7月 8日～令和6年 8月23日	1名
作業療法士	日本医療大学	4年	臨床実習Ⅲ(評価総合)	令和6年 4月22日～令和6年 6月14日	1名
	北海道大学	4年	臨床実習Ⅳ(総合)	令和6年 6月10日～令和6年 8月 2日	1名
	北海道医療大学	4年	総合臨床実習Ⅱ(総合)	令和6年 7月16日～令和6年 9月10日	1名
	北海道文教大学	3年	評価実習(評価)	令和6年 8月19日～令和6年 9月13日	2名
	北海道文教大学	3年	評価実習(評価)		
	札幌医学技術 福祉歯科専門学校	1年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和6年 9月30日～令和6年10月 4日	1名
	札幌医学技術 福祉歯科専門学校	2年	臨床実習Ⅲ(評価)	令和6年10月28日～令和6年12月 2日	1名
	日本医療大学	3年	臨床実習Ⅱ(評価)	令和6年11月11日～令和6年12月20日 (23日)	2名
	日本リハビリテーション 専門学校	3年 (昼間部)	評価実習(評価)	令和6年12月 2日～令和6年12月20日	1名
	日本医療大学	2年	臨床実習Ⅰ前期(見学)	令和7年 1月14日～令和7年 1月18日	1名
			臨床実習Ⅰ後期(見学)	令和7年 1月20日～令和7年 1月24日	1名
	北海道大学	2年	臨床実習Ⅰ(見学)	令和7年 2月10日～令和7年 2月14日	1名
				令和7年 2月17日～令和7年 2月21日	1名
言語聴覚士	北海道医療大学	4年	臨床実習Ⅱ(評価総合)	令和6年 5月 7日～令和6年 7月11日	1名

■看護部

令和6年度は経験型実習指導の充実と、指導者だけではなく、部署全体で学生に関心を持ち実習指導環境を提供できるよう取り組みを行いました。年に3回実施している研修のうち最後の実践報告会では、経験型実習指導の場面をプロセスレコードを用いて振り返り、多くの学びが得られています。また、部署全体で実習指導環境を調整できる取り組みでは、カンファレンスの学生参加や看護補助者やリハビリとの多職種連携に目を向け、指導者が意識的に行動することができました。今後も、学生や指導者が共に成長できるよう、活動してまいりたいと思います。

文責 看護係長 佐々木 雪絵

令和6年度看護部実習受け入れ実績

教育機関名	学年	学習目的	実習場所	1Gの人数	実習期間	実習人数
北海道看護専門学校	3年	終末期看護	3A病棟・4A病棟	3A病棟2名 4A病棟2名	5月27日～7月12日	8名
北海道文教大学	1年	基礎看護学実習	3A病棟・3B病棟 4A病棟・4B病棟 5B病棟	1クール目3A病棟なし他3名 2クール目全病棟3名	9月2日～9月13日	27名
北海道科学大学	看護学科 2年	基礎看護学実習Ⅱ	3A病棟・3B病棟 4A病棟・5B病棟	1クール目3A病棟～4B病棟3名 5B病棟4名 2クール目4B病棟4名、他3名	7月15日～8月9日	32名
小樽看護専門学校	3年	看護の統合と実践実習	3A病棟・3B病棟 4A病棟・5B病棟	3A病棟3B病棟 4B病棟3名、 4A病棟2名、 5B病棟4名	10月21日～11月1日	15名
北海道看護専門学校	3年	成人老年(高齢者)Ⅲ	3A病棟・3B病棟 4A病棟・4B病棟 5B病棟	1クール目3A病棟2名4A病棟2名 2クール目4B病棟2名5B病棟1名	11月11日～12月13日	7名
小樽看護専門学校	2年	基礎看護実習	3A病棟・4A病棟 4B病棟・5B病棟	各病棟2名	1月20日～1月31日	8名
北海道文教大学	2年	基礎看護実習Ⅱ	3A病棟・4A病棟 4B病棟・5B病棟	3名	2月10日～2月20日	12名
北海道医療大学	4年	在宅看護実習前期	地域看護課	4名	6月10日～6月12日 6月17日～6月19日	8名
	3年	在宅看護実習後期	地域看護課	4名	12月2日～12月4日 12月9日～12月11日	

Ⅲ 部門報告

診療部

■ 総 括

毎年年度替わりで医師の入れ替わりがあり、今年は4月に8名の医師が新たに着任しました。

内科の佐々木耕医師、永洞明典医師、整形外科の岩田健太郎医師、深井康貴医師、脳神経内科の田中聡泰医師、リハビリテーション科の田中雄輝医師、泌尿器科の吉田敬医師、初期研修長野しおり医師です。以上8名を加えた常勤医師30名のほか、各科多数の非常勤医師のサポートを受けて、当院の診療が成り立っています。

また岡田晴貴医師（小樽市立病院）、常見一生医師（KKR札幌医療センター）、嶋悠杜医師（札幌医科大学）、西川大喜医師（札幌医科大学）、江畑亜美医師（山形済生病院）、井上芽依医師（済生会富田林病院）以上6名が地域研修として来てくれて、年を重ねた古株のものから若手まで賑やかな医局となっていました。

一時期の集まりを自粛するムードがやわらぎ、通常の病院行事が行われるようになって、6月に新人歓迎会、7月に潮ねりこみ、12月には忘年会が開催されて、診療部の医師たちも参加して盛り上がっていました。

た。11月には有村架純さんと坂口健太郎さん主演のドラマ「さよならのつづき」がNETFLIXで配信開始となりました。前年に当院の病室や手術室を使ってロケを行っており、医局内でも話題になっていました。けっこう評判がよいようで、みなさんもお覧になってみてください（自分は観ていませんが…）。

今年は7月に北海道済生会創立100周年を迎えました。大正13（1924）年7月に済生会の北海道支部が設立されて小樽市手宮に小樽診療所が開設されました。昭和27（1952）年12月には梅ヶ枝町に済生会小樽北生病院が新設、平成25（2013）年8月現在地小樽築港に移転となりました。そこからすでに11年が経過して、毎日歴史が刻まれていることを感じます。「人と街 心をつなぐ北海道済生会 次の100年へ」をスローガンとして、これからも地域に密着した医療の提供を目指して、診療部一同、日々精進したいと思っています。

文責 副診療部長 安達 秀樹

臨床研修医受け入れ

初期研修医を受け入れています。

職種	関連機関名	実習目的	実習期間	実習人数
医師	札幌医科大学	1年次研修医	令和6年 4月 1日～令和7年 3月31日	1

地域研修医受け入れ

関連する病院から2年目の医師を受け入れています。

職種	関連機関名	実習目的	実習期間	実修人数
医師	小樽市立病院	2年次研修医地域研修	令和6年 4月 1日～ 4月26日	1
	KKR札幌医療センター	2年次研修医地域研修	令和6年 6月 3日～ 6月28日	1
	札幌医科大学附属病院	2年次研修医地域研修	令和6年 7月 1日～ 7月31日	1
	札幌医科大学附属病院	2年次研修医地域研修	令和6年 8月 1日～ 9月30日	1
	山形済生病院	2年次研修医地域研修	令和6年 10月 2日～10月29日	1
	済生会富田林病院	2年次研修医地域研修	令和6年 11月 5日～11月29日	1

内科専門研修医(後期研修)受け入れ

内科専攻の後期研修医を受け入れています。

職種	研修内容	研修期間	研修人数
内科専門医師	内科専門研修	令和6年 4月 1日～令和7年 3月31日	1

内科・消化器内科

【スタッフ】

氏 名	役職名
水越 常德	副院長
宮地 敏樹	院長補佐
明石 浩史	診療部長
佐々木 耕	内科医長
永洞 明典	内科副医長
舩谷 治郎	内科医師
本谷 雅代	非常勤医師（手稲溪仁会病院消化器内科）
志谷 真啓	非常勤医師（JR札幌病院消化器内科）

【当科の概況】

当科では札幌医大消化器内科（旧第一内科）出身者中心にて成り立っており、診療内容は消化器疾患を中心に内科一般診療を行っております。

【当科の診療内容】

診療内容に大きな変化はありません。内視鏡は各医師が上下部内視鏡の検査及び処置に当たっておりますが、札幌医大消化器内科の協力を得て、胆膵は同医局の専門医師（本谷・志谷両医師）が来てくれており、胆道・膵疾患の検査・治療に当たってくれています。どちらかといいますと特殊な手技である胆膵疾患に対する内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的胆道ドレナージ術（EBD）などを数多く処理してもらっています。消化管の治療内視鏡としましては、胃や大腸など消化管の腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）、消化管閉塞に対するステント留置術、出血性疾患に対する各種止血術などを行っています。内視

鏡的粘膜下層剥離術（ESD）につきましては、医局の同門でもある時計台記念病院の消化器内科田沼医師と三橋医師に来てもらっております。消化器とは別に、糖尿病・甲状腺疾患を主に水越が、癌治療・緩和ケアを主に明石医師が担っています。なお、内科専門医の専攻医安丸先生が当院での専攻を終えて、勤医協中央病院へ。永洞明典医師も野口病院から戻っております。研修では無く、経験を重ねた佐々木耕医師が入職しており、消化器疾患を中心に診療しています。

【学会認定施設】

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

【人の動きとこれからに向けて】

安丸卓磨先生が当院の内科専門医研修プログラムを終えて勤医協中央病院へ戻っております、同じく永洞明典先生が他院研修ということで、野口病院に1年間の予定で行っていましたが、当院に戻ってきています。佐々木耕医師が新たに入職しております。毎週火曜日朝8時から内科のカンファをして、主に専攻医の入院症例検討とその他医師の特筆すべき症例検討を重ねております。

文責 副院長 水越 常德

【スタッフ】

高田美喜生	循環器内科部長
國分 宣明	非常勤
村上 直人	非常勤
中田 圭	非常勤

【当科の特徴】

当科は、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心不全、不整脈、弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患などの心血管疾患全般を専門的に扱うとともに、腎疾患および高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病も対象に幅広い分野の診察・治療を行っています。

特に腎機能が低下する原因は多様ですが、原疾患が何であろうとも進行した状態においては体液組成を中心とした共通かつ複数の代謝異常が生じます。

しかも、それぞれの代謝異常自体が腎障害の進行因子として作用し、同時に他臓器の障害も進行させることが多くあります。

高齢化にともない、慢性腎臓病に代表される腎臓病は増加しており、当科外来の患者さんの多くも、腎機能障害を有しています。当科は日常診療において1人1人の病態を理解し、対策を講じることにつとめています。

【令和6年度の取り組み】

診療面では、慢性腎臓病（CKD）の原因疾患である糖尿病性腎症、高血圧性腎硬化症の治療に力を注ぎ、末期腎不全（ESRD）への進行の抑制と心血管病変の発症の予防を目的として、高齢化社会に対応した実践的なCKD対策に努力しています。

【今後の目標】

慢性腎臓病（CKD）が注目されるのは、1つは透析療法や腎移植などの腎代替療法を必要とする末期腎不全（ESRD）患者の増加です。多くの患者のQOLを低下させるだけでなく、経済的、人的に多大なコストを要しています。

2つ目は、CKDは末期腎不全のリスクのみならず、心血管事故や死亡あるいは入院のリスクファクターとして重要であることが、多くの疫学研究により明らかにされています。

すなわち、CKDはその数の多さと腎臓以外の健康障害の危険因子として人々の健康を脅かす重要な疾患として位置づけられています。

CKDは高血圧・糖尿病などの生活習慣病や加齢など、今後も増え続けることが確実な背景因子と深い関連があります。したがって、増え続けるESRDの発生を抑えるため、そして、心血管事故を予防するために、CKDの早期発見と、原因疾患に対する適切な治療に取り組んで行くことが大切であると考えています。

文責 循環器内科部長 高田 美喜生

脳神経内科

【スタッフ】

林 貴士 部長

日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、認知症サポート医

松谷 学 医長

日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、司書資格

藤倉 舞 医長

日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本認知症学会専門医・指導医

平野理都子 医長

日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医、日本認知症学会専門医・指導医

田中 聡泰 副医長

【当科の特徴】

脳神経内科は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉に関連する疾患の診断と治療を行っています。脳・脊髄の疾患としては、脳梗塞や一部の脳出血などの脳血管疾患、記憶障害や遂行機能障害を特徴とするアルツハイマー型認知症、動作緩慢、振戦、筋強剛、姿勢反射障害を呈するパーキンソン病、パーキンソン症状に加えて認知機能の変動や幻視がみられるレビー小体型認知症、運動神経の変性により全身の筋萎縮をきたす筋萎縮性側索硬化症、さらには脊髄小脳変性症や多系統萎縮症などの神経変性疾患があります。そのほか、感染症や代謝障害に伴う脳炎・脳症、中枢神経の脱髄を特徴とする多発性硬化症や視神経脊髄炎なども対象疾患です。

末梢神経の疾患には、先行感染後に四肢筋力低下をきたすギラン・バレー症候群や、再発と寛解を繰り返しながら進行する慢性炎症性脱髄性多発神経炎があります。神経と筋肉の接合部に関わる疾患としては、眼瞼下垂、複視、筋力の易疲労性を示す重症筋無力症があり、筋肉の疾患としては、筋痛や筋力低下を呈する多発筋炎が挙げられます。また、片頭痛や緊張型頭痛といった頭痛、さらにはてんかんなどの機能性疾患も当科の診療対象です。

脳・脊髄・末梢神経・筋肉に関する症状は、神経疾患そのものによる場合だけでなく、肝障害や腎障害、糖尿病、甲状腺機能異常、悪性腫瘍といった内科疾患に起因して出現することも多く、当科では内科疾患の知識を活かしながら診療を行っています。

アルツハイマー型認知症は高齢化に伴い患者数が増加しております。これまで治療はアセチルコリンエステラーゼ阻害薬やNMDA受容体拮抗薬が中心でしたが、従来とは異なるアプローチによる治療、アミロイドβを除去する作用を有する抗体医薬による疾患修飾

療法が2023年9月に日本で薬事承認され、同年12月に薬価収載されました。この薬剤を使用するためには、アルツハイマー病の診断が可能であること、副作用に対応できる体制が整っていることなど、一定の施設基準を満たす必要があります。当院はこれらの基準を満たしており、今後は適応となる患者さんに対して新たな治療を提供できる体制を整えています。

【令和6年度の実績および取り組み】

医療面では、脳神経内科のある急性期病院として、外来診療や他医療機関からの紹介患者の適時受け入れを行っています。脳卒中や免疫性神経疾患などの急性期治療後には、必要に応じ地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟での治療を継続し、病院から地域へとシームレスな患者対応ができるように診療をしています。神経疾患の診療には一般的に時間がかかり、特に初診時にはかなりの時間を要します。新患紹介患者の待ち時間を短縮すべく引き続き新患外来用の予約枠を設けて対応しております。

教育面では、神経内科専門医を4名、日本内科学会総合内科専門医4名を擁し、日本神経学会教育施設となっております。専攻医（後期研修医）の先生に当院独自で神経内科専門医資格を取得できる体制を引き続き取っています。さらに小樽市を含む後志医療圏内で中核的急性期病床および回復期リハビリテーション病床を有する当院を基幹病院とした臨床研修協力施設、新・内科専攻医研修基幹施設の認定を受けております。学会の活動では日本神経学会北海道地方会において症例報告を行っています。札幌医科大学から、必修クリニカルクラークシップ、神経内科選択クリニカルクラークシップの医学部生を受け入れております。また令和4年度から継続して北海道文教大学の理学療法学科の学生に脳神経内科学の講義を行っています。このような形で医学教育や若手医師の育成などに力を入れております。

【今後の目標】

神経疾患の診断と治療を適切に行うとともに、難治例や現時点で治療法が確立されていない疾患に対しても、可能な限り最善のケアを提供してまいります。嚥下機能や呼吸機能の低下を伴う疾患では、栄養摂取や呼吸補助の方法を検討する際に様々な倫理的課題が生じます。患者ご本人のみならず、介護に関わるご家族の思いや希望も尊重し、多職種が協働して最適な療養のあり方を共に考え、意思決定支援を行っていきたいと考えております。

また、急性期治療を要する認知症患者やせん妄を発症した患者のうち、ケア対応が困難な症例について

は、認知症ケア推進室を中心に認知症ケアチームがカンファレンスや回診を実施しています。当科は、医師の立場から認知症ケアやせん妄対応を支援し、病院全体におけるケアの質向上に継続的に貢献してまいります。

引き続き必修および選択クリニカルクラークシップの医学生を受け入れ、神経学的診察から臨床推論、鑑

別診断、必要な各種検査、疾患ごとの治療について実践的に学べるよう指導してまいります。また新・内科専攻医研修基幹施設として専攻医の受け入れをしています。

文責 脳神経内科部長 林 貴士

外科・消化器外科

【スタッフ】

氏 名	役職名	専門・認定資格等
木村 雅美	副診療部長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科 治療認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療 認定医 難病指定医 医師臨床研修指導医 札幌医科大学医学部 臨床教授
松村 将之	外科部長	日本外科学会 専門医・認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療 認定医 日本医師会認定産業医 難病指定医
田山 誠	外科部長	日本外科学会 専門医
島 宏彰	非常勤医師	日本外科学会 指導医・専門医 日本乳癌学会 指導医・専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療 認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 乳房超音波読影認定医 エキスパンダー／インプラント実施医師

【当科の特徴】

当科では、消化器がんの手術や化学療法、腸閉塞・急性胆嚢炎・急性虫垂炎などの急性腹部疾患や良性疾患に対する手術療法を行っています。また、胆石症・鼠径部ヘルニア・乳腺疾患、肛門疾患の専門外来を開設しています。

手術では「体にやさしい手術」を提供するために、「腹腔鏡による外科治療」を積極的に行ってきました。今では「がん手術」でも当たり前の腹腔鏡下手術ですが、まだ黎明期であった1991年より、当院では胆嚢摘出術で開始しております。その後、日本内視鏡外科学会は技術認定制度（内視鏡手術に携わる医師の技術を高い基準にしたがって評価し、後進を指導するにたる所定の基準を満たした者を認定する（総則より抜粋））を2004年より開始しました。厳しい合格率の中、当院では2005年より技術認定医が常に1名以上勤務しており、安全かつ質の高い腹腔鏡手術を提供しております。現在は、高精細な3Dスコープを駆使し大型モニターを配置した手術室で、適応や安全に配慮しつつも積極的に実施しております。胃がん・大腸がんや様々なヘルニア疾患、急性胆嚢炎・急性虫垂

炎・腸閉塞・潰瘍穿孔などの急性腹症での緊急手術にも対応しています。また、胆嚢胆管結石症に対し一期的治療が行える腹腔鏡下胆管切開結石摘出術（1993年開始）においては、国内有数の実績があります。

手術を受けられる患者様には、当院の充実したリハビリテーションスタッフの協力により、術後早期あるいは術前からのリハビリテーションを積極的に行っています。その結果、早期離床し合併症を予防、ご高齢の方でも早期の回復・退院・社会復帰につなげています。

手術療法以外にも、各種がん術後症例を中心に補助化学療法、進行・再発症例に対する化学療法を行っています。乳がん診療では、札幌医科大学乳腺チームと密接に連携しております。また、ニーズの増した緩和ケア医療にも、緩和ケアチームの一員として緩和的外科治療等に積極的な対応しております。

【令和6年度の取り組み】

昨今の消化器外科医不足の影響で3ヶ月間は2名体制となりましたが、各方面の努力により、これまでと同様の常勤医3人体制に復帰しております。今まで通りの診療体制が維持されたことにより、安全かつ質の高い外科診療を行えるように努めました。

鼠径部ヘルニア専門外来を強化し、今まで以上の手術件数となりました。また地域連携の強化により、他院からのご依頼による中心静脈注射用植込型カテーテル設置が増えております。

【今後の目標】

近年、消化器がん治療は手術の低侵襲化、新規化学療法・集学的治療の開発、等々による予後の改善など飛躍的な進歩を遂げています。技術的な進化に遅れることなく研鑽を積み、患者様に還元できるよう努力を続けたいと思います。

地域の医療連携を推進し、これまで同様に内科・消化器内科とも連携して、切れ目のないより効率的な診療を行っていきたいと考えております。また、これからも札幌医科大学乳腺チームと連携し、後志管内のより広い地域の乳がん患者さんに対応してまいります。

文責 副診療部長 木村 雅美

整形外科

【スタッフ】

近藤 真章 名誉院長 整形外科専門医
 和田 卓郎 院長 整形外科専門医、手外科専門医
 織田 崇 診療部長 整形外科専門医、手外科専門医、骨粗鬆症専門医
 濱田 修人 整形外科医長 整形外科専門医
 高橋 克典 整形外科医長 整形外科専門医
 岩田健太郎 整形外科副医長
 深井 康貴 整形外科副医長

【当科の特徴】

後志地区で最も整形外科医が多い医療機関として、1次救急から専門的な手術治療まで幅広く診療を行っています。膝・足、脊椎、手・肘については、常勤医が専門的な診療を担当しています。膝・足では、変形性関節症に対する人工関節置換術のほか、損傷半月板を可及的に温存する縫合修復術、外反母趾矯正術、足関節固定術の件数が多くあります。脊椎では顕微鏡や内視鏡を使用した低侵襲かつ愛護的な術式を採用し、手術件数が右肩上がり増加しています。手や手関節、肘では外傷のほか変形性肘関節症、上腕骨外側上顆炎の鏡視下手術の実績が豊富です。専門外来を担当する非常勤医による人工股関節置換術や鏡視下腱板修復、人工肩関節置換術も、2-4件/月のペースで手術を行っています。救急車の搬入や近隣医療機関からの転院要請はほぼ断ることなく受け入れ、合併症や入院中に発生した偶発症に対しても他診療科からの力強いバックアップを得て対応しています。

【令和6年度の取り組み】

脊椎担当の濱田医長が3年目、膝・足担当の高橋医長が非常勤から数えて5年目となり、さらに手術件数が増加しました。岩田副医長、深井副医長の専攻医2名体制となり、より多くの救急搬入に対応できるようになりました。

【今後の展望】

各専門部位で日本トップレベルの診療を提供すること、小樽で診療を完結できること、救急患者の受け入れ要請に迅速に対応することを目標としています。地域医療とサブスペシャリティの両立により、小樽・北後志地区で患者と医療者の双方に選ばれる整形外科を目指します。初期研修医の育成や札幌医大整形外科と連携して医学生の実習指導にも取り組み、診療・研究・教育を3本の柱とした社会貢献を進めていきます。

手術実績(令和6年1-12月) 総手術件数 1210件

骨折・外傷		変性疾患など	
橈骨遠位端骨折	81	肩関節唇形成術	1
上肢骨折その他	106	ARCR	12
大腿骨近位部骨折	167	TSA+RSA	6
下肢骨折その他	108	TEA	1
骨盤骨折	2	肘部管症候群	14
脊椎骨折	7	手根管症候群	49
腱・神経損傷	14	滑膜切除(肘・手)	9
開放骨折(指以外)	4	腱移行術	3
開放骨折(指)	1	関節形成(手・指)	14
抜釘	121	関節固定(手・指)	2
計	611	腱鞘切開	118
		上肢その他	24
		THA	42
		TKA	66
		膝関節鏡手術	41
		膝靱帯再建術	17
		膝周囲骨切り術	5
		外反母趾	7
		下肢その他	35
		腫瘍	28
		頸椎	11
		胸椎	5
		腰椎	89
		計	599

文責 診療部長 織田 崇

泌尿器科

【スタッフ】

堀田浩貴 副 院 長：

日本泌尿器科学会専門医・指導医

ICD（インфекションコントロールドクター）

日本性機能学会専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本医師会認定産業医

日本化学療法学会抗菌化学療法認定医

安達秀樹 副診療部長：

日本泌尿器科学会専門医・指導医

日本性機能学会専門医

吉田 敬 医 長：

日本泌尿器科学会専門医

【当科の特徴】

泌尿器科の診療は、日本泌尿器科学会認定の専門医3名が担当いたします。また当院は、日本泌尿器科学会の専門医拠点教育施設の認定を受けております。

泌尿器科は、副腎・腎臓・尿管・膀胱・前立腺・陰茎・尿道・精巣などを対象として、これらのさまざまな症状や疾患を診察・治療する診療科であります。

診療内容は、泌尿器科一般（排尿障害、尿路感染症、尿路結石など）、悪性腫瘍、慢性腎臓病（腎不全、透析）、性機能障害（勃起障害：ED）などを中心に多岐にわたっております。

患者さんの病気・病状に合わせて、最善と思われる治療方法を検討し、十分な説明を行います。患者さんもお自身の病気・病状について充分にご理解いただいたうえで、説明と同意のもとに治療を行うことを目標として、日々診療に従事しております。

【実 績】

I. 外来

外来は火曜日と金曜日は午前2枠、月曜日、水曜日、木曜日は午前各1枠、そして火曜日午後に性機能専門外来を行っています。令和6年度の外来延患者数は、8,905名でした。紹介率は59.8%、逆紹介率は102.2%でした。主病名による上位疾患は、前立腺肥大症、急性膀胱炎、過活動膀胱、神経因性膀胱、などでした。外来化学療法は前立腺がん・尿路上皮がん症例などを中心に積極的に取り入れています。

II. 入院

令和6年度の延べ患者数は3,430名、新入院患者数は372名、手術件数は326件、平均在院日数は8.2日でした。主な入院病名は、膀胱がん、前立腺がん、尿管結石症、慢性腎臓病、水腎症などでした。札幌医科大学泌尿器科と綿密な連携を図り、集学的治療により改善が期待できる症例は積極的に紹介を行っています。

III. 透析医療

他の治療法による改善が見込めず、自覚症状も認められる末期慢性腎臓病症例に対しては、今後の治療方法（血液・腹膜透析、腎移植等）に関する十分な説明を行っております。血液透析の導入は、本人の十分な理解が得られた症例に対して行っております。令和6年の新規導入患者数は11名でした。おおよそ60名の血液透析患者さんに対して、安全かつ快適な医療を提供できるように泌尿器科医師ならびにスタッフ一同日々奮闘しております。また長期的な入院による血液透析が必要な場合には、近隣の透析施設に治療を依頼しております。

【令和6年度の取り組み】

安全な医療の提供を第一として、患者さんが当院にかかって良かったと思っただけのような泌尿器科医療の提供を目指しております。厚生労働省からも求められている医師の働き方改革実現のため、入院中は外来で担当した医師を中心に、3名の医師がチーム制で診療を行っております。

【今後の目標】

札幌医大泌尿器科との提携を密として、より安全かつ信頼できる医療の提供ならびに地域貢献ができるような医療の実践を心掛けております。

文責 副院長 堀田 浩貴

【スタッフ】

菊地未紗子 部長

（精神科専門医・指導医、精神保健指定医、精神腫瘍登録医、産業医、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学特定指導医）

【当科の特徴】

2020年4月に新設された当科は5年目を迎えました。入院・外来患者さんに対し、多職種からなる「緩和ケアチーム」を立ち上げ活動しております。医師、薬剤師、看護師、理学療法士、栄養士、社会福祉士の他、診療放射線技師も加わり、より多方面でのサポートを、より細やかで丁寧な、時間をかけて、一人一人の患者さん・ご家族への対応が可能となりました。

がんが診断された時から、その治療と並行して、身体だけでなく、心のつらさ、苦痛を和らげ、できるだけその人らしい快適な生活が送れるように外来・入院を通してサポートさせていただいております。患者さんが亡くなられた後の家族ケアとしても遺族外来を開設し、大切な存在を失った後の心の哀しみのケアをサポートしております。

また、緩和ケア部門に限らず、他科通院中・入院中の患者さんにおける心理・社会的な問題についても対応させていただいております。不眠や不安、意欲低下、興味関心の減衰等の抑うつ症状や、認知症に伴う不穏、興奮、拒否、不眠等、様々な精神症状について精神医学的に対応しております。

【診療内容・令和6年度の取り組み】

緩和ケア外来では、他院からの紹介と院内からの紹介が半数ずつを占めております。積極的な治療を終え、最後は住み慣れた小樽・後志で過ごしたいと来院される方が多くなっております。小樽市内に限らず、余市や岩内などの周辺地域の方々も数多く受診していただいております。各市町村の医療機関とも連携をはかっています。

また、希望者ほぼ全例にACP（Advance Care Planning）を実施しています。残された時間を本人らしく、本人が望む医療やケアが提供できるよう事前に本人・家族・医療者で話し合い、本人の意向にそった対応ができるように体制を整えています。コロナ禍で在宅医療を希望される方も多く、訪問診療や訪問看護等、地域の皆様のお力もお借りしながら本人の望む最期を迎えられるよう取り組んでおります。このような地域の方々の協力もあり、希望する場で亡くなる事ができた方は85.7%と高く、在宅で最期を迎えられた患者は全国平均より高く推移しております。

なるべく身体能力を保持したまま自宅で過ごした

い、最期まで自分のことは自分でしたい、等の要望をサポートすべく、緩和ケア外来通院中の患者さんを対象に外来リハビリテーションの積極的な導入を行っております。化学療法中の口腔トラブルでの食事摂取量の低下や、誤嚥性肺炎の予防の観点から、口腔ケアの指導や近隣の歯科医師とも連携し歯科治療の連携もはじまりました。

2021年5月から取り組んでいる「緩和ケア医療の充実」をはかるための「緩和ケアの早期からの介入」については、入院されたがん患者において原則全員に緩和ケアの情報提供を行い、希望される患者・家族へ緩和ケアチームの介入を開始し、概ね9割以上の患者さんが入院をきっかけに緩和ケアの介入を希望され、より濃厚な緩和ケアを提供することが可能となりました。

全国的にも珍しい試みとして心不全の緩和ケアの導入を開始しています。心不全チームと連携し、週に1回カンファレンスを行い、心不全に伴う身体症状の緩和のみならず、退院支援や意思決定支援等、緩和ケアチームもサポートさせていただき、より濃密なケアや医療が提供できるよう邁進しております。

また、当院ではせん妄を起こす前に予防的に介入することを徹底し、入院時にスクリーニングを実施し、ハイリスク患者においては認知症ケアチームと連携し、時に精神科医の介入についても継続して介入しております（リエゾン介入件数平均150件/月）。ハイリスク患者へ入院時から徹底的に介入を行ったことで、せん妄予防率は87%と良好な結果となっており、認知機能への影響や入院期間の短縮等、様々なメリットが得られるようになっていきます。

その他、入院中のメンタルケアや認知症に伴う精神症状のコントロール、不眠や不安等、幅広くご依頼いただき対応させていただいております。

また、当院が後志では初めて、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医の特定研修施設に認定され、身体疾患を有する精神症状をもつ患者への知識をもつ指導医・専門医が対応し、今まで以上に質の高い医療を提供できるようになりました。

【今後の目標】

がん患者さんや心不全の終末期患者さんの緩和ケアを担い、患者・家族ケアについて満足いく医療が提供できるようチーム一丸で頑張っております。

後志管内の緩和医療を担うべく、より良い緩和ケアを提供できるよう多職種・地域医療の皆様とさらに協力しあい、質の高い医療を提供していきたいと思っております。

文責 部長 菊地 未紗子

放射線科

【スタッフ】

小野寺耕一 部長 日本医学放射線学会 放射線科専門医、放射線診断専門医、研修指導者
日本核医学会 核医学専門医、PET核医学認定医

【当科の特徴】

放射線科の診療は、日本医学放射線学会認定の放射線診断専門医1名が担当し、当院で撮像されたCT・MRI検査の画像を読影し、画像診断報告書を作成しています。

当院では、画像診断管理加算2（当院で撮像されたCT・MRIのうち、少なくとも8割以上の読影結果が、翌診療日までに報告）を算定しており、迅速かつ質の高い画像診断の提供を目標として、日々診療に従事しております。

また、近隣の開業医などの医療機関からのCT・MRIのご依頼にも対応しており、外来での紹介患者の診察・問診、検査後の迅速な画像診断報告書作成を行っております。

【実績】

●令和6年度（2024年度）の実績（2024年4月～2025年3月の12ヶ月間）

・検査件数：

CT 6,146件 MRI 3,442件 合計 9,588件

・読影件数：

CT 5,856件 MRI 3,264件 合計 9,120件

・読影率：

CT 95% MRI 95% 合計 95%

・読影率（翌診療日までに報告）：合計 91%

*画像診断は、勤務日（時間外の検査を含む）、土日祝に撮像された検査を読影

*休暇取得日の検査は原則として除くが、後日読影依頼いただいた検査は読影

●CTの読影件数

	内科	循内	脳内	外科	整形	泌尿	透析	緩和	放科	健診	小児	読計	検計	読率
4月	155	13	36	22	115	94	8	0	6	0	19	468	496	94%
5月	182	20	38	31	153	92	10	2	11	0	15	554	554	100%
6月	144	12	31	18	114	89	6	6	4	2	16	442	454	97%
7月	159	19	39	20	133	98	12	3	9	14	16	522	538	97%
8月	145	11	28	29	106	108	4	5	6	4	13	459	482	95%
9月	162	13	40	20	131	88	4	3	12	2	15	490	506	97%
10月	148	7	36	21	126	86	9	5	3	2	15	458	492	93%
11月	136	19	36	29	170	93	6	8	4	5	17	523	546	96%
12月	164	12	45	25	165	66	7	2	9	4	15	514	536	96%
1月	174	31	33	18	151	77	11	7	3	4	14	523	573	91%
2月	114	17	30	26	141	57	5	7	3	0	16	416	482	86%
3月	148	16	33	32	139	83	3	7	6	6	14	487	487	100%
読計	1831	190	425	291	1644	1031	85	55	76	43	185	5856	6146	95%

●MRIの読影件数

	内科	循内	脳内	外科	整形	泌尿	透析	緩和	放科	健診	小児	読計	検計	読率
4月	27	2	68	1	170	17	0	0	1	1	0	287	304	94%
5月	32	0	50	3	181	20	0	0	1	21	1	309	309	100%
6月	31	1	64	1	162	13	0	1	1	20	1	295	311	95%
7月	45	1	52	5	192	12	0	0	1	13	1	322	335	96%
8月	25	1	50	2	151	13	0	0	0	5	0	247	260	95%
9月	31	2	43	2	138	12	0	0	1	7	0	236	249	95%
10月	23	0	40	0	153	14	0	0	5	7	0	242	261	93%
11月	34	1	53	4	174	7	0	2	0	17	1	293	305	96%
12月	31	1	56	3	158	10	0	0	3	18	0	280	288	97%
1月	27	0	52	1	160	8	0	0	0	9	2	259	283	92%
2月	21	2	43	1	138	13	1	0	4	5	0	228	271	84%
3月	27	3	48	3	161	10	0	0	2	12	0	266	266	100%
読計	354	14	619	26	1938	149	1	3	19	135	6	3264	3442	95%

* 読計：当院で撮像した検査のうち、読影した検査の件数の合計（月毎／診療科毎の合計）

* 検計：当院で撮像した検査の件数の合計（月毎の合計）

* 読率：当院で撮像した検査のうち、読影した検査の件数の割合（月毎の合計）

* 太字（表の最下行／右端3列）：上記のそれぞれについて、年度における総計

* 表の数値はResultManager（放射線科のレポートシステム）を用いて抽出した件数

その他、院外活動として、札幌医科大学放射線診断学の非常勤講師として、医学部の学生（3年生）に系統講義を行っております（年1回）。

【令和6年度の取り組み】

検査依頼医の先生方の診療にお役立ていただけるような、迅速かつ質の高い画像診断の提供を目指しております。

【今後の目標】

画像診断管理加算2について、引き続き算定を継続していくとともに、画像診断報告書作成の迅速化ならびに質向上を目指していきます。

文責 部長 小野寺 耕一

医療技術部

■ 総 括

【医療技術部について】

※令和6年4月1日時点の状況を記載。

◆部門構成

- ・医療技術部長
- ・薬剤室
- ・臨床検査室
- ・放射線室
- ・リハビリテーション室
- ・栄養管理室
- ・臨床工学室

◆医療技術部職員数 132名

◆職員構成

薬剤師	14名
臨床検査技師	9名
診療放射線技師	10名
理学療法士	42名
作業療法士	26名
言語聴覚士	8名
管理栄養士	7名
臨床工学技士	12名
助手	4名

【医療技術部理念】

私たちは、専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します。

【令和6年度医療技術部目標】

- ☐確かな技術と知識の習得
- ☐安全・安心・納得して頂ける医療の提供
- ☐患者・家族・地域の満足度向上

【令和6年度の活動報告】

令和6年度は、前年の5月に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行したことで、数年ぶりにコロナの影響を受けない1年となりました。

しかし、コロナの影響を全く受けなかったかといえどそうではなく、コロナ病棟として使っていた地域包括ケア病棟が本来の姿に戻り、病院全体の入院患者数こそ大きく変化がなかったものの、地域包括ケア病棟への入院を増やしたために、急性期病棟や回復期病棟の患者が減少し、医療技術部ではリハビリテーション室スタッフなどが人員配置などの対応に苦慮しました。

また、4月より始まった医師の働き方改革に伴うタスク・シフト／シェアの動きが加速し、医療技術部でも臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師の3職種が、医師の負担軽減を目的に色々な取り組みを開始しました。特に臨床工学技士は「麻酔アシスタント臨床工学技士」制度を、札幌医科大学 麻酔科学講座からの協力を得ながら立ち上げ、麻酔科医の負担軽減を図り始めました。また、この3職種は告示研修が義務化され、みんなで協力して全スタッフが研修を終えられるよう取り組んでおります。

一方で、医療技術部の部門理念であります「専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します」を実践できるように、今年度もみんなで協力し、済生会ビレッジで毎週火曜日開催される健康相談会に各職種が交代で赴き、地域住民の健康増進に貢献させていただきました。

さらに、済生会フェスでは各職種それぞれの専門性を活かして、各種検査や健康相談を提供させていただきました。

【今後の目標】

医師の働き方改革に伴うタスク・シフト／シェアの流れを円滑に進めていくことが2025年度の目標になります。具体的には麻酔アシスタントを増員し麻酔科医の負担軽減を図ること。また、診療放射線技師による静脈路確保も取り組みたいと考えております。各職種は今までの業務にこだわることなく、新しいことに取り組み、タスク・シフト／シェアだけでなく業務の効率化にも努めなければならないと考えております。

さらに、効率化に伴う費用削減だけでなく、収益増を目指せるリハ室は、昨年比1単位多くリハビリを提供する目標を掲げております。

医療を取り巻く情勢が厳しいなか、医療技術部は少しでも病院収支に貢献できるようスピード感を持って取り組みます。

一方、技術面に関しても、各個人の努力、部署での取り組みはもちろん、医療技術部で横断的に活動する教育委員会が中心となって医療技術部スタッフ全員の知識向上に取り組み、医療技術部の目標である『確かな技術と知識の習得、安全・安心・納得して頂ける医療の提供、患者・家族・地域の満足度向上』の3つの目標を継続的に向上させていきたいと考えています。

文責 医療技術部次長 松尾 覚志

薬 剤 室

【スタッフ】

役 職	氏 名	認定・専門資格等
室 長	上野 誠子	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員
課 長	鈴木 景就	日病薬病院薬学認定薬剤師 緩和薬物療法認定薬剤師（日本緩和医療薬学会） 麻薬教育認定薬剤師（日本緩和医療薬学会） NST専門療法士（日本静脈経腸栄養学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
主 任	小野 徹	日病薬病院薬学認定薬剤師 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会） 感染制御認定薬剤師 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
主 任	一野 勇太	腎臓病薬物療法認定薬剤師（日本腎臓病薬物療法学会） 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
薬剤師	笠井 一憲	NST専門療法士（日本静脈経腸栄養学会） 健康食品管理士 腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師（日本腎臓病薬物療法学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師 日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員 食の安全管理士（日本食品安全協会） JPALS認定薬剤師（日本薬剤師会）
	青木有希子	糖尿病薬物療法認定薬剤師（日本くすりと糖尿病学会） 日本糖尿病療養指導士 高血圧・循環器病予防療養指導士（日本高血圧学会・日本循環器病予防学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
	中村 圭介	老年薬学認定薬剤師（日本老年薬学会） 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト 骨粗鬆症マネージャー（日本骨粗鬆症学会）
	芦名 正生	外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	佐渡 望	高血圧・循環器病予防療養指導士（日本高血圧学会・日本循環器病予防学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
	又村 健太	
	庄 瑞穂	
	木島 紀子	
	松田 浩紀	
薬剤助手	西野 純子	
	茂野美奈子	

【部署の特徴】

『安全な薬物療法を支援する』を基本に主に入院患者さんに対する治療の支援を行っています。内服薬・注射薬調剤が基本業務ではありますが、各病棟に担当薬剤師を配置しチーム医療の一員として業務を行っています。薬剤師としての基本的な知識・技能を持ち合

わせた上で、各分野における各種認定・専門薬剤師の資格を取得しながら日々自己研鑽に努めています。薬剤師間の風通しも良好で、専門知識を持つスタッフとディスカッションを行い、適切な薬物療法の実践をめざし日々業務を行っています。

【実績】

調剤業務件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方せん枚数 (枚)	院外処方せん	5,366	5,554	5,111	5,637	5,357	5,275	5,663	5,415	5,640	5,355	4,961	5,327
	院内処方せん	35	51	60	44	49	31	32	29	67	53	37	25
院外処方せん発行率(%)		99.4	99.1	98.8	99.2	99.1	99.4	99.4	99.5	98.8	99.0	99.3	99.5
入院処方せん(枚)		4,550	4,350	3,783	4,718	4,050	4,238	4,899	4,844	4,692	4,562	4,574	4,865
入院注射処方せん(枚)		3,666	3,892	3,773	4,917	2,804	3,634	3,738	4,506	4,296	4,824	3,812	4,321

診療報酬関連

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
薬剤管理 指導料	ハイリスク薬	310	290	251	297	229	252	323	333	318	271	274	313
	その他の薬	222	193	205	217	146	210	238	225	184	231	242	251
	合計	532	483	456	514	375	462	561	558	502	502	516	564
	退院時薬剤情報管理提供料	88	65	72	70	66	89	141	109	104	77	91	97
	麻薬管理加算件数	8	13	15	14	10	17	8	5	7	10	12	21
無菌製剤 処理料	無菌製剤処理料1	46	48	44	43	44	41	56	47	44	55	58	68
	無菌製剤処理料2	155	124	181	310	204	219	208	294	170	145	128	158
抗悪性腫瘍薬処方管理加算		41	47	44	51	42	44	43	41	40	53	40	51
病棟薬剤業務実施加算		586	577	528	623	511	594	645	667	625	688	653	651
特定薬剤使用管理料(TDM)		5	4	4	7	3	2	7	7	5	10	5	3
薬剤総合評価調整加算		0	1	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0
がん患者指導管理料ハ		8	3	9	4	2	4	2	5	6	8	5	5

その他

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来面談件数(入院前)	47	50	45	52	42	52	74	61	41	50	38	41

【令和6年度の取り組み】

薬剤師14名、調剤助手2名、薬剤師が欠員1名の状態でしたが業務内容を縮小することなく継続できました。業務内容としては、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・医薬品情報管理(DI)等の調剤室業務の他、薬剤管理指導業務(病棟業務)・チーム医療への参画(感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、褥瘡対策チーム、認知症ケアチーム、FLSチーム)を行いました。

後発医薬品の使用推進を目指し、後発品使用割合は90%以上を目標に設定しています。随時使用状況を調査し、薬事委員会を通して後発医薬品への変更を行う事で90%以上を達成できています。

薬剤管理指導件数は500件/月を目標に設定しました。6ヶ月ごとに人員配置の変更を行い、業務の平坦

化を目指しつつ業務の効率化を図る事ができ、平均502件/月と目標を上回る事ができています。病棟薬剤業務実施加算は算定要件でもある週20時間以上の病棟業務を行う事で継続して算定しています。

令和6年度は退院時薬剤情報管理提供料の増加を目指した取り組みを行いました。令和5年度の実績は23.1件/月でしたが、記録方法の見直し、配布物の簡素化等により業務の効率化が図れ、令和6年度は89.1件/月と大きく増やすことができました。

薬学実務実習については北海道科学大学1名に対して2ヶ月半におよぶ長期の実習を滞りなく終了することができています。

地域における役割としても小樽薬剤師会、後志病院薬剤師会との連携を深め情報の共有を図っています。

臨床研究に関しては全国学会において4件の発表を行っています。学会・研修会については昨年度までは

オンラインで参加しやすい環境でしたが、現地開催が増えており参加が難しくなっている現状があります。

【今後の目標】

令和6年度は効率的な業務体制を構築する事ができましたが、院外処方箋疑義照会簡素化プロトコルの作成、プロトコルに基づく薬物治療管理（PBPM）の導入について取り組みは始めてはいるものの運用を開始する事は出来ませんでした。導入により勤務医、外来業務の負担軽減を図る事ができるため令和7年度中の運用開始を目指します。

今後も他部署の協力を得ながら病棟・外来業務を継続していきます。また、医薬品情報管理室を中心に後発医薬品への切り替えも薬事委員会の提案を継続していきたいと思います。

チーム医療の一員として質の高い業務を行うため、認定・専門薬剤師の養成・更新等などの人材育成を今後もすすめていきます。

文責 技術課長 鈴木 景就

仕事とピザ作り

薬剤室 西野 純子

2015年の入職当時、私は助手でありながら、薬剤室のスタッフに手伝ってもらいながら、何とか業務をこなしていました。気づかぬうちに、誰かがわたしのすべき仕事を済ませてくれていることも度々ありました。私は誰だかわからないそのスタッフの事を「妖精さん」や「天使さん」と心の中で呼び、感謝しながら過ごしていました。

今でもサポートを受けながら仕事をしていますが、少しずつ慣れ、精神的に余裕が出てきて、仕事の手順や進め方で思うところがでてきました。

それは我が家にピザ窯がきて、夫婦でピザ作りをしていて、これは仕事とも共通するのでは？と思ったことです。

ピザ作りでトマトソースを作るときに知ったのですが、缶詰のトマトを手で潰して塩を混ぜただけでも、十分美味しいです。手間暇かけたものだけが良い結果を出すとは限らない。仕事でも手間をかければ良いという思い込みを捨てて取り組むことで、得られるものがあるのではないのでしょうか。

また、気を付けなければならないと思うこともあります。ある時ピザ生地作りで、塩をレンピ通りの7gではなく6gにしたところ、出来上がった生地の味が明らかにいつもと違ったのです。少量の違いでも結果に大きな違いが出る場合があります。仕事でも正確さが求められることに手を抜いてはいけないと感じました。

まだまだ試行錯誤中の仕事とピザ作りですが、妖精さん、天使さん、手間を省き正確に計量して作ったピザをご馳走したいので、これを読んだらぜひ名乗り出てください！



電気ピザ窯

臨床検査室

【スタッフ】

木谷 洋介 技術課長
 岡本 晃光 技術主任 糖尿病療法指導士
 高橋 賢規
 小林 拓真
 伊藤 朱莉
 嶋 優人
 高橋 咲衣
 中畑亜紀子
 中川 仁奈
 森 尚美 (助手)

【部署の特徴】

昨年5月から新型コロナウイルスが2類から5類に分類され検査業務内容にも変化があり、術前検査や健診受診者が増え、検体検査や生理検査の検査件数が軒並み増加傾向を示しています。

また、新型コロナウイルス検査件数は減少しています。

【実績】(患者数・手術件数などは、別項目にて記載します)

(検体検査)

生化学	免疫	血液	検尿	血糖・HbA1c	止血機能	血型	交差試験	輸血人数	COVID-19
41087	14605	36454	25548	35573	6133	1967	1263	510	5334
▼51	△2105	△569	▼316	△655	△435	△232	△311	△64	▼1756
99.8%	116.8%	101.6%	98.8%	101.8%	107.6%	113.4%	132.7%	114.3%	75.2%

(生理検査)

心電図	ホルター心電図	肺機能検査	眼底検査	聴力検査	トレッドミルマスター	ABI
7830	94	1430	343	4188	6	195
△199	△3	△43	△69	△113	△4	▼29
102.6%	103.3%	103.1%	125.1%	102.8%	300.0%	87.0%

頸動脈エコー	NCV (技師)	脳波	睡眠検査	心エコー (技師)	下肢静脈エコー
64	0	201	8	981	99
▼19	0	△4	0	△52	▼28
77.1%	0%	102.0%	100.0%	105.6%	78.0%

【令和6年度の取り組み】

- ・不定期ですが済生会ビレッジでの健康相談を実施。
- ・他職種とのタスク・シフト／シェアの実施。

【今後の目標】

昨年同様診療部・看護部など病院全体から検査に関して必要とされる様々な事柄に丁寧に対応していきます。医療技術部との横のつながりをより密にして患者さん、病院運営に更に貢献できるように活動していきます。臨床検査室では、若手技師が学びやすい環境と働きやすい職場にしていきます。

文責 技術課長 木谷 洋介

成長と老化の違い

臨床検査室 高橋 賢規

「人は歩みをやめたときから老いが始まっていく」昔卒業の寄せ書きに書かれていた先生の言葉をふと思い出しました。人間の成長というものは毎日近くで見ていると実感がないもので、令和6年度の写真フォルダをみていると身近な人の成長がみえました。長男にとっては幼稚園が最後の年。来年からは小学校、長女は幼稚園に入園します。この節目にお祝いという意味も込めて旅行・キャンプなどイベント盛りだくさんでした。長い距離を歩くので抱っこをせがまれるかと覚悟していましたが長男が一步一步力強く歩き時には長女を励まし、しっかりしたお兄ちゃんになっていました。冬は長男が初めてスキーに挑戦しました。スキー

セット・ゴーグル・ヘルメットなどいろいろ買い揃えて、スキースクールへ申し込むと踊り出すほどワクワクが止められません。知らない人たちの中に混ざって斜面を滑ってくるなんて大丈夫だろうか？と見守っていたら熱心に練習に励みスクールのない日も、もっと滑りたいスキー場へ行きたいとねだられました。最後の授業ではAチームへ昇格するほど、のめりこんでいました。肉体が、という意味でも挑みやり遂げるという精神面でも人生を歩みだす様子がみてとれました。40歳の自分はどうか。休日に一緒に滑ったスキーでクタクタになっているほど怠けていいのだろうか？歩み出さなければ老いていく一方だ。仕事でもプライベートでも貪欲に学び続けければ暗闇の荒野の中に進むべき道を切り開けるかもしれません。モヤモヤした日々、怠惰な精神、余分な脂肪に別れを告げて目指すは次の世界。



放射線室

【概 要】

令和6年度、放射線室は診療放射線技師10名体制で日々の業務に努めました。

当院の業務体制として、一般撮影（3室）、移動型X線撮影（ポータブル撮影）、骨密度測定、X線透視（主に検診の胃バリウム検査）、手術中X線透視、手術中／後・X線撮影、CT、MRI、受付、これらの業務を1週間ローテーションで行いながら、一部の技師は腹部・甲状腺超音波検査を、また、女性技師は乳房X線撮影業務を担当しました。

夜間および日曜・祝祭日の緊急撮影業務も、当番制で呼び出し対応にて業務にあたるとともに、1か月に2回程度、日曜日や祝日に回って来る救急当番もみんな協力して対応することが出来ました。

【スタッフ】

放射線室長	松尾 寛志
技術係長	釜石 明、佐藤 政弘、舟見 基
技術主任	小林洸貴
技師	久保田 裕美、本村 暁子、 高橋 志織、但木 勇太、内藤 格

【設備機器】

・一般撮影装置	(FPD3台)
・移動型X線撮影装置	(2台)
・乳房X線撮影装置	(1台)
・外科用X線透視装置	(3台)
・骨密度測定装置 (DEXA)	(1台)
・X線透視装置	(2台)
・CT (80列MDCT)	(1台)
・MRI (1.5T)	(1台)
・超音波検査装置	(1台)
・放射線情報システム (RIS)	(1式)

【令和6年度 検査実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
単純撮影	1,970	1,762	2,059	1,921	2,035	2,005	2,029	2,376	1,988	1,896	1,685	2,039	23,765
乳房撮影	10	11	19	22	27	29	46	24	25	18	17	21	269
ポータブル撮影	197	203	224	226	207	197	213	222	273	220	192	232	2,606
CT	505	414	456	543	546	495	525	496	483	559	451	521	5,994
MRI	309	278	306	314	272	295	311	293	326	275	255	329	3,563
透視・造影	43	53	105	89	118	138	131	130	82	59	87	100	1,135
骨塩定量	87	102	126	116	106	104	120	129	155	112	91	111	1,359
ESWL	1	0	1	0	2	1	0	1	0	0	1	1	8
オペ室	95	69	99	94	109	99	103	102	115	114	94	108	1,201
透視・造影(内視鏡)	67	48	45	54	51	55	78	88	81	54	65	70	756
嚥下造影(VF)	9	7	3	4	6	2	3	1	10	4	5	5	59
超音波検査	67	52	78	103	119	89	114	108	134	96	70	84	1,114
合計	3,360	2,999	3,521	3,486	3,598	3,509	3,673	3,970	3,672	3,407	3,013	3,621	41,829

【令和6年度の取り組み】

- ・8月末から医師の負担軽減の一環として、胃バリウム検査の一次読影を開始しました。一次読影を始めるにあたり、みんなで協力し精神的負担を減らしながらも、読影の精度は維持し、ずっと継続できるような体制を考え、検査担当、バリウム検査のエキスパート、放射線室長のチェックと3人による一次読影を行い、医師にレポートを提出することにしました。また、レポートはコピーを保存し結果の振り返りが出来るようにしています。この取り組みによ

り、医師の負担軽減だけでなく、技師の検査への意識が変わり、胃バリウム検査の画質が格段に向上しました。

- ・もう一つ、医師の働き方改革の取り組みとして、10月からSTAT画像報告制度を確立しました。STAT画像報告とは、生命予後にかかわる緊急性の高い疾患の画像所見を診療放射線技師が発見した場合、読影する医師に速やかに情報提供し治療につなげる取り組みです。この間の実績ですが、ひと月に2～3件の報告にとどまりますが、速やかな治療に

つながっていると自負しております。

- ・技師の業務範囲が拡大されました。講習を受講後、告示研修を受講することではじめて業務範囲が広がるのですが、今までは想像も出来なかった造影検査時のルート確保が可能になるなど、大きく業務の流れが変わってきています。残念ながら、この告示研修を修了した技師が当院では1名しかおりません。今後、修了者が増えた際には、タスク・シフトやタスク・シェアが大きく進むものと考えられます。
- ・当院では以前から読影の補助を実施していますが、年度末に退職された医師から『読影の補助にすごく助けられた』というお言葉をいただくことができました。日頃から色々な先生に、お礼の言葉をいただきますが退職時にも言っていただけたということは本当に先生の診断の役に立てたのだと、技師冥利につきます。

【今後の目標】

令和7年度で告示研修が終了してしまうことから、技師10人全員の研修修了を目指します。修了後は速やかに看護部の協力を得ながら静脈路確保の取り組みを開始していきたいと考えております。その後の流れとしては、タスク・シフトまでできるのか、それともタスク・シェアにとどまるのか、看護部と相談しながら業務拡大を進めていきたいと考えています。

文責 放射線室長 松尾 覚志

The most expensive in my life

放射線室 小林 洸貴

放射線室内で、「今年のエッセイは…」となって、「もう俺の番!？」となった私。この冊子を手に取って読み、「また君か」と思ったそこのあなた。お久しぶりです。約8年振りの執筆となりました、放射線室の小林です。今回エッセイを書くにあたって、放射線室のメンバーからは「5年落ち中古の軽自動車を手で200万で買った話すれば」とのアドバイスをもらいましたが、「別に買った話でいいし! 180万だし!」と思いつつも、軽く触れておこうと思います。

2024年4月に私は人生で初めて車を買いました。車の購入前は車の必要性をあまり感じてはおらず、維持費がかかるからとあまり乗り気ではありませんでしたが、両親の強い願い(なかば強制)もあり、車の購入を決意。初の車ということもあり中古車を買うことは決めていたので、中古車屋さんへ向かいます。いくつか車を試乗させてもらいましたが、なかなか“これだ!”となるような車は見つかりません。そして、最後に乗った車が軽自動車のフレアワゴンという車。車体の見た目もこれ良さそうだなと思いつつその扉を開けた瞬間に私の気持ちは決まっていました。車内のスペースの広さ、視野の広さに衝撃を受け、乗り心地も良い。「これにします!」店員さんに伝えた一言でした。掲示されていた金額は130万円前後。まあいける…か。この考えが甘いことは車を買ったことがある方にはわかるかと思います。車を決めた後はディーラー

さんと納車に向けた段取りのお話が始まります。やれ車検だの、保険だの、ドラレコだの、防錆加工だの…。話した内容なんて覚えていない内に金額が上がっていきます。最終的にはきっちり耳を揃えて180万円の提示。「た、高え…。」180万が高いか安いかは人によって感じ方が変わるかもしれませんが私にとっては人生で最も高価な買い物となりました。

約11年振りの運転で、いわゆるペーパードライバーだった私ですが、もともと運転が好きだったこともありすぐに運転には慣れ、今では楽しみながら運転をしています。それまで徒歩か公共機関などを利用して移動していた私にとってはまさに“自由の翼”を手に入れた気分です。が、その片翼がもがれかける事件が起きます…。写真のように、車のサイドの部分もがれました…。原因はロードヒーティングされている駐車場と道路で雪の高さに段差ができてしまい、車を出す際に擦るようになって負荷がかかってしまったためです。なるべく段差にならないように注意はしていましたが努力が足りなかったようです…。これから車を買う方には注意喚起になれば幸いです(笑)。

こんな私ですが、実は今年度から放射線室では主任になりました。まだまだ自信もなく、頼りない主任ではありますが、先輩方の期待や病院からの期待に応えられるように精一杯がんばってまいります。本当であれば車の話ではなく、今年一番感銘を受けた言葉“りた”についてお話ししようと思っていましたが、その話はいずれまた。もし、“りた”という言葉聞いてピン!と来た方がいたら是非お話ししましょう。ではまた8年後くらいにお会いしましょう。



¥1,800,000



もがれかけた片翼

リハビリテーション室

【概要】

リハビリテーション室

算定疾患別リハビリテーション料

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
- ・運動器リハビリテーション料Ⅰ
- ・心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
- ・呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
- ・がん患者リハビリテーション料

【スタッフ】

リハビリテーション室

室長：平塚 渉

理学療法課 課長：髭内 紀幸

係長：松山 朋也

主任：松村 真満、室矢 康治

花田 健、米田健太郎

作業療法課 課長：山中 佑香

主任：高橋 靖明、三野宮裕樹、

林 知代

言語聴覚課 主任：加賀 潤輝

理学療法士：42名 作業療法士：26名

言語聴覚士：8名 助手：1名

【業務内容】

地域の中核的医療機関として地域に密着し、理学療

法士、作業療法士、言語聴覚士が各々の専門性を生かしながら協働し、患者さんを中心としたリハビリテーションを提供することで、患者さんの生活・社会復帰を支援しております。

対象としては運動器疾患、脳血管疾患、神経難病、内部障害（呼吸器疾患、循環器疾患、がん、糖尿病など）、廃用症候群等、多種多様な患者さんへ病期に問わず介入しております。

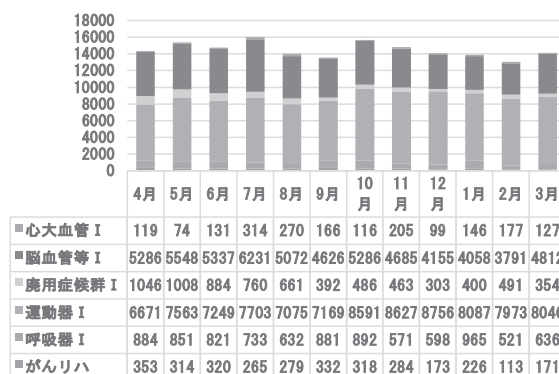
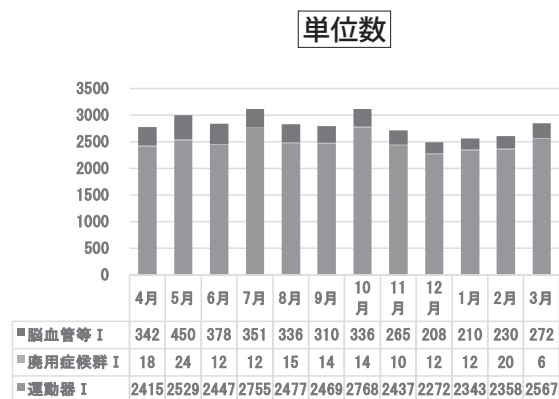
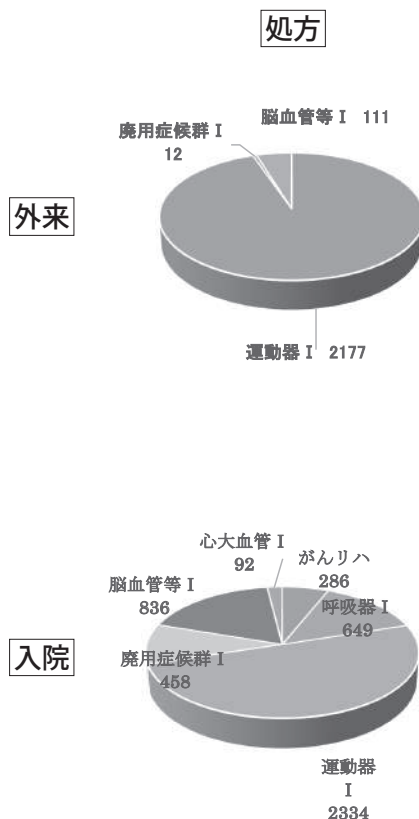
【リハビリテーション室の特徴】

急性期病棟では発症・受傷（術後）早期から介入し、多職種と協働しながら早期離床を促します。また、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟とも連携を図りながら、早期回復を目指したリハビリテーションを提供しております。

回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟ではチーム一丸となって患者さんへのリハビリテーションを提供し、患者さん個人の生活背景や生活環境を意識しながら、再びその人らしい生活が送れるよう支援しています。

また、各種専門外来（肩・手・肘、膝、脊椎・腰痛、関節外科、スポーツ、骨粗鬆症、内分泌、緩和ケア、認知症ケア）へ積極的に関わりながら、より高い専門技術の提供に努めています。

【実績】



【令和6年度の取り組み】

感染対策の継続と強化：昨年の5月以降、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へと移行しましたが、当科では引き続き感染予防対策に取り組んでまいりました。患者様の安全を最優先に考え、スタッフの体調管理、標準予防策の徹底、環境管理の強化、防護対策の遵守など、組織的な取り組みを継続しております。2024年8～9月には急性期病棟での感染拡大が見られ、さらに11月下旬から年末年始にかけてはスタッフ内にインフルエンザおよび新型コロナの感染が広まりました。その結果、一時的にリハビリ介入量の制限を余儀なくされる状況となりました。こうした課題を受けて、当科では個人防護具（PPE）の正しい着用方法についてスタッフ全員が知識と技術の習得に努め、感染隔離期間中でも早期のリハビリ提供が可能となる柔軟な体制を構築いたしました。

心大血管リハビリテーション実施状況：今年度も、鬱血性心不全をはじめとする慢性心疾患の患者様を対象に、心大血管リハビリテーションを提供いたしました。対象となる方の多くは高齢であり、合併症を伴っているため、全身のリスク管理を行いながら、安全かつ効果的なプログラムを実施しております。

リハビリテーション医師体制の整備：本年度は、札幌医科大学附属病院リハビリテーション科より常勤医師1名、非常勤医師1名（週1回勤務）の体制でご協力をいただいております。

この体制の強化により、急性期病棟や地域包括ケア病棟において、入院初期段階からリハビリ医師による評価が可能となり、リハ介入の必要性や目標の再設定、在宅復帰支援方針の見直しが円滑に行えるようになりました。

また、新たな取り組みとして「内科リハビリカンファレンス」を導入し、患者様の予後や回復予測を踏まえた話し合いを実施しております。これにより、よりの確な退院支援が可能となり、チーム医療の質向上にも大きく寄与しております。

地域連携活動：本年度も、地域との連携強化を目的としたさまざまな活動に継続的に取り組んでまいりました。

1. 地方自治体との連携による高齢者支援

専門職が不足している地方自治体の高齢者を対象にしたリハビリテーション支援業務に継続的に参画しております。今年度は喜茂別町・共和町・古平町の3町に対し、遠隔システム（ICT）を活用し、地域ケア個別会議や利用者様のご自宅においてサービス担当者会議を開催いたしました。

2. 地域活動への貢献

済生会ガーデン「そらし〜ど」においてブルーベリー栽培を支援し、回復期スタッフによる水やり支援を実施いたしました。収穫や販売への一助となる活動として地域に貢献いたしました。

3. 共生スポーツの推進

北海道済生会では、モルックを共生スポーツとして位置付け、医療技術部スタッフを対象としたモルック体験会を開催いたしました。体験を通じてルールや技能の理解を深めるとともに、職員間の交流および健康促進にも寄与いたしました。

4. 済生会ビレッジ・スポーツスクエアでの活動

ウイングベイ小樽にて、以下のような取り組みを行いました。

- ・5月9日（木）：ウイングベイウォーキング（参加者15名）
- ・2ヶ月に1回：「腰痛」をテーマとした健康相談会を開催しました。
- ・9月8日（日）：共生フェスを開催し、インボディーによる健康相談（約130名参加）、ウォーキング（14名）、モルック大会を実施しました。
- ・11月2日（土）：スマートインソールを使った「歩く質」測定イベントを、スポーツデータバンク株式会社・北海道二十一世紀総合研究所・SHEREのスタッフと共催し、歩行分析に基づいた助言・指導（参加者50名）を実施しました。
- ・11月14日（木）：市内開催「全道いきいき健康セミナー」にてインボディーによる体組成測定（参加者70名）を実施しました。
- ・2月22日（土）：ウイングベイ小樽にて「健康な歩き方測定会」（参加者50名）およびウォーキング（参加者30名）を実施しました。

5. 地域機関・施設との連携

- ・12月17日（火）：小樽市東南部地域包括支援センター主催「自立支援型 個別ケア会議」に作業療法士1名が助言者として参加しました。
- ・12月20日（金）：小樽市北西部地域包括支援センター主催「自立支援型 個別ケア会議」に作業療法士2名が助言者として参加しました。
- ・2月28日（金）：小樽市南部地域包括支援センター主催「自立支援型 個別ケア会議」に、理学療法士1名が助言者として参加しました。
- ・3月7日（金）：北海少年院で開催された「日本財団職親プロジェクト仕事フォーラム」に理学療法士2名が参加し、介護職向けに「ベッド上および移乗時の介助方法」の体験・アドバイスを実施しました。

グループ施設との連携強化：昨年同様、関連施設の「老人保健施設 はまなす」へ当院スタッフが定期的に出向しており、入所リハビリテーションや訪問リハ

ハビリテーションを提供することで、横断的な在宅復帰支援を継続することができました。

糖尿病運動指導士の活動：糖尿病友の会の皆さん（10名）とウイングベイウォーキングやモルックを通して運動習慣の大切さについての体験会を実施しました。

学会発表・参加実績：今年度もリハ室から多くの発表・参加を行うことができました（下記参照）。

■第67回 日本手外科学会学術集会

- ・開催日：令和6年4月25日（木）・26日（金）
- ・開催地：奈良県コンベンションセンター
- ・発表者・演題：
 - 五嶋 渉（作業療法士）「重症手根管症候群に対する母指対立再建術の効果～簡易上肢機能検査STEFを用いた定量的検討～」
 - 山中 佑香（作業療法士）「ROC曲線による突発性手根管症候群術後の満足度と感覚評価との関連の検討」

■第143回 北海道整形災害外科学会

- ・開催日：令和6年6月8日（土）・9日（日）
- ・開催地：旭川市 大雪クリスタルホール
- ・発表者・演題：
 - 河原 健太（理学療法士）「大腿骨近位部骨折術後患者へのTime Up&Go Testの有用性と限界」
 - 山中 佑香（作業療法士）「5指駆動型筋電義手bebionicハンドを使用した前腕切断の一症例」

■第54回 北海道作業療法学術大会

- ・開催日：令和6年6月22日（土）・23日（日）
- ・開催地：千歳市民文化センター
- ・発表者・演題：
 - 三野宮裕樹（作業療法士）「ICTを活用した遠隔リハビリテーションにより活動性の向上が認められた一例」

■第30回 全国済生会糖尿病セミナー

- ・開催日：令和6年8月16日（金）～18日（日）
- ・開催地：済生会熊本病院 コンベンションホール
- ・発表者・演題：
 - 三浦富美彦（理学療法士）「リブレの特性を活かした糖尿病運動指導のための1次調査～主にリブレ測定回数と運動習慣の有無に着目して」

■回復期リハビリテーション病院協会 第45回研究大会in札幌

- ・開催日：令和7年2月21日（金）～22日（土）
- ・開催地：札幌コンベンションセンター
- ・発表者・演題：
 - 三野宮裕樹（作業療法士）室矢 康治（理学療法士）「当院回復期病棟における転倒転落防止に関

する取り組み」

■第77回 済生会学会

- ・発表者・演題：大泉 忍（言語聴覚士）
「脳梗塞により失語症を呈した若年患者へのリハビリ介入と退院支援について」
- ・開催地：愛媛県県民文化会館・愛媛看護研修センター
- ・形式：ポスター演題発表

資格取得・研修活動

■NST専門療法士認定に向けた研修

- ・取得予定者：加賀 潤輝（言語聴覚士）
 - ・実施施設：手稲溪仁会病院
 - ・研修期間：
 - 令和6年6月3日（月）～6月6日（木）
 - 令和6年6月13日（木）～6月14日（金）
- 合計：6日間

【今後の目標】

次年度は「職種間の協働による共通目標の達成」を部門共通テーマとし、患者様が安心して治療・訓練を受け、在宅復帰に繋がるような支援体制の構築を目指します。以下の視点別目標を柱に、部門全体で質の高いサービス提供に取り組みます。

1. 医療安全・感染対策の継続
院内感染対策・医療安全対策を継続し、安心できる治療環境の提供
2. 財務の視点
入院早期からの介入体制の強化
多職種連携による総合的なリハビリ支援計画の推進
非算定業務の見直しおよび効率的なスケジュール調整による関わり時間の拡充
3. 顧客の視点
接遇5原則と3配りの実践による満足度向上
業務量の平準化と業務内容の見直しによる職場環境整備
市民向け健康相談会の継続開催を通じた健康リテラシーの向上
4. 内部プロセスの視点
月例の優秀スタッフ表彰による職場の活性化
地域健康増進活動の継続（健康教室・骨折予防事業・イベント企画等）
働き方改革としてタスク・シフト／シェアやICTツールの導入による業務効率化と環境整備
5. 学習と成長の視点
療法士の技術・知識補完体制の構築と平準化
継続的な人事考課によるスタッフ育成
臨床実習指導者の育成と実習受入による教育体制強化

【理学療法 PR】

2024年度よりCOVID-19は感染分類が5類へ引き下がりましたが、コロナ禍で減少した地域の社会交流によってフレイル（日本語に訳すと「虚弱」・「衰退」・「脆弱」）に陥った地域住民への健康相談、健康教室、遠隔診療といった関わりをオンライン・対面共に、積極的に行いました。また理学療法課では過去より老人保健施設入所者へのリハビリテーション、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションへも出向を通じて、病院内の患者様だけではなく地域の様々な方へ関わる機会を頂き、在宅医療の現状・地域課題を学び多くのスタッフが共有できる様に努めています。今後も質の高い理学療法技術の提供、地域への貢献ができるよう、自己研鑽して成長し続けます。

【作業療法 PR】

2024年度は5類のCOVID-19と予防した対応の二刀流を継続して臨床を乗り切りました。作業療法部門の強みである地域での作業訓練（外出しての買い物訓練、公共交通機関の利用に向けた外出訓練）、患者さんが住み慣れた小樽・後志で安心して暮らせるよう作業療法の提供を行いました。質の高い作業療法が提供できるよう院内・院外勉強会や学会にも積極的に参加し、他部門や他院と協力した研究活動も行いました。後志No.1の作業療法の提供を目指し、今後も更なる発展と患者様の笑顔のためスタッフ一同も笑顔で充実した時間を過ごせるよう頑張っていきます。

【言語聴覚療法 PR】

2024年度は、COVID-19も感染分類が5類に引き下がりましたが、言語聴覚部門では引き続き感染予防としてPPE装着の上、「感染をしない・させない」よう日々の臨床業務に取り組んでいます。また早期よりリハビリテーションが開始できるよう入院時の嚥下スクリーニングにも力を入れており、高齢化の進む後志地域の方に対して、評価をしています。

今後も、「口から食べられるようにするためには済生会へ」と言われるよう、地域活動・自署内での勉強会で自己研鑽に励んでいきます。

文責 技術室長 平塚 渉

挑戦と感謝の一年

リハビリテーション室 阿部 優翔

理学療法士として働き始めた1年目は、あっという間に過ぎていきました。私は生まれ育った秋田を離れ、初めて北海道で暮らすことになりました。職場では、大学で学んだ知識を生かすことの難しさに直面しました。患者さま一人ひとりの症状や気持ちに合わせた声かけや支援の仕方を模索し、悩む日も少なくありませんでした。そんな中で支えてくださったのが、職場の先輩方です。臨床での判断や技術はもちろん、患者さまとの向き合い方や、時には私の心の持ち方まで、温かくご指導くださいました。仕事に迷い、落ち込んだときも、何気ない励ましや笑顔が大きな力になりました。

1年を終えた今、私の心にあるのは、北海道で出会った患者さまと先輩方への深い感謝です。慣れない環境の中でいただいた温かい言葉やご指導は、これからの私の土台となり、成長を続ける原動力となります。これからも、患者さまとともに、そして先輩方から学んだ姿勢を

胸に、一步ずつ歩み続けてまいります。

おめえ、秋田の花火大会さ来たごどあるが？

あれだば、ただの花火じゃねえんだ。河川敷さ人がどっさり集まってよ、昼間っから競技花火やら創造花火やら、もう腹いっぱい見られるんだ。夜んなってからが本番だべ。あれはテレビじゃ絶対伝わんね。空一面が色どりで埋まって、みんな「おお〜！」って声出して、拍手すっ。

だから、おめえもいっぺん秋田さ来てけれ。きつと忘れらんね夏になるで。



全国花火競技大会

一年を振り返って

リハビリテーション室 須貝 隆旗



先輩方と参加した初フルマラソン

新人作業療法士として一年間努めてまいりました。私は社会人一年目と一人暮らし（大学時代は実家暮らし）の始まりだったため、仕事でも私生活でも大変で、仕事面では覚えなければならない業務が多く思い通りに動けないことや、生活面では朝起きるのがつらかったり仕事帰りは睡魔に襲われ家事が進まなかったりで新しい環境になれるまでに時間がかかりました。自分自身ナイーブな性格で、一年目は失敗や迷惑をかけることも多く落ち込んでしまう日々でした。しかし優しい先輩もたくさんいて、相談や悩みを聞いていただくことや飲み会に誘っていただくなど周りのスタッフに恵まれていると感じることも多かったです。仕事をうまくやっていくためには人間関係の構築が必要不可欠であることを改めて実感しました。業務時間以外での関わりはとても大事だと思います。

一年が経過し環境には徐々に慣れてきましたが、知識・経験ともにまだまだ未熟なため、臨床経験をこれからもたくさん積んでいかなければなりません。これからも先輩方に指導・助言をいただきながら日々の業務を行っていけるよう頑張ります。

今後ともよろしくおねがいいたします。

栄養管理室

【概 要】

(1) 臨床栄養管理業務

チーム医療の一員として多職種と連携した栄養管理を行っています。適切な栄養アセスメントや栄養指導を実施することで、患者さんの食生活を変容させ、栄養状態や食事の内容、摂り方などを改善し、健康の維持・増進、疾病の予防や疾病の治療に寄与することを目的としています。

(2) 給食経営管理業務

病院給食は、通常の食事とは異なり医療行為の一環として実施されるものです。疾病治療あるいは治療上の医療効果を高めるために必要な栄養源の補給を行い、衛生管理に十分配慮し、安全で安心な給食を継続的、かつ安定的に提供し、患者さんの食への楽しみに対する満足度を得ることを目的としています。

(3) 沿革

- ・給食管理業務は、2004年より給食委託会社へ業務委託しています。2022年10月1日～2025年9月30日の期間においては、株式会社LEOCと締結しています。
- ・2013年度以降、温冷配膳車・選択メニューの導入、お楽しみ食の拡充など患者サービスの向上に努めています。
- ・2020年9月に小樽病院と重症心身障がい児（者）施設みどりの里が統合、2021年より健診センターでの特定保健指導業務開始となり、疾病予防・急性期から回復期までの医療と福祉の栄養管理を管理栄養士6名体制で行っています。

【栄養管理室 理念】

- ・患者さん一人ひとりの状態に合わせた栄養管理に努めます。
- ・安全で安心して食べられる、家庭料理に近い食事の提供に努めます。
- ・退院後も継続できる食事療法の支援に努めます。
- ・患者さんに栄養と笑顔をお届けします。

【スタッフ】

(1) 職員構成

- ・臨床栄養管理業務 技 術 課 長：多田 梨保
技 術 主 任：権城 泉
管理栄養士：一島妃東美
管理栄養士：栗田 靖子
管理栄養士：西澤 一步
管理栄養士：佐藤かりん
管理栄養士：斎藤 美幸
(有期雇用)

- ・給食経営管理業務 株式会社LEOC

(2) 認定、専門資格の現状

(同一管理栄養士の重複資格取得あり)

- ・病態栄養専門管理栄養士 2名
- ・がん病態栄養専門管理栄養士 2名
- ・NST専門療法士 5名
- ・周術期・救急集中治療専門療法士 1名
- ・日本糖尿病療養指導士 2名
- ・静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士 1名
- ・栄養経営士 1名
- ・人間ドック健診情報管理指導士 1名

【当部署の特徴】

臨床栄養管理業務では入院早期に栄養計画を立案し、患者個別に必要な栄養量を算出、病態を把握し、適切な食事が提供されるように医師・看護師など多職種に働きかけています。提供された食事が、きちんと患者さんに摂取されるよう、食欲不振がある場合など個別に嗜好調査を行い食べていただける様に食支援を行っています。給食経営管理業務には、臨床栄養管理・給食経営管理のどちらの知識も持ち合わせていなければ、患者さんの栄養管理は行えません。そのため、給食提供における運営方法、臨床栄養学に基づいた献立作成についてまとめた給食管理業務マニュアルを作成しています。

チーム医療にも積極的に参画し、NST、緩和ケア、糖尿病ケア、認知症ケアにおいて臨床栄養管理を行っています。外来患者さんにおいても、栄養教育として継続的に様々な栄養指導を行い、疾病の改善・予防に努めています。

【実 績】

(1) 栄養指導実施件数（非加算含む）

入院 個人指導	112件
外来 個人指導	317件
糖尿病透析予防指導	0件
特定保健指導	動機付け支援 90名
	積極的支援 99名
合 計	618件

(2) 栄養情報提供書件数 (非加算含む)

病院	76件
介護老人保健施設	36件
特別養護老人ホーム	12件
サービス付き高齢者向け住宅	21件
在宅	1件
合計	146件

(4) お楽しみ食提供回数

行事食		22回
日本全国味めぐり給食		9回
世界味めぐり給食		3回
あんかけ薬膳焼きそば		6回
小樽ゆかりの 人減塩食シリーズ	石原裕次郎御膳	4回
	伊藤整御膳	4回
	小林多喜二御膳	4回
総合計		52回

(3) 給食延数

食 種	小樽病院	みどりの里
一般食	117,954食	50,283食
特別食	57,351食	4,380食
濃厚流動食	5,036食	67,804食
入院患者合計	180,341食	122,467食

(5) 嗜好調査

後期1回実施。

後 期	
対 象 食 種	入院患者 (但し、経管濃厚流動食・嚥下食・きざみ食・ミキサー食・流動食を喫食している患者は除く)
目 的	食事の質の向上と家庭料理に近い食事の提供に向けて、患者さんの嗜好や満足度を調査する。
実 施 日	10月21日～10月25日
方 法	聞き取り
調 査 内 容	◇食事について (聞き取り) ①主食の硬さについて (ソーメン・パンは除く) ②おかず (肉・魚・野菜) の硬さについて ③食事の味付けについて ④病院食は今後の食生活の参考になるか ⑤食事の満足度調査について ◇その他ご意見、ご感想

(6) 学生教育

・実習受け入れ

養成職種	学校名	学年	期間	人数	実習目的
管理栄養士	名寄市立大学	4年	5月20日～5月31日	1名	臨床栄養学臨地実習Ⅱ
	藤女子大学	3年	10月21日～11月1日	2名	臨床栄養学実習Ⅲ

(7) 栄養情報誌「栄養だより」の発行

今年度は、実施しておりません。

(8) 北海道済生会支部事業

事 業	回 数
食料支援事業	115回
済生会ビレッジでの健康相談	3回
小樽市医療・福祉の一体化事業	骨粗鬆症予防の講話 0回

【令和6年度の取り組み】

- ・診療報酬改定により栄養管理体制の基準の明確化として、GLIM基準による低栄養診断のアプローチを取り入れました。低栄養患者さんへの栄養介入を強化する体制となりました。
- ・急性期病棟(3B病棟)における管理栄養士の病棟常駐を行いました。患者さんの病態に合わせた特別食の提供について、管理栄養士が介入することで早期から提供できるよう取り組みました。
- ・2020年9月に重症心身障がい児(者)施設みどりの里と統合し、両施設の業務の統一化を図ってきました。食事オーダー項目の選択方法や献立内容につ

いて整備しました。

- ・協会けんぽ北海道支部の「被保険者に対する特定保健指導の業務委託」を受託し、健診当日に特定保健指導を実施しています。生活習慣病予防健診と特定保健指導のセット化を行うことで保健指導受診に繋がる仕組みを作りました。
- ・北海道済生会支部事業にも関わりました。済生会ビレッジでの健康相談会や、共生フェスでの健康測定会では、地域住民の問題解決に栄養の専門家として参加しました。また、済生会ファーム「そらし〜ど」では、種植え、水やりなどに関わり胡瓜やブルーベリーの成長を近くで見守りました。

・糖尿病患者会「小樽なでしこ友の会」では、当院で糖尿病療養指導士の資格を有する管理栄養士・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師・看護師などが所属しています。ヨガ教室、座談会の開催のほか、済生会ビレッジ ぷりもクックルームを会場として料理教室を開き「低糖質無水カレー・ナン」にもチャレンジしました。

【今後の目標】

- ・管理栄養士が常駐する対象の病棟を拡大し、特別食の提供や栄養指導が必要な方への介入がしやすくなるよう、環境整備を行います。
- ・特定保健指導では集合契約Aの受け入れ態勢を整え、より多くの方が特定保健指導を受けられる場を作ります。
- ・医療安全・感染予防の観点より給食委託業務内容を標準化し、適正業務となるよう見直しを行います。
- ・済生会ビレッジを活用した、地域住民への栄養情報の発信、食事による健康改善・疾病予防に繋がる取り組みを目指します。

文責 技術課長 多田 梨保

子供と楽しむキャンプ～コロナ禍がくれた、我が家の新しい親子時間～

栄養管理室 権城 泉

きっかけはコロナ禍でした。

自由に外に出ることを憚られた時期。

子供は家の中で退屈そうにしていました。そんな頃、2人目を妊娠し出産。ますます何もできなくて窮屈な日々。夫は仕事もあり、一緒におでかけすることは元来叶わない。

最初は、遠出はせず、家の庭にテントを張ろうという話になり、テントを購入しました。

当時、アウトドアの知識はゼロ、もちろん一人でテントなんて立てたことも無く、毎晩YouTubeでキャンプ動画を検索する日々です。キャンプギアからファミリーキャンプに必要な心構えや知識、キャンプ場のあれこれ、調べる事は山ほどありました。

でも広い空の下で思い切り体を動かしたり、大好きなクワガタを探したり、蛙を追いかけたり、子供はきっと笑ってくれる。子供時代だからこそ、今しかできない経験を積んでもらえと思いました。

母と小学生とまだおむつのとれない下の子と。言ってみればワンオペキャンプ。

コロナ禍が明けてからは友人家族のキャンプにご一緒させてもらって、グルキャンもし始めました。

最初は正直、しんどかったです。今も楽なわけではないけど、上の子供が少しずつお手伝いをしてくれるようになると、親としては子供の成長を間近で感じつつ、遊びたい気持ちと手伝えたい葛藤をどこまで許せるか、私も親として試されている気がします。

キャンプの最終日になると「次はどこに行く？いつ行くの？」そんな言葉を聞く度に、もう次の予定に思

いを馳せて、私自身も子供の言葉に元気をもらっています。

気が付けば、3シーズン目を迎えようとしているキャンプ歴。そろそろビギナーから足が出始めたかな。

最初は何も出来なかったけど、今では火をおこして、星空の下で、酒を酌み交わしながら友人と語る夜もマシュマロを焼く楽しさも、かけがえのない生活の1ページになっています。

キャンプは、特別な親子の時間をくれました。

そして私にも、少しだけ心休まる癒しのひと時をくれました。

キャンプは不自由だけれど、コロナ禍の不自由とは違います。

私たち家族にくれた大切な宝物みたいな時間。それが「キャンプ」という新しい親子時間です。



【スタッフ】

技 術 室 長 笹山 貴司
 技 術 係 長 横道 宏幸
 技 術 主 任 奥嶋 一允 今野 義大
 臨床工学技士 吉田 昌也 山内 揚介 及川 尚也
 菊地 和真 斉藤亜里沙 服部 淳貴
 大橋 莉子 山下 龍平

3学会認定呼吸療法認定士：3名

透析技術認定士：2名

【業務内容】

臨床工学技士は“医学と工学”の知識を活かし、生命維持管理装置（人工呼吸器や血液浄化装置など）の操作や保守点検を中心に、院内のさまざまな医療機器の管理業務を担っています。これにより、安全かつ迅速に医療機器を提供できる体制を整えています。また、日々進化する医療技術に対応するため、最新の知識と技術の習得に努めるとともに、医師、看護師をはじめ多職種と密接に連携し、チーム医療の一員として安全で安心な医療の提供に貢献しています。

【当部署の特徴】

臨床工学室では、血液浄化療法から手術センター、内視鏡センターに至るまで、多岐にわたる診療領域で、医師や看護師をはじめとする他職種と緊密に連携し、業務を遂行している点が特徴です。急な治療オーダーや医療機器トラブル発生時にも即座に対応できるよう、365日24時間のオンコール体制を整備し、昼夜を問わず迅速なサポートを提供しています。さらに、医療機器の安全かつ適切な運用を徹底するため、看護職などを対象とした医療機器の操作研修を実施し、当院独自の医療機器操作マニュアルの作成・定期改訂を通じて、運用の標準化と安全性向上に努めています。

1. 血液浄化業務

透析センターでは、看護師と連携したチーム体制のもと、慢性腎不全患者さんへの血液浄化療法を提供しています。臨床工学技士は次の業務を通じ、患者さんの安全で安心な治療を支えています。

- ①透析治療の実施：シャント穿刺・透析装置の操作・治療中のバイタルモニタリングを行い、腎機能代替療法を実施。急変時や装置トラブル時には迅速に対応します。
- ②治療環境の整備
 - ・患者さんの生体適合性に応じた人工腎臓の選定・提案
 - ・透析装置の保守管理および厳格な水質管理（最新

ガイドライン準拠）

- ・透析関連機器の定期点検・リスクマネジメント

③特殊療法への対応

- ・持続的腎代替療法（CRRT:重症患者さんへの長時間持続透析）
- ・アフェレシス療法（血漿交換・吸着療法など）
- ・腹水／胸水濾過濃縮再静注法（KM-CART）

2. 医療機器管理業務

医療機器管理室では、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器など多種多様な医療機器を医療機器管理システムで一元管理しています。

①医療機器の保守管理

年間計画に基づく定期点検・日常点検・定期部品交換を実施し、必要時に安全かつ迅速に医療機器を提供できる体制を整えています。

②特殊療法・機器への対応

- ・NPPV療法（専用マスクを用いた非侵襲的陽圧換気）
- ・ネーザルハイフロー療法（鼻カニューラを使用した高流量酸素療法）

これらの呼吸療法機器の運用・管理も行い、現場のニーズに即応しています。

③在宅医療への支援

人工呼吸器の在宅支援にも対応し、患者さんの療養生活をサポートしています。

これらの業務を通じて、医療現場における安全で確実な機器の運用を支え、患者さんの安心と医療の質の向上に貢献しています。

3. 手術センター業務

手術センターでは、医師・看護師と連携したチーム体制のもと、患者さんが安心して手術を受けられるよう、以下の業務を行っています。

①手術機器の保守・点検

麻酔器や腹腔鏡装置、内視鏡関連装置など、手術用医療機器の始業点検・定期点検を行い、安全な手術環境を維持しています。

②手術中の機器操作

- ・人工関節置換術時の機器操作
- ・内視鏡関連装置の操作（2021年の法改正により新たに追加された業務）

③麻酔アシスタント業務

院内認定を受けた麻酔アシスタント臨床工学技士が、麻酔に関わる業務をサポートし、麻酔科医の負担軽減と手術室全体の効率化に貢献しています。

④直接介助業務への対応

手術野での直接介助業務にも積極的に携わってお

り、全手術件数1,455件のうち485件で対応しています。

4. 内視鏡センター業務

内視鏡センターでは、内視鏡システム、内視鏡カメラ、内視鏡用洗浄装置、電気メスなど、多様な医療機器を使用して検査・治療を行っています。臨床工学技士は、以下の業務を通じて安全な内視鏡検査・治療を支えています。

①使用前点検・準備

内視鏡システム、軟性内視鏡（ビデオスコープ）、内視鏡カメラおよび周辺機器の始業時点検・動作確認を行い、検査・治療に備えます。

②使用后処理・感染対策

使用後のビデオスコープの洗浄・消毒（再生処理）において、洗浄消毒装置を操作し、確実な感染対策を実施しています。また、感染防止の一環として、年1回の細菌検査を実施し、洗浄・消毒の効果を確認しています。

③使用后点検・定期管理

終業時点検のほか、内視鏡関連機器の定期的な保守点検を実施し、機器の安全性と信頼性を維持しています。

これらの業務を通じて、高度で専門的な内視鏡検査・治療が安全かつ円滑に行われる環境の整備に努めています。

【過去3年の実績】

1. 血液浄化業務

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
血液透析・血液濾過透析	7,953件	8,243件	8,920件
持続的血液濾過透析	16件	11件	1件
アフエリス療法	0件	8件	30件
腹水濾過濃縮再静注法	60件	85件	34件

2. 医療機器管理業務

(1) 終業点検件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
シリンジポンプ	273件	299件	220件
輸液ポンプ	1,011件	1,079件	1,097件
人工呼吸器	35件	32件	48件
フットポンプ	261件	280件	316件
低圧持続吸引器	20件	20件	19件
エアマット	128件	85件	55件
血管用エコー	151件	153件	139件
ベッドサイドモニター	23件	348件	397件
その他(主にモニター関連)	147件	221件	233件

(2) 医療機器修理及びメンテナンス件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
シリンジポンプ	8件	19件	5件
輸液ポンプ	54件	48件	45件
人工呼吸器	8件	12件	10件
除細動器	4件	5件	7件
フットポンプ	2件	2件	1件
生体情報モニター	22件	15件	45件
エアマット	13件	3件	1件
透析関連機器	137件	122件	92件
内視鏡関連機器	9件	5件	4件

3. 手術センター業務

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外科腹腔鏡操作	94件	77件	77件
整形関節鏡操作	131件	116件	114件
泌尿器膀胱鏡操作	120件	141件	154件
直接介助業務	588件	474件	485件

【令和6年度の取り組み】

令和6年度は、中央管理機器の増加に伴い、医療機器管理室内の物品配置や保管場所の整理を行い、他部署のスタッフにも分かりやすく、効率的に機器を貸出・返却できる体制を整備しました。

また、院内認定を受けた臨床工学技士による麻酔アシスタント業務を新たに開始し、手術センターにおける麻酔業務のサポート体制を強化しました。これにより、麻酔科医の負担軽減と、より安全かつスムーズな手術環境の提供に寄与しています。

加えて、手術室における内視鏡業務の拡充に伴い、操作技術の習得に向けた研修への参加を行いました。

NPPV療法やネーザルハイフロー療法の使用が年々増加する中、呼吸療法機器の安全運用に向けて、呼吸療法チームの一員として簡易操作マニュアルの作成および呼吸療法に関する医療機器研修を実施しました。

感染対策については、新型コロナウイルスが5類に移行した後も、引き続きガイドラインに基づく感染防止対策を徹底し、人工呼吸器や透析装置など感染リスクの高い機器の運用方法や洗浄手順の再確認を行いました。透析センターでは、感染症患者への対応としてゾーニングの徹底や個室での治療環境整備を継続しています。

【今後の目標】

来年度は、医療機器管理室内のレイアウト変更を行い、医療機器の貸出・返却がよりスムーズに行える環境整備を進める予定です。動線の改善や機器の配置見直しを通じて、効率的な管理体制の構築を目指します。

また、中央管理機器の増加に伴う点検・管理業務のさらなる負担増加を見据え、スタッフ間の情報共有の強化とともに、医療機器研修や学会参加による知識・技術の向上に努め、より安全で安心な医療機器の運用を推進していきます。

血液浄化業務では、アフェレシス療法や持続的腎代替療法（CRRT）などの特殊血液浄化療法への対応力の向上と技術の標準化に引き続き取り組み、患者さんに安心して治療を受けていただける体制を整えてまいります。

さらに、手術センターにおける内視鏡用ビデオカメラ操作をはじめとした業務範囲の拡大に対応するため、多職種との連携強化やタスク・シフト／シェアの推進にも積極的に取り組み、臨床工学技士としての専門性を活かしたチーム医療の実現を目指してまいります。

文責 技術係長 横道 宏幸

看護部

■ 総 括

【看護部概要】

- ◆看護部職員：222名
 - ・看護師：173名
 - ・准看護師：5名
 - ・看護補助者：40名（介護福祉士：6名含む）
 - ・看護事務：4名
- ◆看護部管理者
 - ・部長1名、次長1名、室長1名、課長9名、主幹3名、係長15名
- ◆診療看護師（NP）：1名（13区分、21行為）
- ◆特定行為研修修了者：3名
 - ・精神・神経・循環領域コース＋栄養水分に係る薬剤投与関連：1名
 - ・創傷治療領域コース＋ろう孔管理関連コース：1名
 - ・救急病態管理コース：1名
- ◆認定看護師
 - ・慢性疾患看護専門看護師：1名
 - ・緩和ケア認定看護師：2名
 - ・認知症看護認定看護師：2名
 - ・感染管理実践看護師：1名

【実 績】

（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

1. 看護師数（常勤換算）

年度	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
正規職員数	167	163	169	161	160.7	152
臨時、嘱託、パート	20	17	21	24	20.4	23
計	187	180	190	185	181.1	175

2. 42日以内再入院率（％）

※令和6年度より、4週間以内の再入院率で掲載

	一般病棟
令和元年度	4.9
令和2年度	2.9
令和3年度	6.8
令和4年度	4.8
令和5年度	5.0
令和6年度	8.3※

3. 摂食機能療法算定件数及び算定額（円）

	件数(件)	収入(円)
令和元年度	3,038	4,679,850
令和2年度	2,991	4,989,800
令和3年度	3,404	6,220,950
令和4年度	5,609	10,347,500
令和5年度	7,135	13,145,621
令和6年度	6,524	12,551,000

4. 入退院加算算定件数（件）

	入院時支援加算2	入退院支援加算1
令和元年度	45	827
令和2年度	387	568
令和3年度	283	655
令和4年度	110	469
令和5年度	46	1227
令和6年度	32	1793

5. 看護部に関するお礼と苦情件数（件）

	お礼	苦情
令和元年度	20	26
令和2年度	9	7
令和3年度	3	7
令和4年度	5	19
令和5年度	6	16
令和6年度	9	20

【看護部理念】

- ・済生会の創立精神「施薬救療」にのっとり、患者さん一人ひとりに「安心できる質の高い看護を提供します」

【令和6年度 看護部目標】

1. 患者家族の意向を反映した個性のある看護を提供し、入退院支援を行う
2. タスク・シフト／シェアの取り組みを促進することで、安全な医療提供に繋げる

【令和6年度の主な取り組み】

1. 係長会が中心となり、患者家族の意向を反映した看護過程の展開を目指し、看護計画カンファレンスに取り組みました。患者に提供している看護は、看護記録に的確に記載をするよう指導を重ねました。入退院支援の仕組みも見直し、確実に実践することで実績としても効果が表れています。

2. 看護部内でのタスク・シフト／シェアを進めながら、多職種会議も定期的には開催しました。職種を超えて課題や対策の共有を重ねました。患者の利益を最優先に考え、職種の専門性を活かしたタスク・シフト／シェアについて積極的に話し合いを行いました。栄養課による食事の代行入力、診療放射線技師による造影剤ルートの確保のトレーニング等が開始されています。
3. コロナ禍以降の離職率は増えています。人材確保対策のひとつとして、就職サイトを活用していますが、12月より“看護roo!”のサイトに変更しました。紹介サイトの利用者を対象に、1月と3月に札幌開催の合同就職説明会に参加しました。学生に最も近い存在である葛西看護師と宮本看護師の協力もあり、約25名／回の学生さんが立ち寄ってくれました。採用と指導、定着にむけた取り組みも、並行しながら実施します。
4. 生産人口の減少に伴う今後の更なる人材確保困難に備え、DXやICTも多職種間で積極的に議論しま

した。バイタル連携やインカムは2月に導入され、更に音声入力のデモは2機種で実施しています。また、シフト作成機能の導入も検討を重ねています。

5. コロナ禍以降、お礼の件数は微増、苦情も増加しています。患者さんやご家族から頂いたご意見には、各部署の管理者と共に速やかな対応を重視しました。患者さんに直接対応できる場合は、最大限に対応してきました。

【今後の目標】

次年度は、特に接遇の改善に取り組み、職員の「相手を思いやる心」を育み、温かい医療の提供を目指したいと考えます。

地域包括ケア病棟の機能を活かし地域密着型多機能病院として患者さんが住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう、地域の皆さんと協働したいと思えます。

文責 副院長 兼 看護部長 菅原 実夏

令和7年1月 看護roo! 合同就職説明会に参加



済生会学会IN松山



令和7年3月 看護roo! 合同就職説明会に参加



3A病棟

【スタッフ】

杉崎 美香 看護課長
砂川 友紀 看護係長
齋藤 亜妙 看護係長

看護 師：22名

（うち短時間正職員：3名 パート：1名

夜勤専従：3名 糖尿病療法指導士：1名）

看護補助者：8名

（うち夜勤専従：1名 学生アルバイト：1名

看護事務：1名）

医療クラーク：1名

【部署の特徴】

3A病棟は外科・循環器内科・消化器内科・緩和ケア内科・一部整形外科の5科を中心とした一般急性期混合病棟です。

内科・外科の混合病棟であり、診断から治療までを一つの病棟で担うことができます。大腸腫瘍、胆石が上位疾患であり腹腔鏡下手術や内視鏡的治療が多いのが特徴です。循環器では心不全が多く、緩和ケア内科では様々な疾患に対応しています。また、本年度からは主に上肢の整形外科疾患にも対応しています。年齢は10歳代から100歳代まで、病期は急性期から終末期までと幅広い層を対象としており、入院日数も様々です。

各科の特色に沿った看護を実践するため、多くの知識・技術が必要となります。そして、様々な理由で入院される患者様のニーズに答えるため、患者様やご家族の傍らに立ち、声に耳を傾け、最善のケアを提供できるよう多職種と連携し定期的なカンファレンスを開催しています。

【実績】

入院患者数	退院患者数	稼働率	平均在院日数
987人	946人	75.0%	12.56日
手術件数	内視鏡件数	化学療法件数	
456件	165件	53件	

【令和6年度の取り組み】

今年度は、昨年度から引き続き、患者様・ご家族との思いの共有と看護の専門性の発揮、そして安全に療養生活を送ってもらうために、「患者家族の意向を反映した個別性のある看護を提供する」、「看護の専門性を発揮し、療養環境を整え、安全な医療を提供する」という2つの目標を掲げ取り組んできました。この目標を達成するため、看護過程チーム、勉強会チーム、業務改善チーム、医療安全チームと4つのチームを作成し活動してきました。

看護過程チームでは、患者家族の意向を入院時から確認できるよう入院チェックリストの見直し、同時に看護計画がその意向を反映できるよう看護計画カンファレンスの仕組みづくりを行いました。勉強会チームでは今年度から当病棟でも対応するようになった整形外科疾患の勉強会を開催し疾患や治療の理解を深め、安全な看護が提供できるよう努めました。業務改善チームでは1分でも長くベッドサイドにいけるように業務整理を行い、疾患別、処置別の看護ケア項目のセットを約20個作成しました。そして医療安全チームでは、患者様が安全に入院生活を送れるよう療養環境の整備を行い、同時に医療安全リンクナースが薬剤のインシデントの予防に努めました。また、この他に各部門、委員会のリンクナースがそれぞれ目標を設定し看護の質の向上と安全な療養環境の作成に努めてまいりました。

【今後の目標】

今年度の活動から更なる「患者様・ご家族様との思いの共有」と「個別性ある看護の提供」を目指し、作成した仕組みの継続と個別性のある看護過程の展開を行いたいと考えます。また、看護師一人ひとりが必要な知識と技術を習得でき、看護の専門性を発揮できるように取り組んでいきたいと考えます。今年度、安全な入院生活を送れるよう取り組んでまいりましたが、患者影響レベル3b以上の転倒が起きてしまったため、より一層対策を強化し、患者様が安全に入院生活を送れるよう努めてまいります。

文責 看護係長 齋藤 亜妙



2025年、夏の私

3A病棟 高野 志保

人生は山あり谷あり。看護師になり27年が経過し、この間、病棟、訪問、教員を経験しました。この歳になり、「研究」というものが大なり小なり社会課題を解決する方法の1つであること、そして、勉強して理解できるようになることが意外と楽しいことだとやっとわかるようになり、今は大学院に通いながら夜勤専従看護師として働かせていただいています。最後に病院での勤務を終えてから早10年以上経ち、進化している医療に追いつくのに精一杯ですが、病棟の皆様にご指導いただきながらなんとかついていく日々です。皆様との出会いに心から感謝しています。

2013年より地域包括ケアシステムについて勉強を始め、研究のテーマは「新卒訪問看護師の育成」でしたが、進捗は現在暗礁に乗り上げ、テーマの選定から吟味中。年々新たなひらめきが減り苦戦中です。そんな矢先、NHKで「ひらめき」は「リラックスした」状態や、「ボーッとしている」状態の時にやってくるという素敵な番組を見ました。常に



愛犬、ちょこ



真狩からの羊蹄山

1年を振り返って

3A病棟 早川 舞桜

入職して1年が経ちました。急性期で働きたいと自分で希望し、3A病棟へ配属となりました。入職した当初は業務量の多さや重症患者を見ることの責任感など不安でいっぱいでしたが、気付けばあっという間に2年目になりました。まだまだできないことが多いですが、病棟のみなさんに優しく教えていただきながら楽しく仕事ができています。しかし、何度か心が折れそうになったことも正直ありました。そんな時は看護学校の友達と会って元気をもらっています。今年の6月には前々から友達と計画を立て、1泊2日の温泉旅行に行きました。頑張る糧を作り、仕事を頑張っています。

1年目の冬頃から受け持ち看護師として、看護過程や看護添書の作成などを体験させていただきました。2年目の春には受け持ち看護師として、ストーマ装具の選択や発注・ストーマ装着の指導を先輩方に教えていただきながら実施でき、貴重な体験となりました。

何かを考えていることが良いアイデアに結びつく訳ではない、「余白」や「ゆとり」「癒やし」は生きる上で大切なエッセンスであると感じました。

今回はリラックスしているときに私が見ている景色を2つご紹介したいと思います。1枚目の写真は愛犬のちょこです。気が弱くてびびりで甘えん坊の男の子、夜勤が明けて自宅に帰るとちぎれそうなくらい尻尾をぶんぶん振る姿に癒やしをもらっています。2枚目の写真はロードバイクで周遊した羊蹄山麓、真狩温泉からの羊蹄山です。北海道の大自然の中、風を感じて駆け抜けるのは、頭と心を空っぽにするにはもってこいの方法です。

仕事、犬、趣味、今ある生活を楽しみながらひらめきを待ち、小さくとも何か社会の「よりよい」を考えていきたい、2025年の夏となっています。

今年の7月にはホリスター主催のストーマの勉強会にも参加させていただき、より知識が深まりました。患者さんを通して様々なことを学べることができ、これからも看護師として日々努力していきたいと思っています。

看護師として、1人の人間としてまだまだ未熟な私ですが、今後もみなさんにご指導いただき、成長できるように努力し続けていきたいと思っています。



3 B病棟

【スタッフ】

岡本 麻理 看護課長
宮下めぐみ 看護係長
村山 綾香 看護係長
看護師 23名
(うち夜勤専従：4名、短時間正職員：2名)
看護補助者 5名
看護事務 1名

【部署の特徴】

3 B病棟は、整形外科と泌尿器科の混合病棟です。
整形外科は、幼児から超高齢者まで幅広い患者さんを対象とし、骨折、交通外傷など周術期を中心とした急性期看護を行っています。

泌尿器科の主な疾患は尿管結石、腎結石、前立腺がん、膀胱がん、腎がん、慢性腎不全などです。検査や手術、化学療法、ターミナルケア、透析療法と求められる知識の幅は広いです。また、整形外科、泌尿器科ともに高齢者が多いため、家族を含めた援助が必要となり、高い看護スキルが求められます。

以前に増して看護師一人一人の知識の向上と安全な看護が提供できるよう努めています。

【実績】

病床利用率	平均在院日数	入院転入数
76.2%	14.7日	1082人
退院転出数	手術件数	
809人	998件	

【令和6年度の取り組み】

今年度の3 B病棟は、看護部の目標をもとに「患者、家族の意向に沿った看護過程を展開する」「患者を生活者と捉え、早期に退院支援を行う」「医療安全に対する取り組みを継続することでインシデントが減

少する」という目標を立て1年間活動を行いました。

前年度に引き続き、患者さんやそのご家族一人一人に寄り添った看護を提供できるよう、個別性を重視した看護計画の立案に努めました。そのためにカンファレンスを開催し、情報を共有して計画に反映しました。退院に向けた関わりは、患者さんのQOLを損なわずに治療を進めるうえで非常に重要です。そのため、早期の段階から退院先を見通し、患者さんやご家族が望む生活の実現に向けて退院支援を行いました。こうした活動を通じて、スタッフ一人一人が個別性を踏まえた看護過程の展開の重要性を意識することができました。

また、高齢者が多い中、認知機能が低下している患者さんも少なくなく、日々転倒・転落やチューブ類に関するインシデント、薬剤投与に伴うインシデントなど、様々なりスクと隣り合わせの状況にあります。患者さんがこれまで以上に安心して治療が受けられるよう、一つ一つの関わりを丁寧に振り返り、安全性の向上に繋げる取り組みを行いました。今後もインシデント〇を目指し、医療安全への取り組みを継続していきます。

【今後の目標】

急性期病棟では治療が優先されることが多く、入院や手術の入退室も頻繁にあるため、日々の業務に追われがちです。その結果、患者さんへの接遇が十分に行き届かないことも少なくありません。だからこそ、患者さんの気持ちに寄り添い安心感を持って治療が受けられるよう、「この病棟に入院してよかった」と感じてもらえるような看護が提供できる病棟にしていきたいよう、日々取り組んでいきたいと考えています。

文責 看護係長 村山 綾香

私の趣味活動

3B病棟 佐々木 知美

新卒で入職し33年目となりました。

その間には結婚・出産・育児を人並に経験し現在は仕事と趣味活動に勤まらせていただいています。ちなみに、私の趣味とは、ゴルフと推し活になります。ゴルフ歴は15年目・推し活については2年目となります。私は若いころからスポーツが好きで、運動神経は悪い方ではありませんでしたが、ゴルフは運動神経があまり関係ないのか、とても苦勞してやっと少しずつ楽しいと思いながらプレーすることが出来るようになってきたような気がします。しかし、メンタルのスポーツであるため、日々自分自身との戦い、葛藤をしながら楽しんでいます。病院では年に1度、和田杯（現在はウェルネス杯）での優勝を目標に日々練習しています。まだ、部員が多くないため、是非興味のある方がいましたら一緒に楽しみませんか。大募集中です。

次は私の推し活についてですが、ゴルフタレントの瀬戸はるか(せとはる)を応援しています。この推し活を通じて、全国のせとはるファンと仲良くなり、千

葉、茨城、軽井沢、石垣島、タイなど色々な土地でゴルフをし、また、せとはるとゴルフをすることが出来たりと、充実した日々を送っています。この趣味活動を糧に仕事と趣味の両立をしていきたいと思っています。



夜勤専従として

3B病棟 水沼 晋

夜勤専従として当院に勤め1年と半年ほどが経ちました。元々前の病院では常勤として勤務していました。日勤と夜勤をしていく中で睡眠のバランスが崩れてしまい、夜眠れなくなる、次の日も日勤だからと早く寝ようとするが眠れず、アルコール度数が強いお酒を飲み何とか眠るという生活をしていました。もちろん勤務中は眠れないので疲労はどんどん溜まっていくばかりでした。どうか昼休憩時間足を伸ばし目を閉じて休みたいと思いますが、日々行われる勤務は過酷でそんな時間はありませんでした。

前の病院では1年に2回ほど夜勤専従をする月がありました。私にとっては本当に体のリズムにあった働き方で、その月は気持ちが晴れやかだったのを覚えています。このまま体調が悪くなっていくよりも今できる働き方、自分の体調に合わせた働き方について考えるようになり、いずれ夜勤専従で働いてみるのもありだなと思いました。求人サイトを見てみると当院で夜勤専従の募集があることを知りすぐに応募したことを今でも覚えています。

夜勤だけをする事になりQOLの上昇を感じていますし、あんなに睡眠に困っていたのに今では昼夜問わずどこでも眠れるようになりました。また日中やまとまった休みの時間ができ趣味の時間を大切にできています。長い時間勤務することは大変な時もありますが夜勤明けに趣味であるサウナをすることは楽しみの一つです。普段サウナに入るよりも水風呂に入り椅子に座っている時間、宙に浮いているような感覚になり、格別に整い、夜勤の疲れはひとつ飛びです。ぜひ日々の疲れを癒しに皆さんも入ってみてください。

これからも仕事はもちろんのこと、休日を充実させ気分転換をしながら楽しく過ごせたらなと思っています。



お気に入りのサウナ3選

4 A病棟

【スタッフ】

佐藤 悦子 看護課長

佐野 舞 看護係長

仙保 知子 看護係長

看護師：27名 看護補助者：6名

医療クラーク：1名 看護事務：1名

(うち短時間正職員：2名 看護師夜勤専従：4名

看護補助者夜勤専従：1名)

3学会合同呼吸療法認定士：1名 特定看護師：1名

【部署の特徴】

4 A病棟は、消化器内科、脳神経内科の急性期病棟です。予約入院のほか、他医療機関からの紹介患者の受け入れを行っています。

消化器内科では、糖尿病（教育入院）や誤嚥性肺炎、虚血性腸炎、大腸憩室炎、胆膵疾患に対する内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的胆道ドレナージ術（EBD）、治療内視鏡では胃や大腸の腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）、消化管閉塞に対するステント留置術、出血性疾患に対する止血術を行っています。

脳神経内科は、後志圏内では数少ない急性期病院として、脳脊髄、末梢神経、筋肉に関連した疾患の診断と治療を行っています。患者平均年齢80歳、認知症ケア加算対象者が多く、脳卒中やアルツハイマー型認知症をはじめとする認知症疾患、パーキンソン病および関連疾患も増えています。認知症の患者が増加し、身体疾患を持った認知症患者は、せん妄や行動・心理症状を起こしやすく治療に難渋する事が多いです。受持ち看護師を中心にチームで情報共有しながら、患者・家族の思いに寄り添い意思決定支援を行い多職種で連携しながら地域へとシームレスな対応ができるように看護ケアを実践しています。

【実績】

新入院患者数	798人
退院患者数	662人
平均在院日数	16.9日
稼働率	72.2%
内視鏡件数	366件
認知症ケア加算	8810件
入退院支援加算	402件

【令和6年度の取り組み】

1. 患者・家族の意向を反映した看護過程を展開し、多職種と協働した入退院支援を行う

2019年度から看護管理者の倫理研修や倫理事例検討を継続し、倫理的配慮のある看護の提供を目指して

きました。そして、リーダーシップを発揮できる自律した看護師の育成、リーダー教育や人材育成にも力を入れています。しかし、ケア項目が中心となって業務を遂行するだけの看護になり、看護記録監査の分析結果からも患者や家族の思いに寄り添った看護の提供・看護過程の展開や看護計画の見える化も2022年度から継続的に強化しています。安心できる質の高い看護の提供のためには、看護行為が専門的知識に基づき判断され、計画的に提供されなければなりません。そのため、看護師は専門性を発揮し、看護方針を定め、患者・家族の思いを反映した個別性のある看護過程の重要性を再確認し、受け持ち看護師が中心となり、看護過程の展開を行いチーム全体で看護に最善を尽くして協働することが必要であると考えます。

DPCを意識した入退院支援を計画的に行い、患者や家族の意思を早期の段階で確認をしていくことが今後重要となってきます。外来から入院治療が継続され、経過と共に予測される結果のアセスメントを行い、療養先の選定を行わなければなりません。そのため、今後も受け持ち看護師を主体とし、地域を含めた多職種連携を行い、退院後の生活の場の調整をシームレスに整えることが継続的に必要です。退院前カンファレンスや倫理カンファレンスの必要性は、病棟スタッフ全体に浸透することができ、2025年度も継続します。多職種と協働する環境を作り、退院前カンファレンスや倫理カンファレンスの充実化を図ります。

2. 専門性を発揮しながら安全な医療を提供する

キャリアバランスはとれています。その強みを活かし看護師が指示・采配を行う環境・リーダーシップがとれる人材育成が必要です。その中で、看護師が専門性を発揮することが今後さらに求められます。

リーダーシップ、メンバーシップの基軸ができたため、評価基準に基づいて評価しスタッフ育成に取り組んでいきます。患者・家族が安心安全に入院生活を送れるように、感染対策やインシデント減少、医療安全にも力を入れます。各委員会やリンクナースと協働し感染対策、医療安全、褥瘡予防にも取り組んでいきます。

タスク・シフト／シェアでは、看護補助者が看護師の指示のもと依頼票を使用した患者移送業務を実践していきます。アサーティブなコミュニケーションを図り、気持ちよく働ける環境を作ること。ワークライフバランスをとりながら、仕事に意欲的に取り組めるように、定時上がり制度を継続して帰る風土づくりを行います。そして時間外削減にも結びつけます。

【今後の目標】

受け持ち看護師が中心となり役割や責任を発揮できるようになってきましたが、DPCを意識し管理職からも退院支援についてはプッシュしてきましたが、受け持ち看護師やMSWの不在時など退院調整が日々のリーダー主体となり他のスタッフへ共有されていない事もあります。しかし、退院前カンファレンスや倫理カンファレンスの必要性を理解でき多職種と連携して実施する事は増えてきました。ケース記録を統一した

ことから情報共有できシームレスな退院支援が実施できてきました。今後も受け持ち看護師を主体とし、DPCを意識し地域を含めた多職種連携を行い、退院後の生活の場の調整を整えることが継続的に必要です。

今後は、業務の現状分析、業務改善、タスク・シフト/シェア、業務の効率化、看護の専門性を活かし患者の安全安楽、看護の質の担保に努めます。

文責 看護課長 佐藤 悦子



看護師2年目としての成長

4 A病棟 足利 菜緒

看護師として2年目を迎え、1年目とは異なる視点で業務に向き合うようになりました。1年目は毎日が初めての連続で、与えられた業務をこなすことで精一杯でしたが、2年目になるとある程度の業務に慣れが出てきて、1年目よりも業務の優先順位を考慮したタイムスケジュールで動くことが出来るようになったと考えます。

特に大きな成長と感じたのは、夜勤において自立できるようになったことです。1年目では先輩の指導のもとで行動していた夜勤も、2年目からは一人で複数の患者さんを受け持ち、状況判断をしながら看護を行う機会が増えました。夜間という限られた人員の中で、緊急対応や観察のポイント、報告・相談のタイミングなど、自分の判断が患者さんの安全に直結する場

面が多くなり、責任の重さを実感しています。

また、日勤業務においても、受け持ち患者数の増加や重症度の高い患者さんの担当など、業務の幅が確実に広がりました。それに伴い、これまで以上にアセスメント力や優先順位の判断力が求められるようになり、疾患や治療についての継続した学習が必要であると改めて実感しました。特に申し送りの際には、必要な情報を簡潔に伝える力や、他職種と連携する際の視点も養われていると感じています。

2年目になっても戸惑いや不安を感じる場面は多いですが、失敗や迷いも含めて一つひとつの経験が自分を成長させてくれていると実感します。夜勤の自立という節目を通して、自信と同時にさらなる責任感が芽生え、自分がチームの一員として貢献している実感も持てるようになりました。

今後も目の前の患者さんにとって最善の看護ができるよう、日々学びを重ねていきたいと考えます。そして2年目という経験が、これからの看護師人生の基礎となるよう努力していきたいと思います。



最近はカレーを食べることに嵌っています！
小樽～札幌圏の色々なカレー屋さんを巡っています。

正看護師として1年

4 A病棟 田中 裕樹

正看護師になって1年が経ちました。以前は車の整備士として小樽のディーラーで12年ほど働いていましたが、自分の中で一つの目標であった看護師と言う職業を諦めきれなく学校を受験したところ、6年前に小樽市医師会の学校に合格できました。それから正看護師になる目標が現実となったため整備士を退職して、済生会の4 A病棟で看護助手として働き正看護師になるため新たなスタートラインに立ちました。学業と仕事の両立は大変で何度も挫けそうになったこともありましたが、所属部署の4 A病棟の上司・先輩看護師・同期のメンバー・看護補助者の皆さんがとても親切で、学業・仕事を両立することができました。昨年

念願の正看護師になることができ、正看護師となってあっという間に1年経ち、ここまで頑張れたのは、4 A病棟の職員のサポートがあったからだと思っています。

正看護師としての業務は准看護師と比べて責任の重み・患者への対応など、私はまだまだ未熟なため先輩看護師のサポートを受けて日々自己研鑽しながら過ごしています。私が受け持った患者・その家族が退院するとき笑顔で自宅や施設に退院したときは、やっぱり看護師となって患者と関われたのかなと思いつつ、もっと患者のためにできたことはなかったのか、日々考え業務を心掛けています。

正看護師として1年目ですが、私の看護師としての初心は「患者・その家族が笑顔で退院する」を心掛けているので日々自己研鑽して看護援助できるよう頑張っていきます。



ラーメンが好きなので、色んなお店に食べに行きます。



夏は車やバイクで自然を見に行くことがあります。

4 B病棟

【スタッフ】

伊井 洋子 看護課長
中山 優子 看護係長
大崎 朱美 看護係長
看護 師 20名（認知症ケア認定看護師 1名）
看護補助者 9名（うち介護福祉士 3名）

【部署の特徴】

地域包括ケア病棟は、急性期治療を終えた患者さんの退院支援や、他院からのリハビリ継続の依頼、ケアマネージャーを通して在宅で療養している患者さんの入院の相談にも対応しています。当院は、入院から退院まで、切れ目のない医療の提供を強みとしていますが、その一端を担い病院と地域を『つなぐ』役割を果たしていきたいと考えます。

【実績】

入院数	院内転棟(率)	自宅等からの入院(率)	ポストアキュート	平均在院日数	在宅復帰率
525人	229人(56.9%)	165人(31.4%)	61人 *小樽市立病院33人	30.0日	76.7%

*前年度より、入院患者数1.4倍、平均在院日数は7.5日延長しました。

*ポストアキュートとして、地域の急性期病院からの受け入れを行っていますが、5割以上が小樽市立病院からの受け入れとなりました。

【令和6年度の取り組み】

地域包括ケア病棟の使命は、高齢者が、住み慣れた地域でできるだけ長く生活できるように、入院中から地域での生活に必要なものは何か、多職種と連携して患者さんの支援を行うことです。今年度は患者さんのより良い退院に向けて、「患者さん中心の退院支援を行う」とことと「患者さんに合わせた安全な療養環境を提供する」ことを目標に取り組んできました。

患者中心の退院支援を実践するために、受け持ち看護師としての実践力を強化する必要があると考え、受け持ち患者の情報収集と、チームで情報を共有するための方法と時間の確保に取り組みました。多職種とのカンファレンスも積極的に行いましたが、持っている情報を効果的に記録に残せていないと感じました。

安全な療養環境の提供に関しては、患者さんの増加に伴い転倒・転落件数も増加し、レベル3a以上の事案も発生してしまいました。患者さんが転倒してもケ

ガをしない環境を心がけ、リンクナースと共にスタッフへの周知や、環境整備のチェックポイントを可視化しました。

【今後の目標】

高齢者医療を取り巻く環境は日々変化し、小樽市も、ますます高齢化が進んでいきます。地域包括ケア病棟の役割の一つとして期待されるサブアキュートは、患者さんができるだけ長く、住み慣れた地域で生活するための手段として有効であると考えます。外部からの患者の受け入れも積極的に行いたいと考えているため、地域からの信頼を得て患者さんに選ばれる病院になるよう、スタッフ一同取り組んでいきたいと思っています。

文責 看護課長 伊井 洋子



サイベリアンと私

4 B病棟 佐々木 真琴

来年、とうとう初老を過ぎ中老50代の仲間入りなのですが、腰痛・四十肩・目のかすみ…身体のあちこちにボロがでてきて。おいしいものを食べることにしか楽しみがないのに、運動不足や代謝の低下からわがままボディに拍車がかかり、生活習慣病まっしぐら。そんな私に、たったひとつだけ生きがいと呼べるものがあります。それは猫です。

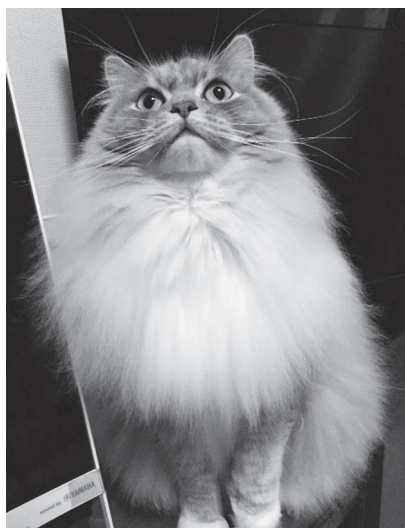
私は猫アレルギーの猫好き。アレルギーとわかったのは20代の時の咳喘息発症。それからは、“こんなに好きなのに飼えないのか…”と、やさぐれていたのですが、4年前サイベリアンと出会いました。

サイベリアンフォレストキャットは、ロシア原産の長毛種で極寒の地で生き抜くために猫の中では唯一のトリプルコート。もっふもふです。毛が長いのにアレルギーは出ないの？と思いますよね。猫アレルギーの

原因は唾液に含まれるたんぱく質であり、そのアレルギーのたんぱく質が他の猫種と比べると少ないのです。(ただし、まったくのゼロではないし個体差もあります)

今、家には4歳のまろん(長女)と2歳のゆず(次女)がいます。めちゃくちゃ仲が悪いです。一緒に寝ている所なんて1~2回しか見たことがありません。だからこそ、“一緒にハンモックに乗ってる!” “ゆずがまろんのグルーミングしてる!” “一緒に窓の外を見てにやるそっくしてる!” とか、極たまにみせる仲良さそうな姿に一喜一憂しています。

そんなサイベリアンの平均寿命は14.2歳。まろんとは、あと10年足らずしか一緒にいられません。良い猫生だったと思ってもらえるよう、身を捧げる覚悟ですが四十肩のため猫じゃらしを振れません。痛みを堪えてなんとか遊んでいますが、その度に鋭い痛みが走り悶絶する日々です。まろんとゆずのために健康を取り戻し、しっかりと働き、猫たちとの幸せな生活を満喫したい!!!



長女のまろん



次女のゆず



2匹並んでにやるそっく

彼氏の幼馴染の母親とその友達2人と一緒に2泊3日で旅行に行ってきました！今考えても自分が場違いな気がします誘っていただいたことに感謝です。今回の旅行は大阪→高野山（和歌山県）→大阪の順で動いています。

最初の大阪では事前に同期の子に教えてもらったおいしいたこ焼き屋さんに行ったり、グリコの前でポーズをとったりと久しぶりの大阪を満喫しました！特に大阪でしか売っていないりくろーおじさんのチーズケーキは絶対に買ったかったので、わがまを言って行列に並ばせていただき購入しました。購入する直前に自分の並んでいる列が冷めたチーズケーキを買う列だと気付きました。冷めた状態でもしっとりとしておいしかったのでいい思い出です。でも、次は絶対に焼きたてを2個買います。チーズケーキの後はホテルに向かい1日目は終了です。

2日目は大阪から高野山に向かいました。お友達の一部に晴れ女がいたため高野山は快晴！高野山の駅に売っていた焼き餅を食べながらさらに山奥へ向かうためのバスに乗り、車内で高野山の説明アナウンスを聞きながら高野山の宿坊、成福院に到着しました。一息ついた後はお目当ての奥の院に行きました。入り口は森の中に石畳があり、まっすぐ進んでいくと本当に多

くのお墓がありました。その道中には何百年も前からある大きなお墓や、小さくして亡くなった子供の墓、織田信長、徳川家康などの有名武将の墓など様々ありました。彼氏の幼馴染の母は靈感のある方で、見えなものがどのような言動をしているか教えてくれました。織田信長の墓の前では呼ばれて階段の右側を登り、ある場所で頭を下げるよう要求があり、その奥にも道はあったのですが親族ではないと進むことを拒まれ、また階段の右側を通って階段を下るように指示があったなど天下のうつけものはやるのがちがうなと思いました。一番奥には空海が現在も瞑想を続けているとされる場所がありました。どれも私には何も感じられませんでした。空気の澄んだ素敵な場所でした。その後は宿坊に戻り精進料理を食べました。その中の胡麻豆腐は名物であり、大変おいしかったです。

3日目は朝早くに宿坊の周りを散歩し、朝の読経を聞いた後、再度精進料理を食べました。帰りに高野山駅で笹ずし（鯖の押し寿司）と研修を一緒に受ける仲間と家族、自分用に胡麻豆腐を買いました。（この胡麻豆腐は帰って食べたところおいしくなかったため渡せませんでした。ごめんね。）再度大阪に戻り、空港で食べたりなかったたこ焼きを食べて札幌へと戻りました。

自分ではいけない場所に連れてっていただき、分からないながらも貴重な経験をさせていただきこの3日間は非常に充実していました。今後も旅行など自分の時間を大切にしながらも、看護師として成長できるよう、日々経験を積んでいきたいと思います。



宿坊 成福院



奥の院



精進料理

5 B病棟

【スタッフ】

兒玉真夕美	看護課長
石渡 明子	看護主幹
佐藤由紀枝	看護係長 認知症ケア認定看護師
小野 智子	看護係長
看護 師	23名（夜勤専従 3名）
准看護 師	1名
介護福祉士	4名
看護補助者	3名
看護事務	1名

【部署の特徴】

5 B病棟は、急性期治療を終えた主に大腿骨骨折の手術後や脳血管疾患の患者を対象に家庭復帰・社会復帰を目指して365日リハビリテーションを重点的に行っています。自院だけではなく、他院からの紹介、全国各地からの転院もあります。集中したリハビリテーション実施により入院中の患者のADLは著しく変化していき、ADL向上に伴う転倒リスクも必然と高くなっていくため、多職種チームで構成（看護師、看護補助者、リハビリスタッフ）した転倒・転落WGチームが主体となり病棟全体で安全な医療の提供に努めています。

医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種がそれぞれの専門性を最大限に発揮し、一つのチームとなって患者・家族の想いに寄り添いながら質の高いサービスの提供を日々目指し実践しています。

【実績】

入院患者数	285人
稼働率	92.2%
重症度	42.8%
平均在院日数	58.1日
在宅復帰率	85.5%
院内転棟患者数	162人
他院からの紹介患者数	180人

【令和6年度の取り組み】

回復期リハビリテーション病棟は様々な職種と密な関わりが多く多職種での取り組みが重要であるため、多職種で行う合同勉強会にも力を入れています。『在宅看護の実際と患者さんの希望を叶えるために』と題して以前当病棟で勤務され、現在訪問看護師として活躍している看護師を講師に招き、訪問看護師側の意見や思いを聴ける貴重な場をもつことができました。病院以外の実際の声を聴き、地域との連携が退院後の患

者の生活に大きく影響するため今後も院内だけでなく外部との連携を継続していきます。

また、他院から紹介があったら『すぐに対応』をモットーに取り組んできました。市内・市外関係なく紹介をいただいたらすぐに判断し2週間以内に調整していくことを心掛け、8割以上の患者の調整を目標通りに実践することができました。前年度より稼働率は3%程低下していますが、これは、急性期病棟のDPC期限を意識した運営、リハビリ状況など患者の状態によったこれまで以上の地域包括ケア病棟の活用、さらには、他院のCOVID-19クラスターによる転院制限などの影響がありましたが、早期に入院受け入れの対応を実践してきたことが僅かな稼働の減少で留まったと考えています。

また、患者一人一人の栄養管理や口腔環境の整備にも力を入れ市内の歯科と連携し、10月より試験的に歯科往診に取り組んできました（表1）。リハビリテーションと栄養、口腔の三位一体となり取り組んでいくことが口腔の健康を維持し、リハビリテーションの効果を高めることや栄養状態の改善に繋がるため、これらが重要であることを伝えていながらより効果的なリハビリテーションの提供となるように取り組んでいきたいと思っています。

【2024年度10月～2025年度3月における歯科連携実績】

（表1）対象患者：脳血管疾患 11名 運動器疾患 13名

	往診日数	往診患者数
10月	5日	11人
11月	3日	9人
12月	0日	0人
1月	3日	9人
2月	3日	8人
3月	2日	5人
合計	16日	42人

【今後の目標】

次年度は、コロナ禍で制限されていた談話室での食事の再開や入院中であっても病衣から日常の衣服に着替えるといった退院後に近い生活を想定した環境に整えていけるよう多職種一丸となって取り組んでいきたいと思っています。さらに、リハビリテーションがより効果的になるよう市内の歯科クリニックとの連携をさらに強化し実践していきたいと考えています。

また、回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰを取得し続けるためには、リハ医療を提供するために必要な人員をそろえ、ある程度医療依存度の高い重症患者を受け入れてリハ医療を提供し、回復してもらうこと

が必要となります。後志地域の高齢化は著しく、患者・家族が望む住み慣れた場所へ戻るためのリハ医療の提供は今後も重要な部分を担っていると感じています。今後も各職種の専門性を最大限に発揮するために、対等な立場で尊敬しあえる関係を保ちながら、患者や家族の想いを実現するためのチャレンジ精神を大

切にし多職種で協働していきたいと思います。今後も選ばれる回復期リハビリテーション病棟を目指して頑張っていきます。

文責 看護課長 児玉 真夕美



仕事と私生活のバランス

5 B病棟 永澤 誠

私には幼稚園に通ってる4歳と1歳の息子が2人います。以前は小樽から札幌の病院に通っていて、日勤と夜勤の勤務で働いていました。通勤時間がかかることもあり、日勤では登園を見送ることもできず、帰宅後はただただ夕食を食べ、寝かしつけで終わる一日がほとんどでした。子供はいずれ親離れをしてしまうので、小さいうちは子どもとの時間を大切にしたいという思いから、夜勤専従の働き方を選びました。

夜勤専従の勤務は体力的な負担はありますが、日中の時間を確保できるため家族はもちろん、自分のためにも時間を使うことができます。今では、毎日幼稚園の送迎をしたり、帰りに公園に行って遊んだり、行事に参加出来たりと充実した日々を送っています。

夜勤専従だからこそ、患者さんとゆっくり関わる事ができたり、夜勤でしかみえない表情や声に向き合うことができるのはやりがいの一つかもしれません。

看護師としてのスキルアップは大事かもしれませんが、父親として子供たちとの時間を大切にしたい。何をどのように選択するかということは難しいですが、自分にあった働き方を見つけることで、心に余裕がも

てました。ワークライフバランスやワークライフ・インテグレーションを考えることが、今の時代の働き方の一つなのかと思います。

以前は電子カルテがなく、記録も手書きの病院での経験しなかったため、電子カルテや記録の書き方ひとつとっても、転職に大きな不安を抱えていました。みなさんの優しく丁寧な指導のおかげで、現在も続けて働くことができています。これからも、チームの一員として頑張っていきたいと思います。



幼稚園帰りの水族館散歩

念願だった看護師としての1年を振り返って

5 B病棟 石田 綾乃

会社員、専業主婦、飲食店でのパートタイマーを経て看護師となりました。同期は親子ほど歳が離れています。この歳でなぜ看護師になったのかというと、私には2人の息子がおり、何度も熱性痙攣や骨折した過去があります。そんな我が子をただ見ているだけで、何もできない自分がもどかしく「看護師だったらなあ」と、いつも思っていたからです。また、高齢化が進み看護師不足が懸念されている現在、私でも社会貢献できるのであれば挑戦してみたいと思い、看護学校に入学したのです。

学生時代は20年ぶりの講義で新しい学びを得ることが非常に楽しく、睡眠時間を削って学習した記憶があります。しかし、入職後は看護学校で学んだことと日々の看護が結び付けることが難しく、看護学校の3

年間は何だったのかと自分につかりしてしまいます。さらに、複数の患者さんを同時に受け持ちケアを進めるためには優先順位を考え、行動計画を立て、時間管理が必要ですが、なかなか計画通りに行かず、いつも時間に追われて、息をするのも忘れてしまうほどです。

こんな要領を得られない私ですが、患者さんの笑顔や「ありがとう」の言葉と、忙しい中でも「大丈夫？困ってない？手伝えることはない？」と声をかけてくれ、チームを越えて、看護技術習得の機会を提供してくれる先輩たちの温かいサポートのおかげで、なんとか1年看護師として働くことができました。

いろいろ困難はありますが、今、毎日がとても充実しています。社会人を経てでも看護師になって本当に良かったです。

電子カルテの操作や新しい知識、技術の習得に時間がかかっていますが伸び代しかないと思うので効率よく行動できるよう日々、自己研鑽していきたいです。



大好きな指導者清水さん

外来看護課

【スタッフ】

伊藤 瑞代 看護課長

吉田真知子 看護係長

中山 祐子 看護係長

正職員看護師 7名

(うち資格取得者：糖尿病療養指導士 1 名)

内視鏡技師 4 名

NST専門療法士 1名

緩和ケア認定看護師 1 名)

短時間正職員 7名

パート職員 4名（うち准看護師2名）

【部署の特徴】

当院外来は内科・外科・整形外科・泌尿器科・循環器内科・脳神経内科・リハビリテーション科・精神科と8診療科に分かれており、看護活動を行っています。患者の症状を聞き取り、診療科を選択する相談や診察時の介助、採血、検査説明や検査介助、治療内容や入院説明、その他様々な業務やケアを実施しています。

外来は患者が病院に来て最初に足を踏み入れる場所であり、初めて医療従事者に接する場所でもあります。その為、安心して診療や検査を受けて頂けるように看護スタッフは患者の話をよく聞き、よく看る事を心掛けています。また、自身の看護知識・技術の向上を目指し、多職種とも連携し「質の高い継続した看護」が提供できるよう日々努めています。

【実 績】

令和6年度外来患者数

科別	外来患者延数(人)
内科	22,619
外科	1,764
整形外科	41,770
泌尿器科	17,738
精神科	1,040
循環器内科	5,827
脳神経内科	4,827
リハ科	529
総計	96,114

令和6年度内視鏡・化学療法件数

内視鏡検査	1,298
内視鏡手術	272
化学療法延件数	544

【令和6年度の取り組み】

継続看護の実践については退院時カンファレンスの参加数が前年度より多くなり、スタッフ間での情報共有ができ、受診時のケアの提供や評価を実施することができました。また看護計画を今年度より実施できるように勉強会を行い件数は少ないですが立案することができました。

タスク・シフト／シェアの推進では医療クラーク課との業務整理や看護補助者の業務の見直しスケジュールを作成し実働しています。

医療安全意識の向上のため朝礼で周知を行い、対策を実施していましたが振り返りが不足していたため今後の活動は継続していきたいです。

【今後の目標】

専門的な継続看護の提供・働きやすい職場環境の整備・チーム医療推進・接遇力の向上を目標にしました。病棟と連携を取り、退院時カンファレンスに参加し、外来で情報共有し看護計画を立案し、看護ケアに繋げ、多職種との協働や、訪問看護師との連携などにも力を入れていきたいと考えています。

文責 看護係長 吉田 真知子

手強い侵入者VS頑張れ私

外来看護課 菊地 麻衣子

私が20年以上住んでいる家の敷地に、突然隣のお宅のツタが侵入してきているのを発見！隣のお宅の庭、さらに堀を伝って、今年5月頃より徐々に私の家の庭周囲に侵入してきました。ツタを発見後、私は敷地内にツタが伸びてきたら切り、そしてまた伸びてきたら切りを繰り返していました。しかしツタは思った以上に頑丈で、か弱い私が引っ張るのには相当力が必要です。

以前、引っ張りすぎて尻もちをついてしまったので、最近ではさみで立ち向かう事にしました。周りの

人からは「ツタは根っこを切らないとダメ！」と言われましたが、根っこは隣のお宅の敷地内にあると思われ、どこから侵入してきているのかわからない状態です！

一方、隣のお宅は全く気にならないようで、庭の中や壁にツタが張っていてもそのままです。ツタは雨が降ると伸びるのが早いようで、気が付いたら私の家の庭に、さらにさらに伸びてきます。暖かかった今年は、ツタの成長が早く、1カ月に1度は切っています。こんな事がこれから毎年続くのかと考えると、大変な思いと共に、私の筋肉も仕上がってきそうです。そして、私とツタの戦いはこれからも続くのでした。笑

透析看護課

【スタッフ】

本間美穂子 課長 フットケア指導士
井上 晶子 係長
看護師 5名 (慢性腎臓病療養指導看護師1名)
(糖尿病療養指導士1名)

【部署の特徴】

当院透析室は、末期腎不全患者さんの透析導入から維持透析まで継続して血液透析治療を提供できる施設です。透析室内に25台の透析監視装置を有し、最大75人の透析患者さんに対応することができます。透析看護課は一生涯続く透析治療を受ける患者さんへ、身体面、心理面、社会面など患者さんが安心して生活を続けられるためのサポートを、医師や臨床工学技士などの多職種と協働しながら行っています。

【実績】(患者数・手術件数などは、別項目にて記載します)

【令和6年度の取り組み】

透析患者さんの高齢化が進み、認知症を抱える患者

さんや高齢夫婦世帯の外来通院には、様々な課題があります。患者さんを生活者として捉え、安心して外来通院を継続できるよう、家族やケアマネなど、患者さんを取り巻く地域の方々との連携をより強化することで、患者さんが望む場所で患者さんらしく生活を送ることを目指して支援してきました。透析患者さんを取り巻く諸問題は多岐に渡ります。自己管理や通院継続に関することなどの問題解決に向けて月に1回、医師、臨床工学技士、看護師による多職種カンファレンスにおいて、情報を共有し、患者さんが望む生活を送りながら外来通院を継続するために必要な連携や調整について相談しながら進めています。今後も、受け持ち看護師が中心となりチームや部署全体で支えていける看護を目指していきます。

【今後の目標】

透析患者さんを取り巻く諸問題など、先を見据え看護師一人ひとりが考えられ、皆で協力し合える部署を目指し、日々の看護に努めていきたいと思っています。

文責 看護係長 井上 晶子



CDEJは、少数派？

透析センター 湯浅 真紀

私が初めて勤務したのは、外科・皮膚科・総合診療科の混合病棟でした。基礎疾患に糖尿病のある人が必ずおり、薬の配薬やインスリン注射の施行時間も多様でした。病棟に勤務するまでは、学生時代も含め、糖尿病には全く関心もなく、もちろん知識ありませんでしたが、こんなに多くの糖尿病のある人がいるのであれば、糖尿病の事を勉強しないと、これからはやっていけないと感じたのがきっかけで、現在に至っています。

糖尿病の専門病院に転職してからは、CDEJ（日本糖尿病療養指導士）の資格を取得するというのが、採用条件にもありましたので、周りにCDEJがいるのが当たり前前の環境で、むしろCDEJの資格を持っていない私が、当初は少数派でした。毎週院内で症例カンファレンスがあり、SMBG（血糖自己測定）の指導、インスリン導入時の指導、採血では高血糖・低血糖の対応等、今考えると、多岐にわたって糖尿病のある人と接していたのだと感じます。その頃は、コロナ前で、勉強会も多く、多い時では月に2～3回勉強会に参加していたと思います。というのも、CDEJの資格を更新するためには、単位取得が必要で、それも1群、2群それぞれ20単位の取得が必須条件だったこともあります。常に私の周りに糖尿病の情報があり、同僚とも職場以外でおしゃべり（という情報交換）ができる楽しい時間でもあったように思います。

コロナ禍では、勉強会も激減し、ズームでの開催が増え、対面とは違う、孤独でただ単位を得るために参加するという時期もありましたが、最近はまた対面での勉強会も増えてきており、行くまでは面倒だなと思いつつも、参加すると一つでも得られる知識があり、良かったなと実感することができます。

さて、私が当院に入職してからのお話しとなりますが、今ではCDEJを持っている私が少数派で、世の中でCDEJを持っている人ってこんなにいないのだと、びっくりしたといえますか、心細い日々を過ごしています。では、どう乗り切っているかというところ、今までの培ってきた人脈を駆使し、困った時はCDEJを持っている看護師の友達や先輩に相談しながら、解決しています。透析患者の原疾患では、依然と糖尿病のある人が多く、指導が必要な方も中にはいます。本当はもっといい指導ができれば、糖尿病のある人の生活が、もっと豊かになるのではないかと、思う事もありますが、そこは今後の課題でもあります。

最後に、お気づきの方もいらっしゃると思いますが、本稿中あえて「糖尿病のある人」と表記しています。糖尿病医療の現場では、スティグマを生じやすい表現は避けるべきだという動向があり、「糖尿病」という名称の変更も検討されています。かくいう私も、最近知った次第です。気が付けば、世の中の情報から置き去りになっていると感じる事も多い今日この頃ですが、気をつけたいものです。

今後も、私が知り得た情報を職場で共有しながら、自分にできることは何だろうと考えつつ、日々邁進していきたいと思っています。



豪徳寺のたまちゃん

手術・中材看護課

【スタッフ】

臼杵 美花 看護課長
佐々木雪絵 看護係長
看護 師 8名
(うち雇用契約職員 2名 短時間正職員 1名)
看護補助者 1名

【部署の特徴】

当院手術センターでは、整形外科・外科・泌尿器科における局所麻酔・全身麻酔下での手術を実施しています。特に、後志管内の外傷症例を積極的に受け入れていることから、整形外科手術の割合が手術全体の約7割と高いことが特徴です。

手術チームは、麻酔科医・各診療科医師・看護師に加え、診療放射線技師、臨床工学技士などの多職種で構成されており、日々の手術症例ごとに複数のチームが編成されます。麻酔方法や術式の違いにより必要な職種や専門性も変化するため、その都度、新たなチームの中で各職種が専門性を発揮し、円滑な連携を行うことが求められています。また、近年は病棟経験者や他院での手術室経験者が増加し、より多様な背景を持つスタッフが在籍することで、質の高い医療の提供に日々邁進しています。

手術は患者にとって人生の一大イベントです。患者が安全で安心して手術が受けられるよう患者ごとにチーム内で情報共有をし、安全で安心できる手術の提供に努めています。

【実績】

科名	年間手術件数
整形外科	1177件
外科	141件
泌尿器科	246件
合計	1564件

※局所麻酔、全身麻酔を含めています

【令和6年度の取り組み】

手術センターでは、安全な手術の提供を目的とし近年災害が多いことから、災害・急変時対応力の向上として、災害シミュレーションを年2回実施しました。実際、手術中に災害が起きたことを想定したシミュレーションとして、シナリオを用いてスタッフ間の連携や役割、動きを確認しました。急変時対応の勉強会では、臨床工学技士を含む多職種で症例を基に対応を振り返り、現場で活用できる知識・技術の習得を図りました。手術中に起こりうる悪性高熱への対応力強化としては、ガイドラインに基づく勉強会を開催し、使用期限切れのダントロレンを用いて調整方法や投与準備の実践練習を行いました。これにより、悪性高熱の頻度は少ないですが、頻度が少ないからこそ、緊急時の即応性に向け取り組み知識の向上に繋がりました。

手術室看護師の役割強化については、術前訪問で患者の不安軽減を図ることを目的に術前訪問用紙の修正を行いました。術前訪問を実施することで、患者の不安の軽減を図り、訪問で得られる情報の質向上と訪問内容の標準化を進め、術前から安全・安心な手術環境づくりを行いました。

手術を安全に行うためには、コミュニケーション能力の向上は必要であることから、アサーティブコミュニケーションとアサーションをテーマとしたロールプレイングでの勉強会を開催しました。スタッフそれぞれが振り返りを行い、相手への伝え方が柔らかくなっているとの意見が多く、チーム内外での関係構築や安全確認の質向上がみられ、業務も協力的になりました。

また、手術センター特有の重大事故リスク低減のため、マニュアルの見直し、修正やマニュアルの齟齬がないよう、マニュアルの読み合わせを行い認識の統一を図りました。

【今後の目標】

高齢化が進む小樽市において、様々な疾患を抱え手術をする患者が増えていくことが懸念されます。そのため、今後も手術室看護師としての継続的な周術期看護の提供ができるよう術前訪問、術後訪問を行い多職種と情報を共有し、安全かつ安心できる手術の提供を行っていきます。そして、それぞれの専門性が発揮できるよう業務の見直しを行い、医療の質を下げること

の無いよう取り組んでいきます。

また、手術の知識・技術はもちろんですが、看護師が手術を受ける患者・家族の思いを聴き手術室看護師として意思決定を支え、倫理的配慮のある看護の提供ができるよう取り組んでいきます。

文責 看護課長 臼杵 美花



子育てと小樽検定

手術室 野 達也

私が済生会に転職して早5年。元々、療養病院で勤務しており、寝たきりで喋る事が出来ない方がほとんどでした。新しい病院では患者さんと喋れるかと思っていたら、手術室配属となり、またもほとんど寝た状態の患者さんと関わりが中心となりましたが、日々やりがいを持って働いております。

さて、みなさん小樽検定はご存じでしょうか。先日小樽検定2級を取得したのですが、小樽の子育て世代の方には是非とも取得をおすすめしております。特典

として、小樽水族館の入場料が無料、ついでに博物館、文学館、4個あるニトリの美術館も全部無料です、しかも一生涯。コスパ最強だと考えております。小さいお子様の雨の日の外出先に困ったときに、美術館や博物館に気軽に行くことができます。ニトリ美術館に行けば岡本太郎の椅子に座れますし、なんでも鑑定団で10億円と鑑定されたレオナール藤田の絵も見ることができます。個人的なおすすめはステンドグラス美術館。海外旅行で教会に訪れたことがある方なら見たことがあると思いますが、光に照らされた巨大なステンドグラスは圧巻です。

公式ホームページにある過去問10年分を何周かすれば受かるレベルですので、是非チャレンジしてみてください。



①娘と水族館



②ステンドグラス

地域看護課

【スタッフ】

松江知加子 看護課長
尾垣 華誉 保健師・看護師＊入退院支援専従（～10月）
青木 弥生 看護師＊入院支援専従
渡部奈仁子 看護師＊入退院支援専従（11月～）

【部署の特徴】

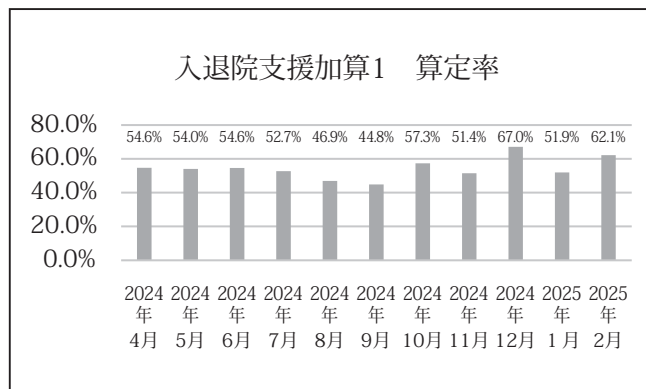
地域看護課は入退院支援・調整、在宅療養支援を実践する部署です。院内外の多職種と連携・協働し、患者を生活者として捉え、入院時から退院後の生活を見据えて、患者・家族が可能な限り望む場所で自分らしい生活を送ることができる支援を目指しています。

【実績】

入院支援介入実績

	介入件数／ 予約入院数	介入割合	
科／年度	2024	2024	2023
整形外科	364／767件	47.5%	27.5%
泌尿器科	117／263件	44.5%	35.6%
外科	59／124件	47.6%	36.2%
脳神経内科	1件		

入退院支援加算1 算定率



【令和6年度の取り組み】

令和6年度は従来から継続している入院支援の拡大と退院支援の構築を柱として、入退院支援の仕組みの再整備を中心に活動を行いました。

入院支援は予定入院の患者が入院後にどのような治療、過程を辿るかをイメージし、安心して入院生活を送れるよう外来において行われる支援です。成果として入退院支援加算1の合算である入院時支援加算が算定されます。今年度は従来の加算であった入院時支援加算2から1取得を目指して取り組みました。

加算1取得に必要な退院スクリーニングの実施と、同時期に変更となった看護師が行う栄養アセスメント（SGAからMNA-SFへ）の開始に向け、部署内で話

し合いを重ね、8月から入院時支援加算1の算定が可能となりました。また、入院支援件数増を目指し、臨時対応（あくまでも予定入院患者が対象）の対象科を2科から3科へ増加（整形外科を追加）、同時に臨時対応受付時間を3時間拡大しました。さらに、忙しい外来からの連絡を待つだけではなく、入院支援専従者が入院決定した患者を積極的に拾い上げて支援介入に結び付けることで、ここ3年間で一番大きく件数を伸ばすことができています。

また、今年度は初の内科系の入院支援を開始しました。当院は予定入院が全体の6割を占めています。内科系に参入するにあたり、内科系の入退院支援加算算定率、予定入院が多い疾患や入院期間、4A病棟が入院支援の非介入病棟であること、地域看護課のマンパワー等を鑑み、令和7年1月から脳神経内科の入院支援を開始しました。年度末までの介入実績は1件のみでしたが、次年度も継続介入の予定です。

入院支援は、安心して安全な入退院に結び付く一助となると同時に、事前にデータベース等を入力しておくことは病棟業務の負担軽減にも寄与すると考えます。支援介入の時間の重なりやマンパワーが直結することにより介入件数にばらつきが生じやすい業務ですが、入院から始まる退院支援を念頭に、皆で協力し工夫を重ねながら日々努力をしています。

一方、退院支援に関しては令和6年の診療報酬改定により退院支援スクリーニングシートと退院支援計画書が改訂となりました。MSWと協働してこの両者を整備、同時に退院困難対象者の入院期間7日間から4日間の変更に伴い、手順などを再整備し病棟と共有しました。さらには退院支援スクリーニング項目の理解が深まるよう、各項目の解釈・対象例を文書化、病棟看護師からMSWに退院調整を依頼する際に記載する退院支援依頼書の書き方見本の作成など、退院支援の理解が促進されるよう、少しずつ整備をして参りました。

同時に、コミュニケーションに特別な技術が必要な障害を持つ方に入院支援を介入し、入院中に必要な調整を行った場合に入院事前調整加算の算定も可能となりました。高度の難聴患者などが入院中も不安なく過ごせるよう、入院前から準備を進めることが目的です。今年度の算定実績はありませんが、今後も状況に応じて可能な限り対応していきます。

【今後の目標】

地域看護課が行う退院支援の実践はまだ道半ばで、病棟やMSWが行う退院支援調整に地域看護課がどう関わっていくかが数年の課題でした。「全体を見て隙間を埋める」ことが地域看護課の役割であると前任の管理者からご教示いただいたことを思い出し、入退院

支援部門として、患者・家族が望む生活を送れるよう、MSWや病棟関係者、ケアマネージャーなど院内外の多職種と協働し、それぞれの職種の強みを活かしながら今後もさらに前に進んで参りたいと思います。

文責 看護課長 松江 知加子

教育看護課

【スタッフ】

浅田 孝章 看護主幹

教育委員会

委員長：浅田 孝章（看護主幹）

委員：伊藤 瑞代、杉崎 美香（以上課長）
仙保 知子、佐々木雪絵、小野 智子、
井上 晶子、大崎 朱美、村山 綾香
（以上係長）

オブザーバー：中川 尚美（看護次長）

新人教育検討委員会

委員長：兒玉真夕美（課長）

委員：吉田真知子、中山 優子、齋藤 亜妙、
佐藤由紀枝、佐野 舞、宮下めぐみ、
佐々木雪絵（以上係長）

オブザーバー：中川 尚美（看護次長）、
浅田 孝章（看護主幹）

【部署の特徴】

教育理念「済生会の看護理念を理解し、安全で安心できる質の高い看護を提供できる看護師を育成する」のもと、一人ひとりの特性に応じ、臨床現場で実践に活かせる研修を行うため、教育委員会と新人教育検討委員会が中心となり、「新人研修」と「ラダー研修」の2本柱で、1年間を通して計画的に研修の企画・運営・評価をおこなっています。また、今年度からは休校していた特定行為研修を再開し、より高度な実践能力を身につける機会の充実を図っています。

教育活動において重要なのは、そこに「ねがい」が込められているかどうかです。それがなければ、単なる訓練にとどまってしまう。済生会小樽病院看護部では、看護師としてケアの対象者に対して何ができるかを、思考だけに留めず、柔軟に行動へ移せる人材であってほしいと願っています。また、対象者の痛みやつらさ・苦痛を深く理解し、看護師として「身体を見る」ことができる力を身につけてほしいという「ねがい」をもって、日々教育に取り組んでいます。

【実績】

2024年度ラダー研修 参加者一覧											
ラダーレベル	部署 院内ラダー要件研修	3A	3B	4A	4B	5B	外来	地域看護	透析室	手術室	施設間交流 みどりの里
Ⅰ	看護過程④ (2024/7/18 PM)	坪内 亜優	沖田萌々花	三升畑美来	長谷川莉央	堀 歌純 神前 芳子					
	メンバーシップ② (2024/8/27 1日)	坪内 亜優	沖田萌々花	三升畑美来	長谷川莉央	堀 歌純 神前 芳子					
	フィジカルアセスメント① (2024/8/5 PM)	坪内 亜優	田村 美月	三升畑美来	長谷川莉央	堀 歌純 神前 芳子					末下 加奈
Ⅱ	フィジカルアセスメント② (2024/10/2 PM)	大村 舞 齊藤 好美	大村 和史	宮本 洋祐 高木実圭子	久保 茂栄 北村 光	磯部 真奈 三浦 優花		尾垣 華誉	湯浅 真紀	藤本明香梨	高橋 賢司
	看護過程⑤ (⑤-1 2024/7/4 1日) (⑤-2 2024/9/20 1日)		太田 聖子		久保 茂栄 坂東 夕維	石黒 真帆			湯浅 真紀	神 華輪 中村 美幸	
	リーダーシップ① (小チームにおける) (2024/5/27 1日)	宮本 祐華	田村 政了	宮本 洋祐 高木実圭子	久保 茂栄 渡邊 美香	磯部 真奈 三浦 優花		尾垣 華誉			
	リーダーシップ② (チームにおける) (2024/6/24 1日) 実践報告会 (2024/11/20)	宮本 祐華	田村 政了	宮本 洋祐 高木実圭子	久保 茂栄	磯部 真奈			高橋 知子	野 達也	
Ⅲ	看護過程⑥ (⑥-1 2024/6/11 1日) (⑥-2 2024/8/14 1日) 実践報告会 (2024/10/29)	柴田 祐希	田中 寛子	山谷香菜未		浅香 香織					
	リーダーシップ③ (所属部署におけるリーダーシップ) (2024/6/7 1日) 実践報告会 (2024/9/4)	対象者なし 中止									
	看護倫理 (2024/6/20 1日) 実践報告会 (2024/9/24)		平木 康太	山谷香菜未		金田 匡代	早川恵美子		安達奈那子		

	研修時間	研修参加人数
新人入職時研修	72時間	3名(看護師3名)
新人研修(年間)	112時間	3名(看護師3名)
ラダー研修	100時間	ラダーⅠ：19名 ラダーⅡ：37名 ラダーⅢ：9名

【令和6年度の取り組み】

1. 入職前研修

入職後に生じやすいギャップを軽減し、不安を解消することで離職防止につなげること、社会人としての心構えを養うこと、そして人を育てる職場風土を醸成することを目的に今年度から取り組みました。

実習経験が少ない場合、看護実践のイメージと現場での業務との間にずれが生じ、勤務条件や働き方の違いから離職につながることがあります。新しい環境でコミュニケーションが取れず、悩みを共有できないことも離職要因となります。

同期は不安を分かち合える貴重な存在であり、入職前からのつながり強化は不安軽減と就労意欲の向上につながりました。また、研修に年齢の近い先輩が関わることは、新人の安心感を高めるとともに、先輩の指導者意識を育み、職場の育成風土の醸成にも寄与しています。

2. 新人看護職員入職時研修

新人看護職員のリアリティショックの軽減、職場適応を促進し、早期離職防止、臨床で指導をする看護職の負担軽減を図ることを目的として、入職後すぐに部署へ配属するのではなく集合研修を実施しています。

リアリティショックを緩和する目的で、集合研修後に部署や病棟での実践を取り入れています。また、看護技術だけではなく、社会人基礎力やコミュニケーションの研修を取り入れギャップ軽減に配慮しました。

入職時研修から配属部署の実地指導者を研修担当として関わることで、配属前から新人と良い関係性を構築することに繋がったと思います。

3. 新人研修

新人研修は新人看護職員研修ガイドラインをもとに、当院の「新人看護職員指導計画」に合わせ研修計画を立案しました。フィジカルアセスメント研修を北海道看護協会小樽支部の施設交流研修として間口を広げました。新人同士が交流を持ち、お互いの成長を確かめ合う場ともなりました。基本的な看護技術を早期に習得できるよう演習を多く取り入れ、個人練習や個別指導ができる体制を整え、職場でのリアリティショックを軽減できるよう工夫しています。また、新人指導プログラムの進捗やメンタル面の変化に合わせ、一人ひとりに寄り添った研修で成長を支援しています。さらに、2年目看護師に対しても成長段階に応じた支援体制を整備しています。

4. なでしこサポートルームを開設

新人職員のリアリティショックを緩和するために、なでしこサポートルームを設置しています。配属部署とは別に教育担当者が6・9月（3ヶ月毎）の面談、毎月のアンケートを実施し、さらに面談前にアンケートを実施していました。精神面のサポートだけでなく、不安な技術についても支援しています。前年度の

新人離職率は10%でしたが、今年度は0%となり早期離職防止に繋がりました。

5. ラダー研修

ラダーレベルⅠは3テーマ、Ⅱは4テーマ、Ⅲは3テーマの研修を企画しました。Ⅳ・Ⅴについては外部研修を活用していくことになっています。昨年度の評価を基に担当者が中心となり内容を見直し、OJTに繋げていくために実践研修を多く取り入れていきました。また、監督職にも実践での指導を協力依頼して取り組みました。

6. 特定行為研修機関の再開

休校していた特定行為研修を今年度から再開しました。新たに「術中麻酔管理領域パッケージ」を開設し、1年6ヶ月かけて養成していきます。今年度は1名の応募があり、1年かけて共通科目252時間を修了しました。次年度の区分別科目の実習に向けて取り組んでいます。



新人研修
点滴静脈内注射の血管確保



新人研修 与薬の技術

【今後の目標】

少子高齢化や若者の都心流出、市内看護学校の閉校により、新卒者の確保は大きな課題となっています。また、当院を選んだ看護師が定着できる環境整備も重要です。離職率の上昇は、病院（看護部）のイメージ低下や採用・教育コストの損失、スタッフのモチベーション低下を招くため、計画的な人材育成環境の整備が必要です。

看護部の課題として、「看護過程の展開」や「リーダーシップの発揮力」の育成が挙げられます。これら

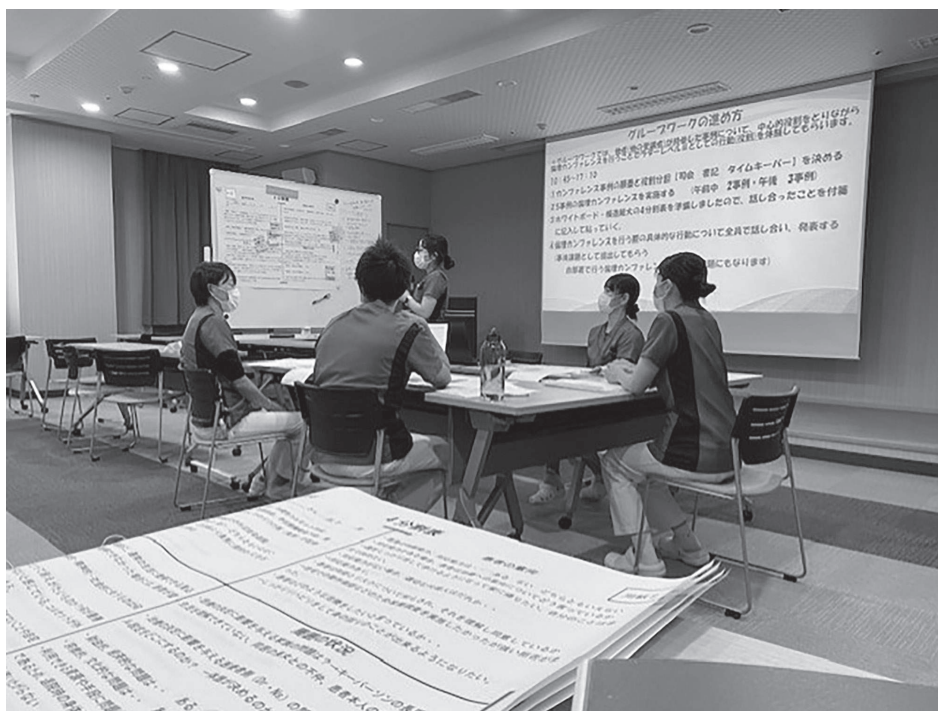
の力を身につけられるよう、研修は実践的内容を重視し、研修後には監督職が現場でサポート・確認を行い、報告会への参加を通して教育的視点を育てていきます。

さらに、研修修了者が学びを活かし続けられるよう、次年度の研修受講者をサポートする仕組みを取り入れ、学ぶ文化と育てる文化の醸成を目指します。

文責 看護主幹 浅田 孝章



ラダーⅡ フィジカルアセスメント研修②



ラダーⅢ 看護倫理

2024年度 新人研修計画

研修目的：チームの一員としての役割を認識できる知識、能力を養う。

研修	研修予定日	時間	研修目標	担当者	備考
新人看護職員入職時研修 1.看護職としての基本的姿勢と態度・管理 2.技術演習 環境調整、食事援助①(介助、口腔ケア)、活動・休息援助、清潔・衣生活援助、感染予防、症状・生体機能管理技術①、与薬の技術①(静脈注射Ⅰ、筋肉・皮下注射、麻薬、血液製剤) 3.電子カルテ、看護記録	4月1日(月) 2日(火) -12日(金)	1.0日間 (病院全体) 9.0日間	1.看護職員としての責任、協調性、チームワークの重要性、マナーを知識としてわかる 2.看護部の概要、活動を知識としてわかる 3.基本的看護技術を知識としてわかり、演習のできる	新人教育検討委員会	
技術演習 症状・生体機能管理技術②(採血、血糖測定) 与薬の技術②(静脈注射研修Ⅱ)	4月17日(水)	1.0日間	①基本的看護技術を知識としてわかり、演習のできる ②患者の状態を演習で報告・連絡・相談できる	佐藤(由) / 佐野 3B指導者	
技術演習 食事援助技術②(嚥下法) 呼吸・循環を整える技術①(酸素療法、吸引)	4月24日(水)	1.0日間	①経管栄養や胃管挿入が知識としてわかり、演習のできる ②酸素投与や吸引の技術が知識としてわかり演習のできる	宮下 / 中山(優) 5B指導者	
看護記録 看護必要度	5月22日(水)	1.0日間	①看護記録記載に準じてSOAPで正しくかける ②看護必要度について知識としてわかり、演習で記録することができる	佐藤(由)	
看護過程研修 ①基礎、データベース ②アセスメント ③看護過程の展開	5月15日(水) 7月24日(水) 10月9日(水)	0.5日 1.0日間 1.0日間	看護過程を展開する事ができる ①看護過程の基礎とデータベースについて学ぶ ②得られた情報(データベース)からアセスメントし問題点を抽出する方法を学ぶことができ、問題点の優先順位を考慮することができる ③看護過程の一連の展開ができ、初期の標準看護計画を立案することができる	宮下 / 佐野	
技術演習 排泄援助技術	5月29日(水)	1.0日間	基本的看護技術を知識としてわかり、演習で実践できる	齋藤 / 吉田(AM) 4B指導者	
技術演習 症状・生体機能管理技術③(心電図モニター)(DC含む)	6月4日(火)	0.5日 PM	心電図モニター・DCの基本的操作と留意点がわかり、演習で実施できる	中山(優) / 吉田	
技術演習 事例検討	6月26日(水)	1.0日間	①事例を通して、患者に合わせた基本技術を考え、演習のできる ②事例を通して、患者に合わせた報告を考え、演習で実施できる	齋藤 / 中山(優)	
技術演習 輸血ポンプ・シリンジポンプ	7月9日(水)	0.5日 PM	輸液ポンプ・シリンジポンプについて知識としてわかり、演習で操作することができる	吉田 / 宮下	
技術演習 安全確保の技術	8月7日(水)	0.5日 AM	日常的に潜む危険を予測し対策を考慮することができる	吉田	
認知症ケア 退院支援	8月21日(水)	0.5日 AM	認知症ケアの基礎知識を知識としてわかる 退院支援の基礎知識を知識としてわかる	宮下	
技術演習 創傷管理	8月28日(水)	1.0日間	基本的な看護技術を知識としてわかり、演習のできる ①褥瘡の発生機序・予防ケアが理解できる ②脆弱な皮膚の特徴を理解し、予防的スキンケア・治療的スキンケアが理解できる ③適切なポジショニングについて学び、演習で実施できる 医療用テープの特徴・使用方法を理解できる	齋藤 / 佐野 3B指導者 / 4B指導者	
メンバーシップ①	9月11日(水)	1.0日間	①メンバーとしての自己の役割を知識としてわかる ②メンバーとして求められる行動を考え自己の課題が明確になる ③事例を通し、多重課題から優先順位を考え安全な看護実践の演習ができる	佐藤(由) / 齋藤	リフレッシュ
緩和ケア	10月23日(水)	0.5日 AM	緩和ケアの基礎知識を知識としてわかる ①痛みや苦痛のある患者について理解することができ、看護実践方法がわかる ②看取りについて知ることが出来る	佐野 / 佐藤(由)	
技術演習 救命救急処置技術	10月30日(水)	1.0日間	①急変対応の基礎を知識としてわかり、演習のできる ②急変対応の緊急報告がSBARを活用し演習で実践できる	中山(優) / 齋藤 4A指導者 / 5B指導者	
技術演習 呼吸・循環を整える技術②(人工呼吸器について)	11月21日(木)	1.0日間	①人工呼吸器について知識でわかり、操作方法を演習で体験できる ②人工呼吸器アラーム音の意味を理解し、人工呼吸器装着中の患者の看護のポイントがわかる	吉田 / 中山(優) 3A指導者	

※技術演習領域：1.環境調整技術 2.食事援助技術 3.排泄援助技術 4.活動・休息援助技術 5.生活衣生活援助技術 6.呼吸・循環を整える技術 7.創傷管理技術 8.与薬の技術 9.救命救急処置技術 10.症状・生態観察機能管理技術 11.苦痛の緩和・安楽確保の技術 12.感染予防技術 13.安全確保の技術 14.死亡時のケアに関する技術 ※ナースングサポート(eラーニングは研修時視聴)

事務部

■ 総 括

【事務概要】

(組織体制)

- ・ 管理事務室：総務課、経理課
- ・ 医療支援室：医事課、地域連携課、
医療クラーク課、健康診断課
- ・ 情報システム課
- ・ 院内保育所

(職員数)

正職員 47名 (内、院内保育所2名)

短時間正職員 2名

常勤雇用契約職員 29名 (内、院内保育所4名)

非常勤雇用契約職員 19名 (内、院内保育所5名)

計 95名

(役職者)

部長1名、室長2名、課長3名、主幹1名、係長2名、主任10名

(主な保有資格)

診療情報管理士、社会福祉士、精神保健福祉士、社会保険労務士、ドクターズクラーク、医療メディエーター、医療経営士、医療情報技士、保育士、看護師、作業療法士

※令和7年3月31日現在

【令和6年度の取り組み】

令和6年度、事務部は「INNOVATION〈医療プロセスの最適化と効率化〉」を戦略テーマとし、BSC(バランスド・スコア・カード)4つの視点毎にそれぞれ以下の戦略目標を掲げて取り組みました。

《財務の視点》

- ・ 黒字体質化〈補助金に頼らず単月黒字化〉

《顧客の視点》

- ・ 連携医療機関満足度の向上
- ・ 介護施設満足度の向上
- ・ 患者満足度の向上〈外来会計待ち時間の削減〉
- ・ 職員満足度の向上〈時間外労働の削減、モチベーションアップ〉

《内部プロセスの視点》

〈事務部全体〉

- ・ DXの推進(質の向上・新たな時間の創出、定型的な業務の自動化)
 - ・ 業務の標準化(部署マニュアルの再整備)
- 〈管理事務室〉

- ・ 給与・人事評価制度の再構築

- ・ 医療材料費削減(法人内ベンチマークの有効活用)
〈医療支援室〉

- ・ 地域連携強化(紹介・逆紹介の推進)

- ・ 増収施策(診療報酬改定への適用、加算算定強化)

《学習と成長の視点》

- ・ 理念・ビジョンの浸透

- ・ ウエルネスタウン構想の理解(活発な活動内容の共有)

- ・ 事務職員教育プログラムの更新

- ・ ITリテラシーの向上(法人内Excel研修会や医療DX先進事例の共有など)

- ・ コンサルタントの有効活用・コンサルタントからの学び(増収、働き方改革、人事給与制度の見直し)

令和6年度は、4月から医師の働き方改革がスタート致しました。タスク・シフト／シェアを行う上で、シフトを受ける側の余力の確保、生産年齢人口の減少による労働力不足の対策として、定型的な業務の自動化、チャットサービスの導入や職員へのスマホ貸与などDXの推進に取り組みました。10月には院内コミュニケーションツールとして、電子カルテ・スマートフォンと連動したチャットを基本連絡ツールにすることにより、業務の改善を図りました。2月には生成AIを用いた医療文書作成(退院時サマリー・診療情報提供書)を導入いたしました。

また、地域医療機関の役割分担及び業務連携の推進を目的として、12月より紹介受診重点医療機関の指定を受けました。高齢化率の高い小樽後志地域において、外来機能の明確化が図れ、救急及び紹介を始めとした入院機能が強化され、圏域内の地域医療により貢献できていると考えております。

大正13年7月に済生会小樽病院の前身となる済生会小樽診療所が開設され、以来、令和6年7月に100周年を迎えることから、令和6年1月より100周年記念事業プロジェクトを立ち上げました。北海道済生会各事業所のプロモーション動画の制作、記念式典の開催、記念誌の編纂などを行いました。済生会小樽病院は、医療はもちろん、病院理念に掲げる「地域と共に歩む病院」として、ソーシャルインクルージョンの根差した社会の実現に取り組んで参ります。

【今後の目標】

令和6年度は、物価高騰などの影響を受けて、費用が大きく増え、経営としては大変厳しい状況となりました。次年度に向けて、人材の育成、医療DXの更なる推進による生産性の向上、紹介・逆紹介の推進による入院・外来診療収益の向上、診療報酬の加算算定の適正化などを継続して行い、経営の安定化と医療の質の向上、働きやすい職場環境の構築に取り組んで参ります。

また、令和6年度は、職員のユニフォームのクリーニングを従来の外部委託から、同一法人内の就労継続支援事業所へ内製化し、利用者の工賃アップと病院費用削減の取り組みを行いました。今後も、外注印刷物を就労継続支援事業所への委託に順次、切り替えるなどして、ソーシャルインクルージョン事業の推進、病院経営の両立に取り組んで参ります。

文責 事務部長 五十嵐 浩司

管理事務室

総務課

【スタッフ】

蝦名 哲行 課長（管理事務室長兼務）
 内山 泰男 人事・給与グループ（係長）
 秋元かおり 人事・給与グループ、臨床研修・秘書グループ（主任）
 佐藤 緑 人事・給与グループ、臨床研修（主任）
 石橋 慶悟 庶務グループ（主任）
 川畑 有香 庶務グループ、臨床研修・秘書グループ
 中川 雅美 庶務グループ
 吉田 理恵 臨床研修・秘書グループ
 成田 明美 電話交換グループ
 吉泉 博美 電話交換グループ
 吉田 悦子 電話交換グループ
 神山 拓也 施設管理グループ（係長）
 豊川 哲康 施設管理グループ
 坂井 駿介 施設管理グループ
 古田 順一 施設管理グループ
 梅野 孝雄 施設管理グループ
 松原 明 施設管理グループ
 《委託職員》 中央監視スタッフ 3名（夜間・休日）
 警備スタッフ 5名（夜間・休日）

【部署の特徴】

総務課は、大きく4部門に分かれて業務を行っております。

- ① 人事管理、労務管理、給与計算、文書管理、庶務関係
- ② 臨床研修事務、医局秘書業務
- ③ 電話交換、防災センター業務・窓口受付、制服の在庫管理
- ④ 施設管理、法定検査・自主検査の計画及び実施、備品の点検・修繕対応、中央監視室・防災センターの管理、委託業務の管理

【実績】

常勤職員数の推移

（単位：人）

区分	令和4年4月	令和5年4月	令和6年4月
医師	28.4	29.4	29.4
看護師・准看護師	177.6	189.0	176.9
看護補助者	43.9	36.9	36.4
医療技術職	113.3	116.2	119.9
事務職員	66.0	69.7	68.9
その他職員	25.6	26.5	26.2
合 計	454.8	467.8	457.7

光熱水使用量実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
電気使用量(kWh)	3,253,294	3,397,594	3,295,762	3,259,185	3,236,752
ガス使用量(m³)	526,559	579,137	552,925	514,330	511,806
水道使用量(m³)	35,776	41,086	41,277	41,349	41,951

※令和3年9月以降、みどりの里増築棟光熱費含む

【令和6年度の取り組み】

令和6年度、総務課は「労務管理業務の効率化と働きやすい職場環境の構築」を重要課題とし、組織全体の土台を支え、職員からの信頼を築くための多岐にわたる取り組みを推進しました。

【研修管理と施設管理で築く安全・安心の基盤】

時代の変化に対応し、労務管理業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に推進しました。

○人事システム更新

令和6年度に導入した新人事システムSmartHRで、職員の入退職手続きや年末調整といった、これまで紙で行っていた手続きを電子化し、業務のペーパーレス化と効率化を一層進めました。これにより、煩雑な事務作業がなくなったことで、業務の属人化を防ぎ、総務課員の業務を平準化することで、時間外労働の削減も実現しました。

○職員の健康と安全の確保

職員満足度調査やストレスチェック集団分析を実施し、得られたデータを職場環境の改善に活かしました。また、生活習慣病予防健診や当院管理栄養士による特定保健指導を推進し、職員へ利用勧奨を行い、より多くの職員が利用することにより職員一人ひとりの健康をサポートしました。

○医師の働き方改革への対応の向上

令和6年度から始まった医師の働き方改革に合わせ、勤怠システムとSmartHRを連携させることで、医師の労働時間を正確に把握できる体制を整えます。これにより、多部署と連携して医師の業務負担軽減につながる対策を立案・実行し、医師が業務に専念できる環境を構築します。

【研修管理と施設管理で築く安全・安心の基盤】

総務課は、組織の成長と安全を支える事務業務を遂行しました。

研修管理

○基幹型初期臨床研修病院《法定点検》

令和7年度から開始される基幹型初期臨床研修医の受け入れに向け、各部署と協力し、研修プログラムの整備を進めます。質の高い研修環境を提供し、医学生に「選ばれる研修病院」となることを目指します。

○看護師特定行為研修の支援

新たに指定を受けた術中麻酔管理領域パッケージの研修が円滑に進むよう、看護部と連携します。働きながら学びを継続できる環境づくりをサポートし、看護師のスキルアップと専門性向上を後押しします。

○研修管理体制の強化

- ・令和6年3月28日付

基幹型初期臨床研修病院として指定を受ける

（令和7年4月より受け入れ開始）

- ・看護師特定行為研修
術中麻酔管理領域パッケージ研修開始 1名
（現在10区分、1パッケージの指定）
- ・専門医制度内科専門研修プログラム
1名在籍（令和4年4月開始）
- ・初期臨床研修（協力型）
札幌医科大学たすき掛け 1年次1名

施設管理

○法定点検

- ・建築設備定期報告（毎年）
- ・消防設備点検（年2回、総合点検、機器点検）
- ・非常用発電機負荷試験（毎年）
- ・防火対象物点検、防災管理定期点検
- ・簡易専用水道検査（毎年）、受水槽清掃（毎年）
- ・作業環境測定（年2回、ホルムアルデヒド、エチレンオキシド）
- ・煤煙測定（年2回、冷温水発生器2基）
- ・事業場排水測定結果報告（毎年）
- ・医療ガス設備点検（毎年）
- ・第一種圧力容器性能検査（毎年、貯湯槽2基、滅菌機2基）

○その他

- ・自衛消防訓練の実施（年2回）
- ・送迎バス停留所追加ダイヤ変更（令和7年4月1日より）
- ・駐車場監視カメラ更新
- ・洗濯仕上げ室・乾燥室改修工事

【今後の目標】

総務課は、職員が働きやすい環境を整備し、病院全体の運営基盤を強化することで、職員から信頼される存在を目指します。

外部機関との調整や、病院組織の適正な管理業務において、常に丁寧かつ柔軟な対応を心掛けます。職員からの問い合わせには迅速に対応し、安心して業務に取り組めるようサポート体制を強化します。

文責 川畑 有香



入職して1年たちました

総務課 吉泉 博美

令和6年5月より総務課 事務職員として入職してから早いもので1年が経ちました。

前職は寝具の販売を17年間札幌で勤務していました。

販売という仕事に行きつまり、転職を考えていた時に当院の求人に出会い、応募しました。その後内定をいただいた事をとても嬉しく思ったのを覚えています。

前職とはまったくかけ離れた総務課での業務は、患

者さんからの電話対応や様々なところから掛かってくる電話にとまどい、失敗と緊張の連続で反省の毎日でしたが、いつも変わらず優しく指導してくださり、困ったことや不安があれば話を聞いてアドバイスをしてくれる先輩方には感謝の気持ちしかありません。

そしてこんな私を癒してくれるのが、セキセイインコの【そらちゃん】です。玄関を開けると「ピー」と鳴き、お帰り(?)と言ってくれます。帰宅してからはおしゃべりで和ませてください。おいしいものを食べ歩きすることと7年前から母親と国内旅行に出かけることも私の心の栄養源です。

仕事と生活の調和を図り、日々感謝の気持ちを忘れずに前向きに取り組んでいきたいと思います。



セキセイインコのそらちゃん

【スタッフ】

氏 名	役職名	職 責
蝦名 哲行	事務部次長	現金保管責任者
堀 博一	事務課長	固定資産管理担当者
佐藤 緑	事務主任	出納員
大野 久司	事務主任	出納員

【部署の特徴】

主な業務は、出納（現金・預金の管理）、旅費計算、会計システムへの入力・帳票の作成、郵便物の発送、予算・決算業務、借入金、経営分析、財務諸表作成、未収金管理、固定資産管理など病院の『資産』に関する業務全般となります。

【実績】＜令和6年度 経理課関係行事＞

- 4月 令和5年度 決算資料作成
- 5月 令和5年度 決算報告、支部監事監査
- 5月 令和5年度 消費税報告、支部理事会
- 6月 令和5年度 法人税報告
- 9月 有限責任監査法人トーマツ訪問往査（9／11-13）
- 9月 出張旅費キャッシュレス 開始
- 11月 幹部研修会
- 11月 院内QCサークル報告会
- 1月 全国済生会事務（部）長会 経理業務効率化研修会参加・事例発表
- 1月 予算編成
- 1月 支部理事会（令和7年度事業計画、予算）
- 2月 本部経理研修会 WEB（決算業務に係る研修）
- 3月 全国済生会事務（部）長会 経理業務効率化研修会参加・事例発表
- 3月 三千考房 三枝氏（旧トーマツ所属）経理訪問監査

【令和6年度の取り組み】

令和6年度は人事異動があり、決算業務がひと段落した後に異動となりました。そのため、一時的に戦力が減少しましたが、業務整理と業務の可視化を進めたことで、今後の改善の方向性を大まかに策定できたことは収穫でした。

また、院長の年頭挨拶にあったキャッシュレス化に取り組み、成果を上げました。昨年からの請求書の取り扱いを電子化した概念をもとに、全銀データを解析し情報システム課に提供した結果、旅費の集計から送金データの作成まで外部ソフトを使用せずにコストを抑えつつ業務効率化を達成しました。これにより、9月から実際に運用を開始しています。

さらに、業務効率化の成果をQCサークルで評価してもらい、一定の評価を得ました。加えて、本部の経理業務効率化研修会に参加し、統一フォーマットを使用してCSVデータを会計ソフト（福祉の森）へインポートすることで入力作業を削減し、さらなる業務効率化につなげました。これにより、情報の収集と外部連携の強化を通じて新しい知識を得ることができました。

【今後の目標】

人事異動を契機に業務の可視化が進んだため、正確性と効率性を考慮した詳細な業務マニュアルを作成し、業務の標準化を推進します。さらに、作業効率を高めるために自動入力システムの構築を進め、日常業務を軽減しつつ、経営管理と経費の増減を分析できる環境を整えることが当面の課題です。

来期は日常業務の伝票入力を自動化し、作業時間を短縮することで、整合性の確認に時間を割き、適切な月次決算・年度決算につなげることを目指します。これにより、決算業務にかかる時間を削減し、業務のさらなる効率化を進めていきます。

文責 事務課長 堀 博一

【スタッフ】

堀 博一	課長
木村 卓司	係長
犬飼 大祐	用度購買グループ
荒木亜由美	SPDスタッフ
碓井あさこ	SPDスタッフ
山澤 啓子	SPDスタッフ
吉田 有希	SPDスタッフ
久保田 実	SPDスタッフ

【部署の特徴】

購買業務を主とし、SPDスタッフと共に各部署で使用する診療材料、医薬品、日用品などの物品管理・院内配送・受発注を行っています。

その他、売買契約、保守・委託契約の窓口として、各部署と調整し取引業務の最前線で日々業務を担っております。

また、各部署の業務改善や患者サービス向上に向けた取り組みのサポートを行う部署です。

【実績】

診療材料購入実績：395,710千円

医療機器・器具備品購入実績：58,639千円

医薬品購入実績：478,030千円

入札実績：

令和7年3月 診療報酬請求業務

【令和6年度の取り組み】

新型コロナウイルスが5類感染症に移行してから1年が経過し、医療機関の体制も新たな日常へと移行しました。

また、補助金の終了に伴い、経営環境が大きく変化する中、持続可能な病院運営を目指した取り組みが求められました。

全分野におけるコスト上昇への対応として、診療材料の価格適正化を引き続き実施しました。

3か年計画の一環として取り組んでいる、診療材料費におけるベンチマークC・D判定（返金価格より高値で購入している品目）の割合については、年度目標であった「6%以下」を達成することができました。

この成果は、昨年度に引き続き、診療部をはじめとする各部門長のご協力があったからこそ成し得たものであり、スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

医薬品に関しては、毎年薬価改定の影響により、近年は薬価差益率が減少傾向にありましたが、ベンチマークシステムを活用した希望価格の分析が功を奏

し、薬価差益率の大幅な改善を実現することができました。

医療DXの推進においては、医師の業務改善を目的としたAI文書作成支援システムの導入検証を行いました。

また、看護部門ではバイタル連携システムを導入し、記録業務の効率化と精度向上を図りました。

さらに、院内保育所においては保育ICTシステムを導入し、園内のペーパーレス化、帳票類の電子管理、保護者との連絡手段の効率化などを実現し、利用者サービスの向上に大きく寄与しました。

人口減少が深刻化し、雇用の確保がますます困難になる中で、サービスの維持と生産性の向上が強く求められた一年となりました。

【今後の目標】

1. 診療材料費のさらなる価格適正化

ベンチマークC・D判定品目の割合を3%以下に抑えることを目標とし、継続的な価格交渉と市場調査を実施。

ディーラー・メーカーとの関係性を強化し、透明性のある価格交渉体制を構築。

高価格品目の代替品調査を進め、品質を維持しつつコスト削減を図る。

2. 医薬品の差益率改善と安定供給

ベンチマークシステムを活用した希望価格の定期分析を継続し、薬価差益率の維持・向上を目指す。

薬価改定に伴う影響を事前に把握し、価格改定前後の購買戦略の立案を強化。

前年度比、期限切れ品（購入金額比）70%削減。

3. 購買業務の効率化

他部門との連携を強化し、購買ニーズの事前把握と迅速な対応を可能にする体制づくり。

4. 人材育成と業務標準化

購買業務マニュアルの整備と、OJTによる実務教育の充実。

ノウハウを共有する場を設け、業務の属人化を防止。

業務フローの見直しと標準化により、誰でも対応可能な体制を構築。

5. コミュニケーションと情報共有の強化

診療部門・事務部門との定期的な情報交換により、購買方針の共有と合意形成を促進。

院内全体でのコスト意識向上を図るため、購買部門からの情報発信（例：月次報告・改善実績）を強化。

文責 事務係長 木村 卓司

済生会小樽病院に入職して

経理課 犬飼 大祐

2024年4月から済生会小樽病院に入職し2年目となりました。まずは自己紹介ですが、札幌市出身で49歳、高校（日ハム、今川選手、伏見選手の出身校）までは札幌、大学（静岡県沼津市）に進学（4年間も住んで富士山に一度も登らなかった事が悔い）→最初に就職した会社の配属先で滝川→仙台→札幌→小樽を転勤し札幌に戻ってきました。趣味は野球、ゴルフ（程々に）、葉加瀬太郎（バイオリンは弾けませんが聴くだけ）。前職は医療機器卸の会社に20年程勤務しました。ちょうど15年前、済生会小樽病院の新築移転の時を担当して職員の皆様には大変お世話になりました。入職の際は私の事を覚えていただいていた方々から「お帰り」「戻って来たんだね」等々温かい言葉をかけていただき本当に嬉しく思いました。また、15年ぶりに聴く院内で流れるBGMがとても懐かしく

感じました。

ご縁をいただき済生会小樽病院へ入職させていただき配属となりました経理課用度購買グループでは、各部署から要望された物品の購入手配、毎月の請求書業務、SPD業務、薬品庫業務等幅広く関わっております。前職の医療機器、材料の知識も少しは生かしているかと思います。医療材料を売る側から買う側となり違った視点で物事を考えるようになりました。医療材料、医薬品の購入費用削減はもちろん、今年度は使用期限切れの削減に向け日々活動しております。

仕事の傍ら、9月に岩手県で行われる「済生会東北・北海道ブロックソフトボール大会」に向け体力の衰えを感じつつ若い選手達に交じり昨年の福島での雪辱を果たすべく、今年こそはと一丸となって練習しております。

病院理念にあります「働いてよかったと思う病院」を実感し、済生会小樽病院の一員としてこれからも頑張っていきたいと思っております。経理課へお越しの際はぜひお声掛けください、今後ともよろしくお願いいたします。



昨年のソフトボール大会（福島県）にて

医 事 課

【スタッフ】

村上 義明 課長
 相馬 彰斗 主任(経営企画室兼務) 医療経営士
 森 雅之
 平澤 慎吾 診療情報管理士 医療経営士
 本間 一平
 太田 歌子
 小泉 幸代
 世戸 収子
 本間 美江
 (その他 雇用契約職員7名)

【部署の特徴】

医事課は、病院の"顔"として、患者さんが安心して医療を受けられるようサポートする大切な部署です。受付・会計・診療報酬請求などの業務を通して、医療と患者さんをつなぐ架け橋となっています。スタッフ同士のコミュニケーションが活発で、誰もが気軽に意見を言える職場環境であり、忙しい時期でも、お互いに声を掛け合いながら協力して業務を進めています。初めて来院される方やご高齢の方にも、安心していただけるよう「不安な気持ちに寄り添う」ことを大切に、丁寧で思いやりのある対応を日々心がけています。

【実績】

- ・入院連帯保証人代行制度スマホス 導入
- ・施設基準管理システム iMedy 導入

【令和6年度の取り組み】

医療DX(デジタルトランスフォーメーション)の一環として、オンライン資格確認導入に向けての運用を明確にし、患者さんの利便性向上と医療現場の事務負担軽減を行う。

併せて、外国人観光客の増加に伴い、時間外の医療ニーズが拡大する事による後日会計の運用を明確化することによる未収金対策も行う。

結果、患者さんの利便性向上による患者満足度が向上し、スムーズな業務を実現し業務効率化に繋がりました。

【実習生の受け入れ】

医事課では、未来の医療を担う人材育成のため、近郊の専門学校生の実習の受け入れを行っています。人材の確保という視点も考え、将来の人材育成と地域貢献につながるものとして取り組んでいます。

養成 業種	学校名・学年	実習期間	実習 人数
医療 事務	三幸学園 札幌医療 秘書福祉専門学校 医療秘書科2年生	2024年6月17日 ～2024年7月5日	2名
医療 事務	大原学園 大原医療 福祉専門学校 医療事務学科2年生	2024年7月16日 ～2024年7月20日	1名
医療 事務	三幸学園 札幌医療 秘書福祉専門学校 医療秘書科1年生	2024年10月21日 ～2024年10月25日	2名

【今後の目標】

引き続き、各種業務の精度向上を図るとともに、患者さんの満足度向上を目指し、より質の高いサービス提供に努めてまいります。

スタッフの専門性向上とチーム力の強化を重視し、職員がやりがいを持って働ける職場環境を整え、また、患者さん一人ひとりの声に耳を傾け、安心して病院にかかって頂けるような環境づくりも行っていきたいと考えております。

文責 事務課長 村上 義明

自己紹介

医事課 相馬 彰斗

はじめまして。経営企画室 兼 事務部医事課の相馬彰斗と申します。

私は2020年、学生時代の恩師とのご縁から当院にリハビリ職として入職しました。札幌の脳神経外科でSCUから急性期・回復期までの経験を積み、その後は小樽市内で訪問リハビリに従事。在宅や介護保険領域にも関心を広げ、患者さん一人ひとりの生活を主体とした医療の在り方を学んできました。

そんな中、私の価値観を大きく変えるきっかけとなったのが、2013年夏のインド旅です。友人の言葉に背中を押され、ツアーではなく現地で宿や移動を手配しながら、デリーから聖地バラナシまでを巡りました。スラム街にも足を運び、現地の生活を肌で感じたことで、世界の格差や社会の仕組みに強い衝撃を受けました。

その後もカンボジア、ミャンマー、モロッコなど約20カ国を訪れ、日本に帰国するたびに、日本のインフラや治安、そして医療・介護といった社会保障の素晴らしさを実感しました。高品質な医療が誰でも受けられる日本の制度は、世界的に見ても非常に恵まれたものです。しかし、それが安定した人口構造に支えら

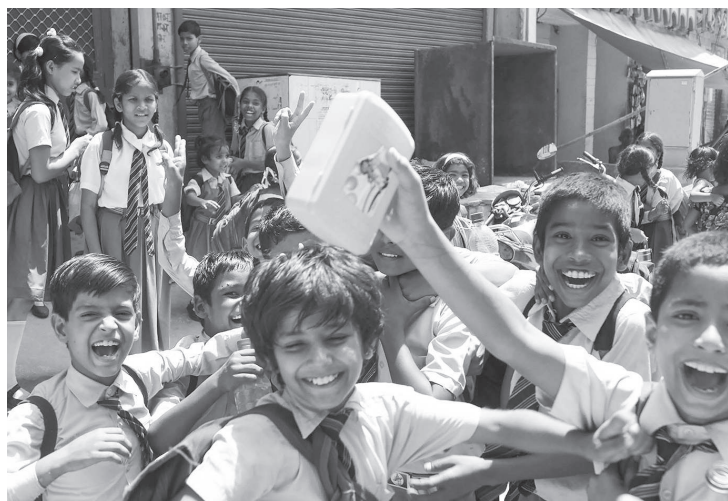
れていたこと、そして今後は持続が難しくなる可能性があることにも気づかされました。

この気づきをきっかけに、日本の社会保障制度、特に医療・介護の持続可能性に強い関心を持つようになり、「制度や仕組みの面からも関わりたい」と思い、2023年に事務職へと転身しました。

現在は経営企画室 兼 事務部医事課に所属し、入院収益の改善はもとより、地域連携や病床管理を軸に、病院と地域が「繋がる」ことを目指しています。経営企画室というと「お金の話ばかり」と思われがちですが、実際には地域全体の将来を見据えた課題解決に取り組む、非常にやりがいのある部署です。

当院の理念である「地域と共に歩む病院」を実現するため、点や線ではなく「面」として地域を捉え、包括的に関わっていくことを目指しています。自助・互助・共助・公助という考え方のもと、これからの社会保障を支える一助となれるよう、微力ながら尽力してまいります。

最後に少しだけ私生活について。コロナ禍でトイプードルの「茶太郎」を迎えたことをきっかけに、夫婦での旅行は控え、今では道内のキャンプが趣味です。茶太郎と妻と一緒に自然の中で過ごす時間が、今の私の癒しです。長文となりましたが、最後までお読みいただきありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



インドのスラム街で出会った元気あふれる子どもたち



愛犬・茶太郎

医療クラーク課

【スタッフ】

浦見 悦子 事務課長
 ・医師事務補助グループ 18名
 平尾 愛 ドクターズクラーク
 焼田久美子 ドクターズクラーク
 田宮 千晶
 伊藤紀美江 ドクターズクラーク
 吉田 幸恵
 他、雇用契約職員12名のうちドクターズクラーク7名
 ・外来受付グループ 7名

【部署の特徴】

医療クラーク課では外来診察補助業務、医療文書の作成補助業務、回復期リハビリテーション病棟専従医師の事務作業補助業務、医療の質の向上に資する事務作業業務、予約センター業務等を行っています。

1. 外来診察補助業務

業務の中心となる外来診察補助業務では各ブロック受付、各外来診察室、内視鏡室、中央処置室にスタッフを配置し診療がスムーズに進められ、医師・看護師の事務的な作業負担軽減が出来るよう各種検査・処方・リハビリ等のオーダー代行入力、次回予約入力、検査説明等を行い多職種と連携を図り、患者さんが安心して診療を受けられるよう、業務を行っています。

2. 医療文書の作成補助業務

各種診断書、介護保険主治医意見書、医療要否意見書等の作成依頼・作成代行及び医師が作成した完成書類の処理、問合せ等に対応しています。

3. 回復期リハビリテーション病棟専従医師の事務作業補助業務（令和6年8月31日まで）

医師の回診に同行し、各種検査・診察記録等のオーダー代行入力や入退院に係る文書作成代行業務を行っています。

4. 医療の質の向上に資する事務作業業務

診療に関するデータ整理、手術の症例登録等を行っています。

5. 予約センター業務

平日14～16時まで患者さんからの診察予約や予約変更等の電話連絡に対応し、患者さんに寄り添いご希望にお応えできるよう努めています。

【実績】

文書取扱い件数 (件)

診断書(入院証明書・通院証明書)	816
診断書(当院書式)	536
傷病手当	245
身体障害者診断書	103
特定疾患個人調査票	259
労災(照会・意見書)	447
介護保険主治医意見書	965
医療要否意見書(生保)	885
訪問看護指示書・訪問リハビリテーション指示書	410
計	4,666

予約センターでの予約件数（各外来での対応も含む） (件)

予約	4,058
予約キャンセル	590
予約外案内	903
その他	1,705
計	7,256

【令和6年度の取り組み】

・ウェブ問診システムのご案内

昨年よりご紹介いただいた患者さんを対象に、ウェブ問診システムのご案内をしておりましたが、令和6年9月2日より外来患者さんに向けてもウェブ問診票のQRコードの用紙をお渡しし、更なる業務効率化を図りました。

・実習生の受け入れ

医事課で受け入れた実習生を令和6年7月1日～5日の5日間、当課でも受け入れ実習を行いました。

【今後の目標】

患者さんを中心とした医療を提供できる環境作りをサポートしていくため、医師の事務的な作業負担をより軽減出来るようスタッフのスキルアップを図り、各部門とのコミュニケーション・連携を強化して参ります。また、今後も継続して文書業務の効率化・精度向上を図り、患者さんからの問い合わせにスムーズに対応出来るよう、日々心掛けていきたいと考えております。

文責 事務課長 浦見 悦子

仕事と体操

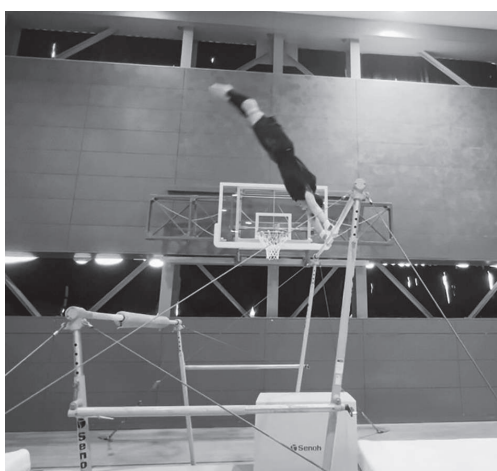
医療クラーク課 高橋 あかね

私は小学1年生から高校3年生まで12年間、器械体操を習っていました。腰椎分離症や骨折など怪我をすることが多く、小学生の頃からかかりつけは済生会小樽病院でした。高校2年生の時に膝の手術も受けています。就職先を探していたところ、当院の求人を見つけ、長年お世話になったこの病院で働きたいと思い入職を決めました。

内視鏡室の受付から始まり、内科、泌尿器科を経

て、現在は整形外科を担当しています。様々な科を担当させていただき、たくさんの医療の知識が身につきました。先輩方や先生方、看護師さんたちにとても良くしていただき毎日楽しく仕事に励んでいます。

入職と同時に、ボランティアで自分が所属していた体操クラブのコーチをやっています。週2回総合体育館で練習しており、仕事が終わる次第参加しています。年長さんから高校生までが所属しており、私は小学高学年・中学生を受け持っています。教え子たちも怪我をした際は整形外科の先生方にお世話になっておりますので、今後も教え子共々よろしくお願い致します。



健康診断課

【スタッフ】

浦見 悦子 課長
菅原 充晴 係長
窪田 恭子
葛西 淳子
工藤 美奈
稲田 琴恵

【地域の皆様の健康を支える健診サービスのご案内】

当院では、小樽市内および近郊の企業様向け健康診断、各種がん検診を含む市民健診を実施しており、若年層からご高齢の方まで、幅広い年齢層の皆様にご受診いただいております。

近年、働く方々の健康管理や健康意識の高まりを背景に、私たちは予防医療の重要性を改めて認識しております。疾病の早期発見・早期治療を目指し、地域の皆様の健康維持・増進に寄与できるよう、健診を通じて積極的に支援してまいります。

このたび、新たに「DWIBS検査（全身MRIによるがんスクリーニング）」を開始いたしました。DWIBS検査は、放射線被ばくや造影剤の使用がなく、身体への負担が少ない最新の画像診断技術です。検査時間も短く、食事制限も不要で、問診を含めて約1時間以内に完了します。

さらに、メディカルツーリズム事業にも着手し、国内外からの受診者を対象とした健診プログラムの提供を開始いたしました。当院では、JTBメディカル&ヘルスケアと連携し、外国語対応や検査結果の翻訳（英語・中国語）など、海外からの受診者にも安心してご利用いただける体制を試験的に実施しております。

また、地域の観光資源と医療サービスを融合させた取り組みが始まっています。

今後とも、地域の皆様はもちろん、国内外からの受診者の皆様にとって信頼される医療機関であり続けるよう、誠心誠意努めてまいります。

【実績】（2024年度）

	人数（人）
企業健診	2,224
生活習慣病予防健診	1,953
日帰りドック	213
特定健診等	1,209
個人健診	867
ちょこっと健診	475
その他	1,011
合計	7,952

文責 事務係長 菅原 充晴

健診課のテニス好き、救急搬送されるの巻

健康診断課 菅原 充晴

健康診断課の菅原です。

趣味はテニスで、かれこれ40年続けております(自分でも驚きです)。

2024年7月には、第62回北海道テニストーナメントのシングルスに参加する機会をいただきました。

1回戦はなんとか勝利を収めたのですが、その直後、猛暑の中でのプレーがたたってしまい、熱中症を発症。全身が痙攣し、動けなくなっていました。結果、当院へ救急搬送されましたが、なかなか救急車

動かず、受入れに時間がかかりドキドキ(笑)

搬送後、4A病棟入院ベッドにて点滴を投与していただくことに…。

4A病棟の皆さまには突然の事態でご迷惑をおかけし、大変申し訳ありませんでした。

それでも翌日には試合に出場しましたが、さすがに体力が戻らず敗退。

悔しさは残りましたが、何よりも「命あつてのテニス」だと痛感した大会でした。

次回の大会では、救急搬送されることなく、元気に最後までプレーできるよう、体調管理を万全にして臨みたいと思います。健診課としても、熱中症予防の啓発に力を入れていきたいですね。

皆様も熱中症にはお気をつけください。



小樽テニス協会(入船コート)

1. はじめに

2024年度、地域連携課は、病院理念のひとつである「地域と共に歩む病院」を実現するため、地域医療の中核病院として、患者さんが住み慣れた地域で安心して医療を受け、生活できる環境を支えるため、多岐にわたる連携活動を推進してまいりました。地域医療機関、介護・福祉施設、そして地域の皆様との連携を一層深め、切れ目のない医療・介護連携の実現に尽力した一年でした。本年報では、2024年度の活動実績をご報告するとともに、今後の取り組みについてもご案内します。

2. 地域連携活動実績

2.1. 医療機関との連携強化

●紹介・逆紹介の推進:

○2024年度は、紹介患者数が3,011件、逆紹介患者数が2,940件となりました。地域の先生方との連携を強化することで、当院の専門医療と地域のかかりつけ医機能との役割分担がより明確になり、患者さんの適切な医療提供に繋がりました。

●連携登録医制度の運用:

○現在、102施設の先生方が連携登録医としてご登録されており、病院情報機関誌「さいせいおたる」の定期的発行など当院の最新医療情報や地域連携に関する情報共有を行い、顔の見える関係構築に努めました。

●合同カンファレンス

○地域の医療機関との病診連携カンファレンスを実施しました。特に緩和ケアに関するカンファレンスでは、多職種での意見交換を通じて、患者さんへのより質の高い医療提供について検討を深めました。

2.2. 介護・福祉施設との連携

●入退院支援における連携:

○入退院支援看護師・MSWを中心に、介護・福祉施設との緊密な連携により、入退院支援件数は568件となりました。患者さんの退院後の生活を見据えた多職種連携を推進し、スムーズな在宅復帰・施設入所を支援しました。

●情報交換会・カンファレンスの開催:

○介護老人保健施設と連携協定を締結し月1回のカンファレンス実施を開始いたしました。また、介護・福祉施設職員の皆様に、情報

交換会を2回開催しました。特に「ケアマネジャーさんとの連携強化」をテーマとした情報交換会では、参加者から様々なご意見を頂戴しました。

2.3. 地域住民との交流・啓発活動

●市民セミナー

○市民の皆様の健康増進を目的に、市民セミナーを3回、開催しました。「ヘルニア・認知症・緩和ケア」など各講座は多くの参加者があり、地域住民の皆様の健康意識向上に貢献できました。

●地域イベントへの参加:

○小樽市内の「潮まつり」への参加や「済生会小樽くらしたい共生フェス」などの地域イベントを開催し、健康相談や簡単な健康チェックも行いました。地域住民の皆様との直接的な交流を通じて、当院をより身近に感じていただく機会となりました。

3. 特記事項・新規取り組み

2024年度は、「紹介受診重点医療機関」に北海道より指定をいただき新たに外来の運用が開始されました。これにより、紹介・逆紹介の推進をより積極的にを行い、地域医療連携の質的向上に貢献してまいります。

4. 課題と今後の展望

2024年度の地域連携活動を通じて、医療機関間の情報共有のさらなる効率化や、介護・福祉施設との連携強化における課題も明らかになりました。特に、在宅医療を支えるための多職種連携の深化や、災害時における医療連携体制の構築などが今後の課題として挙げられます。

2025年度は、これらの課題解決に向けて、以下の取り組みを推進してまいります。

- ・ICTを活用した情報連携システムの検討
- ・在宅医療を支える多職種連携カンファレンスの定例化
- ・地域における災害医療連携訓練への積極的な参加
- ・地域住民の健康ニーズを把握するためのアンケート調査実施

地域連携課は、これからも地域の皆様の健康と安心のため、関係機関との連携を密にし、地域包括ケアシステムの構築に貢献してまいります。

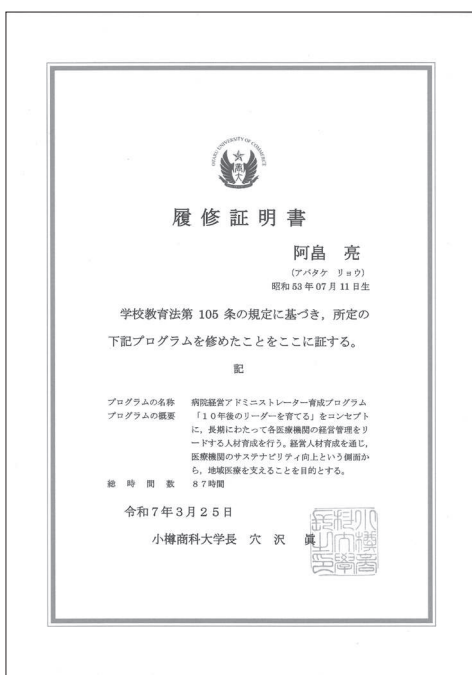
文責 事務室長 阿部 亮

病院経営アドミニストレーター育成プログラム (小樽商科大学) を履修して

医療支援室 阿 畠 亮

本プログラムを通じて、医療機関経営に必要な「推測する力」「創造する力」を体系的に学ぶことができ、非常に有意義な時間となりました。私はこれまで医療機関の事務職員として長く勤務し、近年では経営に関わる業務も増えてきた中で、より高度な知識とスキル

の習得が求められていると感じていました。本プログラムでは、医療機関経営における戦略的思考や課題解決力を実践的に学ぶことができ、病院経営アドミニストレーターとしての役割を果たすための視座を得ることができました。また、他の受講者との交流を通じて、同じ志を持つ仲間から多くの刺激を受け、視野が広がりました。今後は本プログラムで得た知見を活かし、院内の経営企画機能の構築や、地域との連携強化に取り組み、持続可能な医療機関経営の実現に貢献していきたいと考えています。



【スタッフ】

大田 隆宏 主幹
井上 智香子 主任
本間 真一 主任
佐藤 俊二
小松 勇希

【部署の特徴】

電子カルテ・医事会計等のシステム保守、運用とともに、医療情報データベースの構築および利用、データ活用のためのアプリケーション作成を行っています。

医療業務を裏方として支えつつ、院内独自システムの開発も各部署の依頼により行っています。

独自に設置したデータベース（SQL Server）を有効活用し、院内の各種データの収集や二次利用などを行っています。

【実績】

- 給与明細メール送信
メールサーバーがExchangeに変更になったため、GraphAPIを利用した送信方法に変更しました。
- 院内Excel研修会の開催
経営企画室と協力し、院内にてExcel基礎編（全12回）の研修を行いました。
- 研修会受付システムの構築
院内Webで研修会の登録を行い、研修当日にICカードによる打刻にて参加者情報を収集し、開催後参加者情報をダウンロードする仕組みを作成しました。
- リーダーの役割、メンバーの役割の評価システム構築
看護部教育からの依頼により、リーダーの役割およびメンバーの役割の自己申告と評価、回答結果の集計までを行えるシステムを構築しました。

- 医師宿日直業務日誌登録Webの構築
総務課の依頼により、常勤医の宿日直業務日誌登録を院内Webで行える仕組み、および総務課にて宿日直のスケジュールおよび日誌を管理できる仕組みを構築しました。
- NECコミュニケーションサービス導入の支援
電子カルテPCおよび病院貸与のiPhoneにてチャットを可能とするサービスの導入支援を行いました。
- バイタル連携システムを導入
看護師が行う温度計や血圧計の入力操作の簡略化を目的に、バイタル連携システムを導入しました。
- 労務管理システムの導入
総務にて行う給与明細の送付や、年末調整に伴う手続き等の管理の簡略化を目的に導入しました。

【令和6年度の取り組み】

今年度は人事給与システムや労務管理システムの更新時期となり、後継となるシステムの導入・更新作業を行いました。また、院内におけるBCPマニュアルの制定も行い、近年増加傾向となっているサイバーセキュリティの対応にも取り組みました。

【今後の目標】

医療業界におけるシステム化の波は年々大きくなっており、近年増加傾向にあるセキュリティインシデントへの対応も含め、システム課の業務量は増加しています。今後は、これまでシステム課が支援してきた事務的業務についても、各部門が独立して対応できる体制の構築を目指し、各部門のITリテラシー向上を意識した支援を進めていきたいと考えています。

文責 事務主任 石橋 慶悟

各委員会・診療チーム・その他

NST委員会

【メンバー】

Adviser : 水越 常德 医師
Chairman : 安達 秀樹 医師
Director : 一島妃東美 管理栄養士
Sub Director : 西澤 一步 管理栄養士
・医師…水越 常德、安達 秀樹
・管理栄養士…多田 梨保、權城 泉、一島妃東美
西澤 一步、佐藤かりん
・看護師…中山 祐子、坪内 亜優、宮本 祐華
太田 聖子、山口 千恵、平岩 悠子
葛西 翔暉、坂東 夕維、石黒 真帆
湯浅 真紀
・薬剤師…鈴木 景就、笠井 一憲、佐渡 望
・理学療法士…松村 真満、米田健太郎、浅香 翔梧
廣田 正和
・言語聴覚士…加賀 潤輝
・臨床工学技士…横道 宏幸、吉田 昌也
・臨床検査室…嶋 優人
・事務部…金田智香子、本間 美江

◆TNT研修修了（JSPEN）（医師）…

明石 浩史、安達 秀樹、高田美喜生、松谷 学
水越 常德、宮地 敏樹

◆NST専門療法士（JSPEN）…

一島妃東美、笠井 一憲、權城 泉、鈴木 景就
多田 梨保、中山 祐子、西澤 一步、松村 真満
佐藤かりん

【実績】

- ◆栄養サポート加算算定件数…実施ありません
- ◆カンファレンス・回診…実施ありません
- ◆委員会…毎月第3木曜日、11回（3月のみ中止）
- ◆勉強会…3回

【令和6年度の取り組み】

- ◆小チーム活動を再開しました（アウトカム・広報・呼吸・教育チーム）。

○アウトカムチーム

- ・栄養療法および栄養管理に関するアウトカムについて集計しています。

○広報チーム

- ・広報誌「栄養の架け橋」No.28・No.29を発行しています。
- ・栄養学習会のポスターを作成・配布しています。

○呼吸チーム

- ・月に1回小チーム会議を開催しています。
- ・教育や呼吸器の選定について検討しています。
- ・勉強会を開催しています。

○教育チーム

- ・各チームと連携し勉強会の企画および運営を行っています。

- ◆現地開催型の勉強会を企画し多くの職員に参加していただくことができました。

○第1回栄養学習会 令和6年5月開催

参加者約70名

【テーマ】 GLIM基準とMNAについて

【講師】 ネスレ日本株式会社 北村八大先生

○第2回栄養学習会 令和6年10月開催

参加者30名

【テーマ】 高齢者の栄養について（低栄養を中心に）

【講師】 森永乳業クリニコ株式会社

安賀歩花先生

○第3回学習会開催 令和7年2月開催

参加者50名

【テーマ】 人工呼吸器使用時のモニタリングの見方

【講師】 日本光電

鈴木理央先生

- ◆NST専任者の確保が困難のためカンファレンス・ラウンドを中止しています。

【今後の目標】

- ◆NST加算算定要件である職種(医師・看護師・薬剤師・管理栄養士)について、所定の研修受講者の確保に努め、NST専門療法士の育成を目指します。
- ◆NST専従者・専任者としての人員を確保（増員）できるよう、活動の充実を目指します。
- ◆ニーズに合った栄養療法に関する勉強会の実施を計画します。
- ◆グループ活動を継続し、委員会の活性化に努めます。

文責 NST専門療法士 西澤 一步

院内感染予防対策委員会、感染対策室、ICT、AST

【メンバー】

委員会構成	役職又は所属部署	氏名	専門・認定資格等
病院長	病院長	和田 卓郎	
施設長	施設長	堤 裕幸	日本感染症学会／専門医・指導医
委員長	副院長	堀田 浩貴	ICD (ICT・AST) 日本化学療法学会／抗菌化学療法認定医師
副委員長	副院長・看護部長	菅原 実夏	
診療部	副診療部長	安達 秀樹	
療育看護部	療育看護部長	大橋とも子	
医療技術部責任者	医療技術部長	野村 信平	
事務部責任者	事務部長	五十嵐浩司	
手術・中材責任者	手術・中材課長	臼杵 美花	
薬剤室責任者	薬剤室室長	上野 誠子	
栄養管理室責任者	栄養管理室課長	多田 梨保	
臨床検査室責任者	臨床検査室課長	木谷 洋介	(ICT・AST)
透析水管理者	臨床工学室係長	横道 宏幸	
感染管理認定看護師	TQMセンター主幹	澤 裕美	認定感染制御実践看護師 (ICT・AST)
薬剤師	薬剤室主任	小野 徹	日本化学療法学会／抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師 (ICT・AST)
感染対策室事務局	総務課主任	神山 拓也	(ICT・AST)
委員会事務局(事務部)	事務室長	岩山 隆史	
	総務課主任	佐藤 緑	
	健康診断課	窪田 恭子	
	医事課	相馬 彰斗	

【オブザーバー】

オブザーバー構成	役職又は所属部署	氏名	専門・認定資格等
診療部	副院長	水越 常德	ICD
看護部(リンクナース)	3A病棟	木藤 絢子 柴田 祐希	リンクスタッフ
	3B病棟	木谷由香里 田村 美月	リンクスタッフ
	4A病棟	平元 昌恵	リンクスタッフ
	4B病棟	林 裕美子	リンクスタッフ
	5B病棟	神前 芳子	リンクスタッフ
	外来 外来	沼山奈緒美 菊地奈々子	リンクスタッフ
	手術センター	野 達也	リンクスタッフ
	透析センター	井上 晶子	リンクスタッフ
医療技術部	薬剤室	一野 勇太 (AST)	
	臨床検査室	岡本 晃光 (AST)	
	放射線室	小林 洸貴	
	リハビリテーション室	平塚 渉	
	リハビリテーション室	髭内 紀幸	
療育看護部	療育看護部	佐藤 辰也	

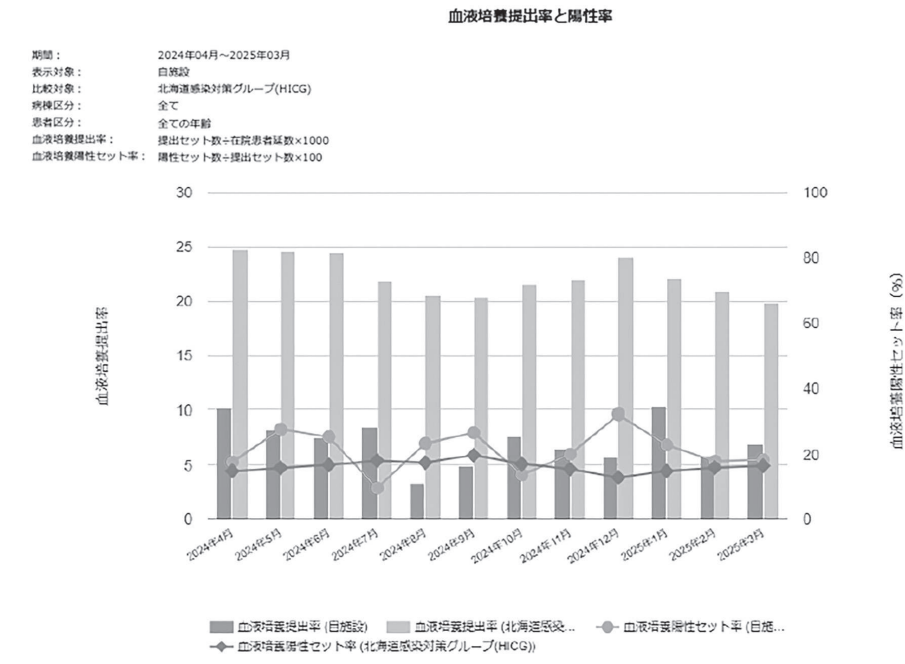
【部署の特徴】

当院では、院内感染対策指針に基づき、院内感染予防に係る様々な対策を実施する為、院内感染予防対策委員会を設置し、感染症に係る情報共有及びその対策を検討し、感染症の拡大を最小限に抑えるため積極的に活動を行っています。

効果的な感染防止対策を実施するため、院長の直轄部門としてインフェクションコントロールドクター（ICD：Infection Control Doctor）である副院長のもと感染対策室を設置し、更に実行部隊として感染対策チーム（ICT：Infection Control Team）を結成し、具体的な活動を行っています。

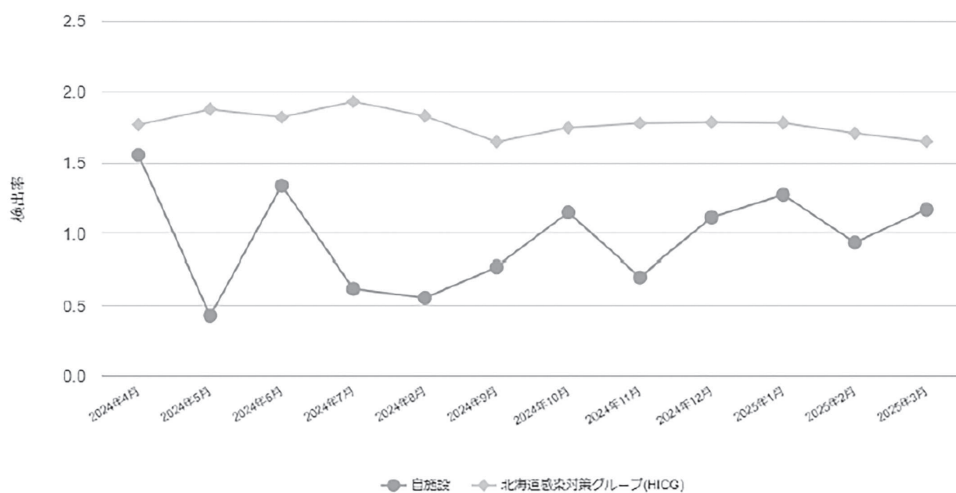
また、抗菌薬適正使用支援チーム（AST：Antimicrobial Stewardship Team）を結成し活動しており、特に適正使用が重要とされる広域抗菌薬と抗MRSA薬投与患者、血液培養陽性者の抗菌薬治療を対象とし、毎週チームメンバーでカンファレンスを行い、メンバーそれぞれの専門性を活かし抗菌薬の変更や臨床検査の追加などをまとめ主治医に提案することで、感染症患者に対して適切な感染症治療を支援し、抗菌薬適正使用を推進に関する活動を実践しています。

【実績】



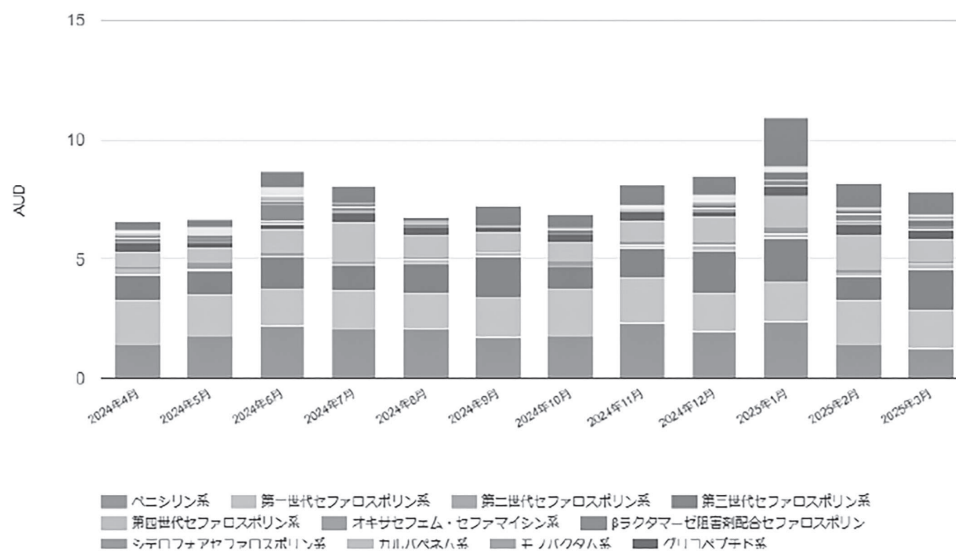
主要図・耐性菌検出率(主要耐性菌)

期間： 2024年04月～2025年03月
表示対象： 自施設
比較対象： 北海道感染対策グループ(HICG)
病棟区分： 全て
検出区分： 総数
主要菌・耐性菌： 耐性菌検出患者
検出率： 検出数÷在院患者延数×1000

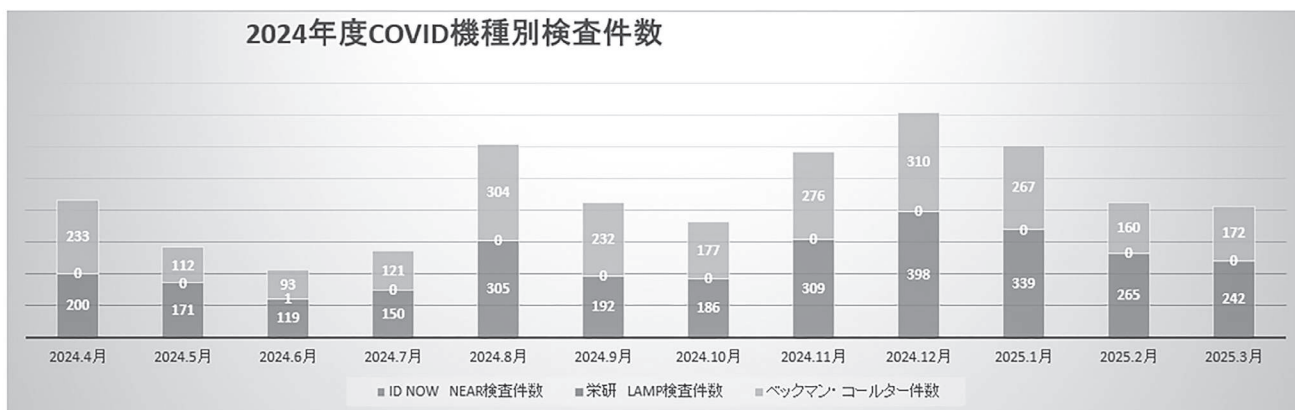


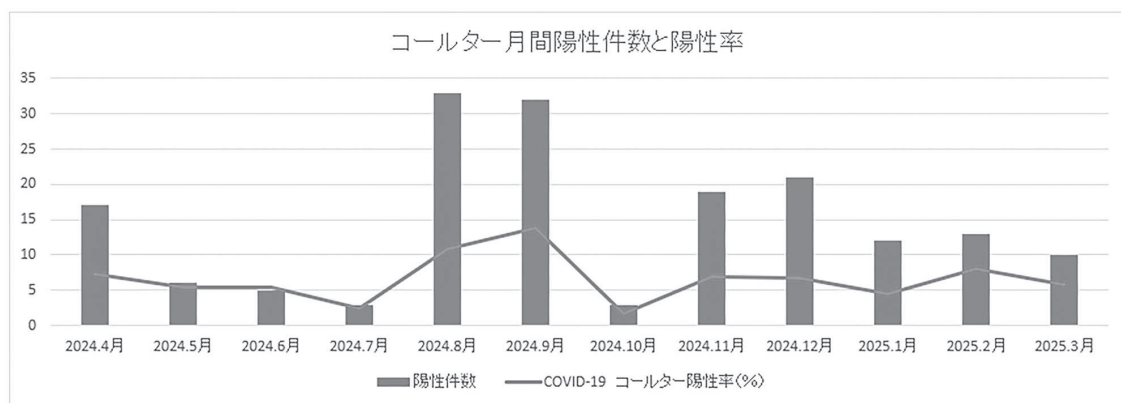
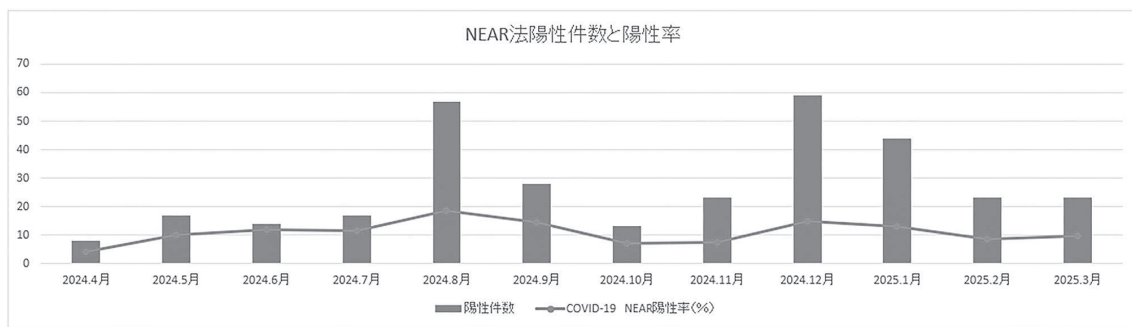
【注射】AUD：抗菌薬使用量÷DDD÷在院患者延数×100

期間： 2024年04月～2025年03月
表示対象： 自施設
表示単位： AUD
出力対象： 全て
薬剤種別： 注射
薬剤グループ： 全系統・薬剤系統/抗菌薬 (23)
AUD： (使用量÷DDD) ÷在院患者延数×100



2024年度COVID機種別検査件数





【令和6年度の取り組み】

- ・委員会開催（毎月）
- ・職員研修の実施（年2回）
- ・連携施設との合同カンファレンス実施（年4回）※内、新興感染症訓練1回
- ・連携施設への訪問指導（年4回）
- ・マニュアル等の改訂

【今後の目標】

昨年度より、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、様々な制限が緩和され、新型コロナウイルス感染症流行前くらい、国内・海外からの旅行客が増えてきています。人の行き来が盛んになり近年、新型コロナウイルスの影に潜んでいた各種感染症が流行し各地で拡大していることから、新たな感染症への対応も視野に入れ、患者さんと職員の安全を守っていく取り組みを次年度も行っていきます。

文責 感染対策室 木谷 洋介

医療安全管理対策委員会、医療安全管理室

【スタッフ】

委員長：織田 崇（医療安全管理責任者）
（小樽病院）

診療部：安達 秀樹（マネージメントリーダー）

看護部：佐々木雪絵（兼任医療安全管理者）

中川 尚美、杉崎 美香、岡本 麻理、
佐藤 悦子、安宅 春華、兒玉真夕美、
白杵 美花、伊藤 瑞代、本間美穂子

医療技術部：上野 誠子（マネージメントリーダー、
医薬品安全管理責任者）
平塚 渉（マネージメントリーダー）、
松尾 覚志（医療放射線安全管理責任者）、
多田 梨保、高橋 靖明、
横道 宏幸（医療機器安全管理責任者）
小林 拓真

事務部：蝦名 哲行、阿島 亮、吉田みのり、
山崎 隆

医療安全管理室：笹山 貴司（専任医療安全管理者）、
伊藤紀美江

（みどりの里）

療育診療部：足立 憲昭（マネージメントリーダー）

療育看護部：大場美穂子（兼任医療安全管理者）、

小泉 由美、池田 早苗、成木 宣裕

療育医療技術室：前田 美穂（マネージメントリーダー）

事務部：岩山 隆史（マネージメントリーダー）

【部署の特徴】

医療安全は、医療の質に関わる重要な課題であり、安全な医療の提供は医療の基本となるものです。各部署から選出されたリスクマネージャーのもとに、医療安全管理のためのマニュアル整備や、ヒヤリ・ハット事例分析によりマニュアル等の定期的な見直し等を行い、医療安全管理の強化充実を図っています。

また、地域医療安全ネットワークを構築することにより連携施設以外とも情報交換をし、地域の医療安全向上を目指しています。

【実績】（患者数・手術件数などは、別項目にて記載します）

①活動実績

医療安全管理対策委員会：毎月第一金曜日、12回実施

医療安全カンファレンス：毎週水曜日、51回実施

医療安全連携施設ラウンド：

小樽掖済会病院：2024年10月25日

朝里中央病院：2024年10月15日

島田脳神経外科：2024年10月10日

②医療安全セミナー実績

①講習内容：「病院における災害対策の再考1」

参加者人数：417名

②講習内容：「病院における災害対策の再考2」

参加者人数：416名

③レポート報告件数について

・インシデントレポート報告件数 1277件

・報告内容概要別件数

概 要	件 数
薬剤	393
輸血	7
治療・処置	15
医療機器等	96
ドレーン・チューブ	246
検査	50
療養上の世話	542
その他	165

・職種別報告件数

職 種	件 数
医師	7
看護師	1093
看護助手	8
薬剤師	55
診療放射線技師	15
臨床検査技師	9
臨床工学技士(CE)	35
管理栄養士	25
理学療法士(PT)	76
作業療法士(OT)	46
言語聴覚士(ST)	20
事務	17
社会福祉士	0
臨床心理士	1
介護福祉士	49
児童指導員・保育士	15
調理委託	9

・報告内容

薬剤関連（382件）

概 要	件 数
無投薬・未配薬	135
投与時間・日付間違い	42
患者間違い	28
過剰投与	12
薬剤間違い	10
過剰と薬準備	10
処方忘れ	8
その他	137

輸血関連（7件）

概 要	件 数
投与方法間違い	3
その他	4

治療・処置（13件）

概 要	件 数
未実施・忘れ	3
方法(手技)の誤り	1
医療材料取り違い	1
その他	8

医療機器等（91件）

概 要	件 数
不適切使用	16
破損	2
組み立て	2
使用前の点検・管理ミス	2
その他	69

ドレーン・チューブ類（243件）

概 要	件 数
自己抜去	108
抜去	32
接続はずれ	24
切断・破損	10
接続間違い	8
自然抜去	7
未接続	6
その他	48

検査関連（32件）

概 要	件 数
未実施	14
指示検査の間違い	3
部位間違い	3
検体採取時のミス	2
データ取違い	2
その他	8

療養上の世話（522件）

概 要	件 数
転倒	174
スキンケア	121
給食の内容の間違い	60
転落	46
実施忘れ	17
異食	13
誤配膳	12
衝突	10
異物混入	9
その他	60

項目別患者影響度件数

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4a	レベル4b	レベル5	その他
薬剤関係	99	274	16	3	0	0	0	0	1
輸血	1	4	2	0	0	0	0	0	0
処置	1	8	2	4	0	0	0	0	0
医療用具(機器)	24	67	5	0	0	0	0	0	0
ドレーン・チューブ類	17	203	22	2	2	0	0	0	0
検査	6	40	3	1	0	0	0	0	0
療養上の世話	36	136	15	8	0	0	0	0	1
転倒・転落	18	0	164	12	11	0	0	0	0
食事と栄養	14	126	1	0	0	0	0	0	0
事務	0	4	0	0	0	0	0	0	1
手術	4	11	0	0	0	0	0	0	0
情報・記録	8	9	0	0	0	0	0	0	1
針刺し事故	0	1	0	0	0	0	0	0	5
リハビリテーション	21	30	8	3	0	0	0	0	0
その他	23	30	1	0	1	0	0	0	4

【令和6年度の取り組み】

- ・「〇レポートを活用して、インシデントを防ごう！！」を医療安全の年間テーマとし、各部署において目標設定し実践した。
- ・感染拡大防止の観点から中止していた、医療安全地域連携ラウンドを再開し、地域の医療安全活動に努めた。

【今後の目標】

- ・安心、安全な医療の提供をするため、部署の垣根を越えた医療安全活動を行えるような組織風土の醸成を目指す。

文責 医療安全管理室副室長 笹山 貴司

褥瘡対策委員会

【スタッフ】

木村 雅美	外科副診療部長	委員長
兒玉真夕美	5B病棟看護課長	副委員長
今井 友裕	3A病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
大村 舞	3A病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
小路 深雪	3B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
平木 康太	3B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
澤田 涼子	4A病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
高木実圭子	4A病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
青木 昭人	4B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
北村 光	4B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
田中詩緒梨	5B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
磯部 真奈	5B病棟看護課	褥瘡対策チーム（専任）
鈴木 桂子	外来看護課	褥瘡対策チーム
松木まさき	手術・中材看護課	褥瘡対策チーム
上 朋美	A病棟療育看護課	褥瘡対策チーム（専任）
渡部 優子	A病棟療育看護課	褥瘡対策チーム（専任）
横山こず恵	B病棟療育看護課	褥瘡対策チーム（専任）
大平 夢子	B病棟療育看護課	褥瘡対策チーム（専任）
霜鳥 祐弥	C病棟療育看護課	褥瘡対策チーム（専任）
佐藤いずみ	C病棟療育看護課	褥瘡対策チーム（専任）
山平 建人	リハビリテーション室	褥瘡対策チーム
石川竜乃介	リハビリテーション室	褥瘡対策チーム
多田 梨保	栄養管理室	褥瘡対策チーム
一野 勇太	薬剤師	褥瘡対策チーム
世戸 収子	医事課	事務局
犬飼 大祐	経理課	事務局
中川 尚美	看護管理室	褥瘡対策チーム
成木 宜裕	C病棟療育看護課長	褥瘡対策チーム

【部署の特徴】

褥瘡は難治性の創傷のため、一度発生すると完治するまでに時間を要します。そのため、褥瘡が治癒しないことで入院期間が長くなり、身体的・精神的苦痛を伴うと予測されます。褥瘡予防や治療には、発生原因の把握や局所治療だけではなく、全身状態やADL、社会的背景など多方面からの介入が必要となります。当院では毎月外部WOC 2名に往診（定期回診・オンライン回診）の協力をいただき多職種でチームを組み、日々活動を行っています。

【実績】

1. 相談実績 4月～3月

相談患者数	86名
新規発生	66名(小樽病院63件、みどりの里3件)
持ち込み	53名

2. 令和6年度褥瘡発生報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実患者数	434	417	413	425	409	424	470	462	459	449	473	477
新規発生患者数	6	3	5	3	2	3	3	6	8	15	8	4
新規発生率	1.38	0.72	1.21	0.71	0.49	0.71	0.64	1.08	1.74	2.45	1.27	0.84
持ち込み患者数	4	2	1	4	4	5	4	6	8	8	3	4
有病率	2.30	1.20	1.45	1.65	1.22	1.89	1.49	2.60	3.49	4.01	0.63	0.84

【令和6年度の取り組み】

年間目標『新規褥瘡発生患者数を減少させる』

評価指標：昨年度比20%減（令和5年度小樽病院：58人 みどりの里：5人）

結果：昨年度比26%増 66件（小樽病院63件 みどりの里3件）56人

※令和6年度の結果は、褥瘡新規発生件数で算出

1. 外部WOCによる月1回の定期回診（第1水曜日）、および月1回オンライン回診（第3水曜日）
2. 新規褥瘡発生予防に向けての取り組み
 - ①年2回の褥瘡対策チーム研修の実施（6月・11月）
 - ②褥瘡対策チーム研修で学んだことを現場スタッフへ指導
 - ③褥瘡回診時、困難事例や他部署の患者情報共有
 - ④毎月チェック表を活用し、自部署の現状把握と取り組みの共有
 - ⑤新規褥瘡発生の状況把握と分析、要因に対する対策の実施

【今後の目標】

令和6年度は新規褥瘡発生件数に注視し、昨年度比20%減を目指し活動してきました。しかし、当院の新規発生件数は増加し、予防の強化に努めていく必要があるため、次年度は効果的な予防対策を実施するための知識、能力を養えるようWOCによる月1回カンファレンス開催と年2回の褥瘡対策チームを対象とした研修を実施していきます。また、臨床現場で有効なカンファレンスが実施できるよう褥瘡対策チームが中心となり多職種で活動していきます。入院中の褥瘡発生は入院期間が延びてしまうだけでなく、患者さんの希望に沿った退院の妨げやその後の生活に多大な影響を及ぼしかねません。後志は高齢化が進み、老々介護や独居の状態で入院される患者が多い状況です。その中には褥瘡を抱えた状態で入院される患者も少なくありません。再発を予防するためにも院内チームだけではなく、外部との連携が必要となってきます。褥瘡は全人的ケアが必要であり、多職種で構成されたチーム活動が重要となります。院内だけではなく、地域医療と連携し、治療・予防を実施し、質の向上を目指していきます。

文責 褥瘡対策副委員長 兒玉 真夕美

クリニカルパス委員会

【概 要】

平成18年よりクリニカルパス部会として発足し、紙カルテ期よりクリニカルパス作成に従事し済生会小樽病院の医療の標準化、患者インフォームドコンセントの充実の支援をしております。平成25年から電子カルテ移行に伴いクリニカルパスも電子化へと移行しております。平成30年度よりDPC開始となり、質・量ともに向上を目指して活動しております。令和4年度より骨折リエゾンサービス（FLS）へもクリニカルパスを用いて運用開始しております。

【スタッフ】

委員長：織田 崇（委員長）
 医師：水越 常德、安達 秀樹
 看護 師：砂川 友紀、会津 郁美、大村 和史
 竹下仁依菜、山崎多寿子、宮本 洋祐
 久保 茂栄、石田ゆかり、早川 晃子
 薬剤 師：芦名 正生、中村 圭介
 放射線技師：松尾 覚志
 臨床検査技師：高橋 賢規
 臨床工学技士：山内 揚介
 理学療法士：髭内 紀幸（副委員長）、花田 健、
 山中 佑香
 管理栄養士：佐藤かりん
 事務職員：平澤 慎吾、本間 一平、田宮 千晶
 小林 政彦

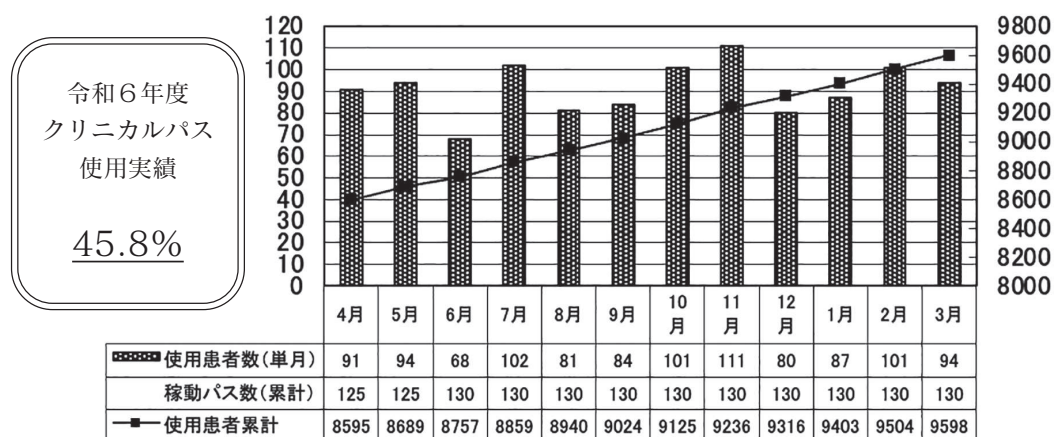
【当委員会の特徴】

委員会を5つのチーム（運用チーム、分析・改訂チーム、活動推進チーム、サポートチーム、骨折リエゾンサービスチーム）に編成し、各チーム単位でクリニカルパス活動の検討をしております。

上記各チームリーダー、クリニカルパス活動推進スタッフからなるコアチームが中心となって活動してまいりました。

【実 績】

クリニカルパス使用患者数(全疾患合計)



稼働クリニカルパス

内科

胃瘻造設術（４種類）、R-CHOP療法、糖尿病教育・検査入院（２種類）、大腸E M R（６種類）

外科

腹腔鏡視下胆嚢摘出術（２種類）、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（２種類）、ヘルニア根治術（２種類）、外科大腸癌化学療法、甲状腺手術（２種類）

整形外科

膝関節鏡視下術、左・右BHA（２種類）、左・右大腿骨近位部骨折（２種類）、左・右橈骨遠位端骨折（２種類）、左・右TKAパス（２種類）、左・右UKA（２種類）、左・右THA、左・右ACL（２種類）、下肢抜釘（３種類）、左・右アキレス腱断裂縫合術（２種類）、左・右腱板断裂術（２種類）、膝A S半月板縫合術、急性腰痛、骨盤骨折、腰部脊柱管狭窄症（２種類）、頸椎性脊髄症（２種類）、左・右足関節果部骨折骨接合（２種類）、手根管症候群（２種類）、肘部管症候群（２種類）、上肢抜釘（４種類）、腰痛椎間板ヘルニア、ミエログラフィー（３種類）、左・右高位脛骨骨切術（２種類）

（回復期）大腿骨近位部骨折、ヘルニコア、左・右上腕骨近位部骨折

泌尿器科

前立腺生検、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）、ESWL、尿管ステント留置・交換術、GC（ジェムザール+シプラスチン）、TUL、腹腔鏡下腎臓摘除術、膀胱結石粉碎術、腹腔鏡下腎・尿管摘出術

脳神経内科

脊髄小脳変性症（ヒルトニン点滴）入院

計130パス

【令和6年度の取り組み】

今年度もクリニカルパスの質を改善しつつ、職員の業務効率を向上できるようにクリニカルパスを見直していく活動に取り組みました。

今年度は内科系のクリニカルパス作成として、肺炎パス作成に取り組み骨子は完成して今後微調整を図り運用開始できるように準備中です。今後、様々な診療科で利用できるクリニカルパスを作成していき、病院全体の医療の質向上、患者満足度へ寄与できるよう努めてまいります。

文責 リハビリテーション室 髙内 紀幸

患者サービス検討委員会

【メンバー】22名

委員長	菅原 実夏（看護部）
副委員長	阿部 亮（事務部）
	一野 勇太（医療技術部）
	花田 健（医療技術部）
事務局	吉田みのり 村上 義明
看護部	齋藤 朋美 佐々木知美
	松本 美紀 宮本 洋祐
	古山 真代 三浦 優花
	中村 美幸 高橋 知子
医療技術部	佐藤かりん 小林 朱莉
	内藤 格 加賀 潤輝
	及川 尚也
事務部	浦見 悦子 豊川 哲康
	菅原 充晴

【活動内容】

コロナ感染症の位置づけが令和5年度より感染症分類の第5類となり、徐々に制限などは緩和していく中で、やっとロビーコンサートを復活することとなりました。「患者満足度調査」「接遇」「イベント」の3つのグループに分かれて活動をしました。

患者満足度調査グループ

- ・患者満足度調査は、令和6年6月・12月に実施しました。外来満足度調査では前年度と比較し、全てにおいて高い結果となりました。回答数は、約150件増えていきますので、ご意見を更なる対策に反映していきます。会計待ち時間対策として『自動精算機』『後払い決済』を導入し一定の効果はみられています。引き続き、外来診察の待ち時間の対策としての『患者呼び出し表示システム』の検討を重ねています。

外来の患者満足度の調査結果

	2024年度	2023年度	2022年度
回答数	502	356	232
総合評価 当院平均値	4.01	3.94	4.14
総合評価 ベンチマーク (BM) 平均点	4.09	4.08	4.09
総合評価 BM同規模平均点	4.06	4.04	4.1

入院の患者満足度の調査結果

	2024年度	2023年度	2022年度
回答数	145	143	11
総合評価 当院平均値	4.13	4.42	4.27
総合評価 ベンチマーク (BM) 平均点	4.37	4.35	4.35
総合評価 BM同規模平均点	4.38	4.37	4.42

- ・入院満足度調査では、平均値が前年度より0.29ポイント低い結果でした。ベンチマークは僅かですがアップしていました。フリーコメントに複数のご意見（トイレ清掃、接遇面）を頂きまして、速やかな対応を目指します。

接遇グループ

- ・接遇研修 2024年10月に開催し、89名の職員が参加しました。自己研鑽対応の研修でしたが、研修の満足度、関心の高さ、業務への活用は80%の方が満足された結果でした。
- ・「接遇プロジェクトチーム」が作成した『接遇マニュアル』の職員への周知と優秀者の選定を行いました。忘年会で、以下の方々の表彰を行いました。
- ・最優秀者：佐藤由紀枝さん
- ・優秀者：平野理都子さん、佐々木 耕さん
見澤 早苗さん、佐藤かりんさん
吉武れおねさん

イベントグループ

- ・ロビーコンサートとして、10月19日（土）14時～15時に参加型の札幌ドラムサークルによるコンサートを開催しました。50名の患者さん、サポート職員は約20名でした。大小いろいろな種類の太鼓や打楽器などを、サークルのリーダーの誘導により思いのまま音を奏で、楽しいひと時になりました。

【今後の目標】

- ・診察待ち時間対策としての「呼び出し表示システム」の導入について引き続き検討を致します。
- ・病院全体で『接遇教育』について検討し、済生会小樽病院の職員として、更なる接遇の向上を目指します。
- ・入院療養中の患者サービスとしての“ロビーコンサート”の開催等も、委員会として更に前進します。

文責 副院長 兼 看護部長 菅原 実夏

内分泌・糖尿病診療センター

【スタッフ】

部署・職種		氏名	資格など
センター長	医師	水越 常德	副院長・内分泌専門医
看護部	看護師	木藤 絢子	糖尿病療養指導士
		早川恵美子	糖尿病療養指導士
医療技術部	薬剤師	青木有希子	糖尿病療養指導士 糖尿病薬物療法認定薬剤師
		村川麻里子	糖尿病療養指導士
	管理栄養士	多田 梨保	課長・糖尿病療養指導士
		権城 泉	主任・糖尿病療養指導士
	理学療法士	三浦富美彦	糖尿病療養指導士 代謝認定理学療法士
		城田 祐輔	糖尿病療養指導士
		熊谷紗也香	糖尿病療養指導士
	臨床検査技師	岡本 晃光	主任・糖尿病療養指導士
	事務部	平尾 愛	
吉田 幸恵			

【活動内容】

当センターでは、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師・事務で構成しています。月1回のセンター会議に加え、毎週金曜日にチームカンファレンスを開催し、KAGRAシステムより選定した患者さんへの介入について多職種で検討することにより、より質の高い糖尿病支援に努めています。外来診療の活動としては、糖尿病透析予防指導・フットケア外来・インスリン自己注射や血糖自己測定指導を通して、各職種の特徴を生かし、患者様の個々のライフスタイルに合わせた療養支援を提供しています。

糖尿病の教育入院は、当院で作成した1～2週間程度の教育入院スケジュールに沿って、糖尿病療養指導士のスタッフと一緒に、糖尿病について学び、自身のこれまでの生活を振り返り、個々のライフスタイルに合った具体的な療養生活を考えていけるよう、患者様中心のチーム医療を実践しています。以前から行っているCGM(持続グルコース測定)・フリースタイルリブレは導入件数が月平均65件となっており、昨年度と比較し、年間200以上増加しています。機器を使用することで、24時間の血糖値の推移を把握し、日常の診療や患者さん自身の糖尿病管理の動機付けに役立てています。

【実績】

糖尿病教育入院 実施人数：46人
 糖尿病透析予防指導：0件
 CGM装着・解析 実施件数：6件(2024年8月～終了)
 フリースタイルリブレ 実施件数：782件
 フットケア 実施件数(糖尿病合併症管理料)：46件
 糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病 介入人数：0名
 KAGRAシステム抽出人数690件

【取り組み】

- センター会議開催 毎月定例 12回
- 糖尿病カンファレンス 毎週木曜日
- 院外勉強会・活動・学会発表
 - ・第30回全国済生会糖尿病セミナー(2024年8月17日) 学会発表
 - ・第12回日本くすりと糖尿病学会学術集会(2024年10月5・6日) 学会発表
 演題名：DPP-4阻害薬の長期服用中造影剤使用を契機に水痘性類天疱瘡を発症したと思われる一例
 発表者：薬剤室 青木 有希子
 - ・第30回全国済生会糖尿病セミナー(2024年8月17日) 学会発表
 講演名：当院の糖尿病教育入院の軌跡と糖尿病チーム内のアンケートから見える今後の課題
 講演者：看護部 早川 恵美子
 - ・第30回全国済生会糖尿病セミナー(2024年8月17日) 学会発表
 講演名：リブレの特性を活かした糖尿病運動指導のための一次調査～主にリブレ測定回数と運動習慣の有無に着目して～
 講演者：リハビリテーション室 三浦 富美彦

【今後の目標】

糖尿病治療の目的は、治療を行いながらも健康な人と変わらない生活を送れるように支援することです。それぞれの専門職種を生かした視点から親身になって患者様と関わっていき、その人に合った療養指導の提供を今後も継続して行っていきたいと思っています。後志地区は高齢化が進んでいますが、“その人らしい生活・生き方”を支えるために、チームを始め、地域全体で協力して進めていきたいと考えています。そのためにも、我々スタッフの自己研鑽・コミュニケーションを充実し、よりよい医療サービス・療養指導の提供に邁進していきたいと思っています。

文責 栄養管理室 権城 泉



緩和ケアチーム

	役職・職種	氏名
診療部	内科 診療部長	明石 浩史
	外科 副診療部長	木村 雅美
	緩和ケア内科 部長	菊地未紗子
看護部	看護師 緩和ケア認定看護師	藤原 大地
	看護師 係長	中山 優子
	看護師 係長	宮下めぐみ
	看護師	田代 季
	看護師	木谷由香里
	看護師	野上 麻里
	看護師	早川恵美子
薬剤室	薬剤師 課長 緩和薬物療法認定薬剤師	鈴木 景就
	薬剤師	村川麻里子
栄養 管理室	管理栄養士 主任 がん病態栄養管理栄養士	権城 泉
リハビリ テーショ ン室	理学療法士	川尻 唯
	作業療法士 主任	林 知代
	言語聴覚士 主任	加賀 潤輝
放射線室	診療放射線技師 係長	舟見 基
事務部	MSW	福森 星輔
	MSW	吉田みのり

【活動内容】

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療放射線技師、MSWなど多職種で構成されたチームで患者さん、ご家族のつらさに寄り添い、また、希望をもって生活が継続できるよう活動しています。具体的な活動として①緩和ケアチーム回診（毎週火曜日）②チームカンファレンスの開催（外来：火曜日午後、入院：木曜日午後）③院内講演会の企画④マニュアル整備⑤地域連携活動を行っています。

2024年度はアドバンス・ケア・プランニング（ACP）への取り組みに力を入れ活動を行いました。緩和ケアを目的に他院より紹介された患者さんも年々増えています。緩和ケアを希望され当院へ受診された方からあらためてこれからどのように過ごしていきたいか、お話を聞かせていただき、可能な限り患者さん

やご家族の希望される生活を過ごせるように支援しています。外来通院されている患者さんのACP実施率は8割を超えており、ACPを実施した方の大半がご希望された療養の場で生活することができています。

在宅退院患者支援についても地域の医療、福祉関係の皆様と協働することで患者さんの「家に帰りたい」という希望をできるだけ尊重した取り組みを行うことができています。

外来から入院まで連続してチームとして関わる事ができ、継続的な緩和ケアの介入ができています。

【今後の目標】

緩和ケアへの早期介入の試み

がんスクリーニングを実施することで、早期から緩和ケアチームが介入することができていますが、病棟からチームへの連絡漏れが見られる状況にあります。また、入院後に診断がつく場合が考えられるため、連絡体制を強化し、全てのがん患者さんが早期から緩和ケアを受けることができる体制を作っていきたいと考えています。

地域医療への貢献

地域の緩和ケアの質向上に寄与し、がんになっても安心して住み慣れた場所で過ごしていけるよう、地域の医療機関、介護福祉関係者と連携しながら、退院後も継続的にフォローできる体制を整えていきます。また、最新の知識や緩和ケアに対する考え方などをさらに広めていくために講演会の継続的な開催や医療職向けの勉強会を開催していきます。

地域の緩和ケアの質向上についての講演、講師等の依頼にも積極的に協力します。

研究活動の推進

チームメンバー個々の能力の向上は、ケアの質をさらに高めることにつながります。メンバーそれぞれが自己研鑽を行い、多職種チーム医療の成果を関係学会等に積極的に発表していきたいと思っています。

文責 看護部 藤原 大地

認知症ケア推進室

【スタッフ】

所属	氏名	職種・役職	専門・認定資格
診療部	林 貴士	医師 脳神経内科部長	日本神経学会神経内科専門医 日本内科学会総合内科専門医 医師臨床研修指導医 認知症サポート医
	菊地未紗子	医師 精神科・腫瘍 精神科・緩和 ケア内科 部長	日本精神神経学会精神科専門 医・精神科指導医 精神保健指定医 産業医 日本総合病院精神医学会一般 病院連携精神医学特定指導医
看護部	佐藤由紀枝	看護師・看護係長	認知症看護認定看護師
	打越 純子	看護師	
	大久 雅也	看護師	
	古瀬 康江	看護師	
	見澤 早苗	看護師	
	田中 幸希	看護師	
	田村 政了	看護師	
	小野寺由美	看護師	
	佐々木真琴	看護師	
	清水 美空	看護師	
医療 技術部	小島さやか	作業療法士	
	大泉 忍	言語聴覚士	
	又村 健太	薬剤師	
	西澤 一步	管理栄養士	
事務部	阿部 葵	社会福祉士	
	平澤 慎吾	医事課	

【部署の特徴】

認知症ケア推進室は2016年に認知症ケア委員会として発足し、2019年からは推進室として活動しています。認知症ケア加算1やせん妄ハイリスク患者ケア加算に準じ、急性期疾患による治療や回復過程でリハビリが必要となった認知症の方が、入院生活という環境の変化に混乱なく療養できるよう、環境調整やケアを推進しています。また、せん妄の発症を予防するために早期の介入を実践しています。環境調整では、病院であること・入院している理由の掲示や、カレンダー・時計の設置、ケアの実践では個別性に合わせたカンファレンスからケアの提案と現状の理解につなげるためのリアリティーオリエンテーションの習慣化に取り組み、認知症ケアの質の向上を目指しています。さらに身体的拘束最小化に向け、院内一丸となり取り組む体制を構築しています。

【実績】令和6年度

認知症ケア加算1 算定件数 30,684件
 認知症ケア加算1 収益 22,551,480円
 せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数 1,521件
 せん妄ハイリスク患者ケア加算収益 1,521,000円
 せん妄ハイリスク患者急性期算定率 52.8%
 入院患者認知症比率（算定延件数／入院延患者数）40.9%
 身体的拘束比率（身体的拘束件数／総認知症算定件数）13.2%

【令和6年度の取り組み】

専門的知識をもつ多職種でケアの実践を行っています。認知症ケアやせん妄ケアにおける主な活動内容は①認知症ケアチームによる週1回以上の回診・カンファレンスの実施（毎週水曜日午後）②院内研修会の開催③認知症患者の環境調整④身体的拘束軽減のためのケアの提案などを中心に行っています。カンファレンスでは、話し合った内容を病棟スタッフと共有し、認知症の方の不安・混乱の軽減やせん妄の早期改善、身体的拘束を最小限にするための代替案の提案などを行っています。

今年度は新たな取り組みとして、マフの導入に向けた活動を開始しました。マフとは毛糸などを筒状に編みこみ、外側には様々なデザインの装飾を、中には手触りの良い握れる飾りを取り付けたものです。認知症の方は治療のために挿入される管の必要性を覚えていることが難しくなることから、管に触れて抜けてしまうことがあります。そうした際にマフを使用することで、管に触れる機会が減り誤抜去を予防することが期待できます。

マフの素材から心地よさを感じることで不安を和らげ、目で見て触れることで感覚刺激にも効果があると言われています。当院では院内ボランティアの協力によりマフを作成し、誤抜去予防の身体的拘束を軽減するために取り組んでいます。

さらには診療報酬の改定により強化された、身体的拘束の最小化に向けた体制を構築するために新たな委員会である「身体的拘束適正化委員会」を設置し、次年度より始動する予定です。医療の現場では患者の生命を守るために一時的に身体的拘束を行い患者の行動を制限する場合がありますが、その行為は緊急やむを得ない場合を除き人権侵害にあたります。そのことを念頭に置き患者様にとって何が最善かを考えケアを実践できるよう取り組んでいきます。

【今後の目標】

認知症ケア、せん妄ケアの更なる質向上を目指し、院内研修をはじめ現場での環境調整やケアを実践し、病院全体で知識・対応力の向上に繋げていきます。

4月から始動する身体的拘束適正化委員会では、病院長を中心に身体的拘束の現状を把握しながら最小化に繋げるための具体的な活動について検討し、病院全体での実践に繋げていけるよう取り組んでいきます。

また、認知症の方が病状や治療についての説明を受け、自身の治療や今後の生活場所を自ら選択する機会が得られるよう、意思決定の支援についての実践についても強化し、さらには地域への貢献に繋がるような活動についても検討していきたいと考えています

文責 看護係長 佐藤 由紀枝



手・肘センター

【スタッフ】

部署・職種		氏名	役職・資格など
診療部	医師	和田 卓郎	院長、日本手外科学会専門医・指導医・代議員、日本肘関節学会監事・評議員
		織田 崇	診療部長、日本手外科学会専門医・指導医・代議員、日本肘関節学会評議員
医療技術部	作業療法士	山中 佑香	技術課長、日本作業療法士協会認定作業療法士
		高橋 靖明	技術主任
		五嶋 渉	
		我彦 由紀	
		杉下 智香	
		須貝 隆旗	
		白戸 力弥	日本作業療法士協会認定作業療法士

【部署の特徴】

当センターは、手と肘の診療を専門とする医師と作業療法士が担当しています。新鮮重度損傷や先天異常を除く、手と前腕、肘の外傷や変性疾患を対象としています。月1回、医師と作業療法士が行うケースディスカッションを開催し、患者さんの治療方針、目標設定などについて議論しています。より質の高い治療を医師と作業療法士で検討することで、機能面だけでなく患者満足度の向上に努めています。また、学術活動を通して、患者や治療に還元できる臨床研究を積極的に行い、さらなる質の高い治療が提供できるよう日々研鑽を積んでいます。

また、2016年4月より新設された精密知覚機能検査の算定や、スプリント作成を通して、増収への貢献と共に専門的な治療も行っています。さらに当院は北海道で数少ない筋電電動義手の実施装着訓練機関の一つであり、北海道各地より患者さんを受け入れ、上肢切断者に対する最先端のリハビリテーションを行っています。筋電義手における筋出力方法において、より効率的な患者さんへの訓練方法の研究・発表

を行い、第36回日本ハンドセラピー学会学術集会において優秀演題賞を受賞しました。

【実績】

- 精密知覚機能検査 131件（手根管症候群99件、肘部管症候群30件、その他2件）
- スプリント作成 163件
- 筋電義手訓練症例数 6例（令和6年度、通算）
- 手術 393件（抜釘を除く）

【令和6年度取り組み】

- ケースディスカッション 毎月1回（医師、作業療法士）
- ミーティング 毎週1回（作業療法士のみ）
- 講演会 3件（詳細は講演会・講義参照）
- 講義 1件（詳細は講演会・講義参照）
- 学会発表 19件（詳細は学会・研究発表参照）
- 総説 1件（詳細は総説参照）
- 研究会発表 4件（詳細は学会・研究発表参照）
- 論文 10件（詳細は論文発表参照）
- 著書 4件（詳細は著書参照）

【今後の目標】

小樽・後志地区はもちろんのこと、道内外において患者と医療者の双方に選ばれるよう日々研鑽を重ね、丁寧で、治療効果と満足度が向上する診療とリハビリテーションの提供ができるよう心がけます。どんな疾患に対しても最先端の治療を提供できるように、国内外における学術活動や研究を通して自己研鑽を積んでいきます。

文責 作業療法士 高橋 靖明、山中 佑香

第68回日本手外科学会学術集会／第36回日本ハンドセラピー学会（奈良）の発表と参加

五嶋 渉

2024年4月25、26日に第68回日本手外科学会学術集会で「重度手根管症候群に対する母指対立再建術の機能評価」という演題で発表・参加をいたしました。さらに2024年4月27、28日で第36回日本ハンドセラピー学会にも参加をしました。手・肘センターへ所属して5年目となり、今回は初めて現地で参加し

て、和田院長のご講演をはじめ、さまざまな講演や演題を直接聞くことができ非常に勉強になりました。また、ハンドセラピー学会のレセプションでは、全国のセラピストの方と意見交換をすることができ、皆さんも同じように悩むことや苦戦していることを知り、最新の知見をアップデートする必要性や学会発表・参加することの大切さを改めて感じました。これからも一人一人の患者さまに寄り添いながら、再び手が使えるようにご支援していきたいと思います。最後に、この場をかりて、今回の発表にご協力をいただいた手・肘センターのスタッフをはじめ、リハビリテーション室の皆さんに感謝申し上げます。



済生会小樽くらしたい共生フェス開催

誰もが共に学び、健康にすごせる‘まち’を創造

9月8日、ウイングベイ小樽内の済生会ビレッジで北海道済生会の医療や福祉活動を通じたまちづくりを紹介する「小樽くらしたい共生フェス」を開催しました。

済生会ビレッジを中心に様々な企画が行われ、若者、老若男女問わず多くの市民が参加しました。「定番」の済生会小樽病院による健康測定会はもちろん、未来共生マルシェでは老舗料亭が販売する冷凍やわらか和食(嚙下食)や、当会就労継続支援事業所「ぷりもぱっそ」の野菜販売を実施。室蘭から参加の学校法人北斗文化学園は、調理専門学校で実習に来ていたフラ

ンスの学生たちがコックのいでたちでスイーツを販売。別会場では、モルックやボッチャのユニバーサルスポーツの体験や大会、済生会みどりの里の利用者「劇団みどり」の演劇ステージも披露されました。

メインステージでは共創カンファレンスが実施され前日のドラフト会議で1位指名を勝ち取った隠岐高校(島根県)の北野さんが多くの観客の前でプレゼンを行いました。他にもパラ・デフアスリートによるトークショー、市内中高3校が吹奏楽を披露。会場を大いに盛り上げました。前年の3倍にのぼる延べ7,000人が参加した今回の共生フェスは大成りで、地域住民が健康で生き生きと自分らしく活躍することができ、小樽で「くらしたい」と思うことのできるイベントに出来たかなと思います。



済生会スクエアの整備でつどいの場を

令和6年度、日本財団から助成を受け、ウェルネスタウン構築に向け当会と連携する商業施設ウイングベイ小樽に、①ユニバーサルスポーツエリア「スポーツスクエア」、②就労支援エリア「ワークスクエア」、③重度心身障害者も利用可能な交流スペース「コミュニティスクエア」を設置しました。これまでの活動拠点「済生会ビレッジ」に加え、新たに設置された「済生会スクエア」の利用を通して、障害者をはじめとした社会的マイノリティの人々に対する認識が深まり、また、子育て世代や、高齢者の世代間交流が頻繁に行われることにより、地域社会において孤立する方々が減少することを目的とします。最終的には、ソーシャルインクルージョンの理念が社会に広く浸透し、社会的マイノリティや子育て世代、高齢者など全ての人が孤立せず、安心して仕事や生活を送ることができる地域

社会となることをゴールに活動しています。「済生会スポーツスクエア」はユニバーサルスポーツである「モルック」や「ボッチャ」のコートを整備。インストラクターも配置してさまざまな年代が汗を流しながら楽しむことで、健康増進に寄与します。「済生会ワークスクエア」は、就労継続支援事業所ぶりもばっそのサテライトオフィスとして稼働。印刷機や3Dプリンタを整備し、新たな業務を獲得することにより利用者の「仕事の幅」を拡大することに成功しました。「済生会コミュニティスクエア」は、済生会ビレッジ内に設置され、カフェスペースを整備することにより市民の憩いの場を作ることに成功しました。また、AEDや救急カートも準備し安全に利用することが出来ます。

文責 北海道済生会 支部事務局 清水 雅成



初期研修・地域研修

済生会小樽病院での研修を終えて

令和6年4月1日～令和6年4月26日
小樽市立病院 研修医 岡田 晴貴

4/1～26地域医療研修でお世話になりました。年度はじまりでお忙しいところだったと存じますが、あたたかく迎えてくださりありがとうございました。

緩和ケア内科の菊地先生、藤原さん、福森さんをはじめとした緩和ケアチームのみなさんには人生の出口について考えさせられました。刻一刻と変化する患者さんの容態、患者さんや周りのご家族の願い、社会保険や行政について、様々なことを総合して考え患者さんに還元されておりました。

私が外科系志望ということもあり、木村先生、田山先生に手技の機会をいただきました。何気なくやっていること一つ一つの意味や時間短縮のポイントを教えていただき、今後の診療に役立てたい、そう感じました。

内科の病棟回診の際に見覚えのある患者さんがいらっしゃいました。カルテを拝見すると市立病院から転院搬送された患者だということがわかり、市立病院のカルテを見ると僕が市立病院の当直帯で勉強させて頂いた方でした。少し不思議な病歴だったので、違和感があったのですが、明石先生にこの病歴ならこの疾患じゃないかと言っていただきハッとしました。自分では全く鑑別にあげておりませんでした。もっと勉強しなくてはと考えさせられました。

他院の研修医が道外や離島に行く中、車で5分のお隣の病院での地域研修でしたが大変勉強になることが多く、満足のいく4週間となりました。お世話になった皆様、ありがとうございました。

地域医療研修を終えて

令和6年6月3日～令和6年6月28日
KKR札幌医療センター 研修医 常見 一生

この度、地域医療研修として4週間貴院でお世話になりました。私は生まれも育ちも小樽で、両親ともに小樽で医師として働いているということもあり、済生会に来る前は「親と知り合いの先生に怒られないように気を付けよう…」とビクビクしていましたが、先生やスタッフの方々は非常に優しく接していただき、のびのびと研修することができました。また医局も快適で、休憩時間もリラックスして過ごすことができ非常に良い環境だと感じました。

研修内容のご配慮もあって自分が志望科として考えている泌尿器科をメインで組んでくださり、緊急手術を要する症例や癌の管理、透析の管理など様々な病態を経験できました。特に手術に関しまして、私の病院では尿路結石に対する碎石術は行っていないため、今回の研修でESWLやTULを見ることができて良い経験となりました。実際に手技をやる機会もくださり、とても実りある研修となりました。また、泌尿器科での研修と並行して、明石先生の訪問診療にご一緒させて頂きましたし、菊地先生の緩和ケア外来や回診、カンファレンスにも参加いたしました。今回の研修を通じて、済生会小樽病院の地域における立ち位置や重要性を感じ取れたのではないかと思います。ご指導いただきました先生方、スタッフの皆様に心より御礼申し上げます。特に泌尿器科の堀田先生、安達先生、吉田先生には大変感謝しております。今回の学びを糧にこれからも日々精進してまいります。

4週間の地域包括型診療参加臨床実習を終えて

令和6年6月10日～令和6年7月4日
札幌医科大学 6年 西村 悠一郎

札幌医大の実習プログラムのひとつ「地域包括型診療参加臨床実習」で4週間整形外科にてお世話になりました。実習を通して、済生会小樽病院での働き方や地元の特色、コモンな疾患、患者さんのニーズについて深く学ぶことができました。来年度からは初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院として採用が始まることや、小樽での初期研修を修了した先輩がたから充実した研修内容を聞くと、整形外科を志望している私にとって非常にメリットの多いプログラムだと感じ是非学生のうちから見学させていただきたいと思い4週間実習生としてお世話にあずかりました。皆様とてもやさしく、突然の見学でも心優しくご指導いただき改めて感謝申し上げます。ぜひ来年以降も皆様と小樽の地域医療を支えていきたいと感じました。

札幌から電車で30分と近く、病院の横には大型ショッピングモールや市場があり小樽の街はとても住みやすく海産物が大好きな私にとって魅力的な町であると感じました。このような地で一か月勉強できてとても良かったです。また来年以降も皆様とご一緒できることを切に願っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

初期臨床研修 地域研修

令和6年7月1日～令和6年7月31日
札幌医科大学附属病院 嶋 悠杜

この1か月間の研修では、主に内科で新患外来と入院管理を通じて地域におけるcommon diseaseについて学びを深めました。大学病院では診断と診療方針の見通しが立っている患者が紹介状を持って受診する 경우가ほとんどであり、基本的には入院や手術となりますが、この地域研修では一般的な疾病に対して、外来初療から入院要否の判断やその後の管理を一連の流れで経験することができました。北海道は札幌や旭川といった大学病院のある地域を離れると、人口が少なく高齢者の割合が高い地域がほとんどであり、今後北海道で働く以上このような地方での医療の在り方を理解する必要があると思います。その点では小樽という街は“都市”と“地方”の中間に位置する地域であり、昨年の道南での研修、現在の大学病院での研修と合わせて北海道の地域医療の特徴を体験することができたと思います。

また小樽は私の出身地であり、久しぶりに地元に戻ってくることができた点でもよい研修でした。慣れ親しんだ地域で非常に楽しく研修することができ、改めて地元を知る機会が得られ、良い経験だったと思います。

将来は耳鼻科医として小樽で働くことがあるかもしれませんが、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

地域医療研修の感想

令和6年10月2日～令和6年10月29日
山形済生病院 初期研修医 江畑 亜美

私は山形県の済生会山形済生病院から、地域医療研修としてこの済生会小樽病院に参りました。2年次で研修を行う地域医療施設として、岩手県の済生会岩泉病院や山形県の白鷹町立病院など複数の場所から選ぶことが出来たのですが、ひとつ上の研修医の先輩が全員小樽に行っており充実した研修であった話を聞いていることと、北海道という滅多に行けない立地に魅力を感じ、こちらの病院での研修を選択しました。

研修では、内科を中心とした入院患者さんの診療をメインに、気管挿管や中心静脈カテーテル挿入の見学、胸腔穿刺の手法を行わせていただいたほか、救急外来対応、訪問診療など多岐に渡る診療を学ぶことが出来ました。入院患者さんのカルテを拝見すると、医師だけでなく他のコメディカルの方々が患者さんひとりひとりの病態をきちんと把握し、日々変わりゆく状態に対して評価を行い、よりよい医療を提供するために努めていることに感銘を受けました。

研修の中で特に印象深かったのは、訪問診療で退院後の患者さんのお宅に伺ったことです。これまで私は入院中または来院時の患者さんの状態しか見たことが無かったのに対し、退院後どういう生活をしているのか、周りの家族や医療システムのサポートがどうなっているのか、患者さんや家族が思い描く未来と現実のすり合わせなど、患者さんに接するにあたって考えるべき多くの事柄を知ることが出来ました。この経験をしたことで、これから診療を行うにあたって病院にいるときの状態だけでなくその後や周りの環境について考えながら患者さんに向き合えるようになると感じました。

また、将来進む診療科として考えている小児科に関しても、隣接施設の「みどりの里」を見学させていただくなど、今後のためになるような貴重な経験をたくさんさせていただきました。

今回の研修を通して、地域医療の意義や医師としての役割について深く考える機会を得ました。今後も精進し、地域医療に貢献できる医師を目指していきたいと思います。最後になりますが、済生会小樽病院で関わってくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

「北海道済生会小樽病院での地域医療研修を終えて」

令和6年11月5日～令和6年11月29日
大阪府済生会富田林病院 研修医 井上 芽依

まず初めに、遠方のお大阪府から地域医療研修を受け入れてくださった、北海道済生会小樽病院の関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。ぐっと冷え込む季節に、まったく土地勘のない私を温かく迎えていただき、おかげさまで無事研修を終えることができました。

私は1か月間、泌尿器科にてお世話になりました。学生時代の実習もCOVID-19の影響で院外実習がオンラインで行われたため、ほとんど院外の現場での経験がないまま小樽に来ました。そのため、勤務が始まるまでは、「私は小樽でやっていけるのだろうか？」と不安でいっぱいでした。しかし、泌尿器科の先生方をはじめとした諸先生方、コメディカルスタッフ、事務の方々など多くの方が、私を温かく迎えてくださり、大変嬉しく思いました。

泌尿器科では、先生方が非常に気さくに接していただき、「毎日、少しずつ成長していこうね」とおっしゃっていただきました。その言葉に励まされ、臨床だけでなく、論文検索やものの考え方など、必要な多くのことを教えてくださいました。また、「小樽を楽しんでほしい」と、勤務外もよりよく過ごせるようにとアドバイスをいただき、心温まるご配慮を感じました。おかげさまで、仕事もプライベートも大変充実した1か月間を過ごすことができたと思っています。

来春からは、大阪で泌尿器科医として精進していく予定です。医師としての長い人生の中で考えると、この1か月という期間は非常に短いものですが、初期研修医として過ごしたこの時間は、医師としての基盤を築くために非常に重要なものであったと実感しています。今回縁あって来させていただいた北海道済生会小樽病院での貴重な経験を、今後の医師人生に活かしていきたいと考えています。

最後に、今回の研修で得た多くの思い出を胸に、北海道済生会小樽病院のスタッフの皆様に、重ねてにはなりますが、改めて感謝の気持ちをお伝えします。1か月という短い期間ではありましたが、本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。大阪でも、この経験を活かして頑張りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

論文発表

執筆者・共同執筆者	タイトル	掲載誌	巻・号・項	発行年月
Atsushi Sawada, MSc, RPT Kentaro Yoneta, RPT Eri Togashi, RPT Shogo Asaka, RPT Riho Tada, RD Takaaki Asada, RN Seiichi Son, PhD, MD Makoto Tayama, PhD, MD Masami Kimura, PhD, MD Satoshi Fujita, PhD	The effects of resistance exercise and leucine-enriched essential amino acid supplementation on muscle mass and physical function in post-gastrectomy patients: a pilot randomized controlled trial	The Journal of Physical Therapy Science	Vol.36, No.5: 218-225	2024年
菊地未紗子 上村 恵一 明石 浩史	高齢者入院患者に対するレンボレキサントのせん妄予防効果に関する検討	総合病院精神医学	Vol.37 No. 1	2024年 7月31日
山中 佑香 白戸 力弥 織田 崇 和田 卓郎	5指駆動型の筋電義手であるbebionicハンドを適用した片側前腕切断症例	作業療法	43(3): 393-399	2024年
白戸 力弥 山中 佑香 伊藤 大登 織田 崇 和田 卓郎	運動恐怖が橈骨遠位端骨折掌側ロッキングプレート固定術後の短期成績に与える影響	作業療法	43(4): 462-469	2024年
Ryunosuke Ishikawa Rikiya Shirato Asuka Watanabe Shinji Matsuoka Ryousaku Sugihara Kazushi Kimura	Low blood glucose and fatigue accumulation at peak hours of occupational trauma in secondary industry workers.	International Journal of occupational safety and ergonomics	14-May	2024年
白戸 力弥 五嶋 渉 山中 佑香 我彦 由樹 織田 崇 和田 卓郎	上腕骨外側上顆炎鏡視下手術後のリハビリテーションと治療成績	日本肘関節学会雑誌	31(2) 263-267	2024年 12月
五嶋 渉 白戸 力弥 織田 崇 山中 佑香 我彦 由樹 和田 卓郎	難治性上腕骨内側上顆炎鏡視下手術後のリハビリテーションと治療成績	日本肘関節学会雑誌	31(1) 263-267	2024年 12月
五嶋 渉 白戸 力弥 織田 崇 山中 佑香 和田 卓郎	重度手根管症候群に対する母指対立再建術の機能評価	日本手外科学会雑誌	41(4): 417-419	2025年 1月
齋藤 駿太 京極 真 寺岡 睦	作業との結びつきに関する評価尺度(Assessment of occupational engagement; AOE)の開発	作業療法	43(4): 489-498	2024年 8月
Katsumi Ikeuchi Shunta Saito Yusuke Kumura	Timing, setting, and content of patient education prior to goal setting for cancer survivors: a scoping review	Supportive Care in Cancer	33(1)	2024年 12月
齋藤 駿太 坂本 勇太	クライアント中心のカナダモデルを活用した終末期がん患者への作業療法ーゲーム会を通じた緩和ケアー	作業療法	44(1)	2025年 2月

著書

著者	タイトル	著書名	編者	ページ	発行年	出版社
一島妃東美	栄養関連問題を臨床推論する (低栄養)	「臨床栄養」臨時増刊号145巻4 号臨床推論ファーストブック ー知っておきたい基本概念と臨 床栄養での実践	若林 秀隆 小坂鎮太郎 小蔵 要司 西岡 心大	489-493	2024年	医歯薬出版 株式会社
菊地未紗子	骨折治療の現在地を知る！ 高齢者の周術期せん妄の診断 と治療 update	整形・災害外科 4月臨時増刊号		567-577	2024年	金原出版
菊地未紗子	プロナセリン貼付剤・アセ ナビン舌下錠(治療薬解説)	Current therapy vol.42 No.10		69-73	2024年	(株)ライフ メディコム
菊地未紗子	緩和ケア・精神科リエゾンに おける抗精神病薬の遣い方の コツ	心身医学 Japanese Journal of Psychosomatic Medicine(Yokyo)		213-219	2025年	
織田 崇	テニス肘	アスレティックトレーナー専門 基礎科目テキスト3 スポーツ医学概論	片寄正樹他	93	2024年	文光堂
織田 崇	上腕骨外側上顆炎に対する鏡 視下手術	新OS NEXUS No.12	今井晋二他	84-91	2024年	メジカル ビュー社
(原著) 井澤 朋大 織田 崇 濱田 修人 高橋 克典 和田 卓郎 寺本 篤史	両側上腕骨小頭に離断性骨軟 骨を発症した両投げ 野球選手の1例	整・災外		68巻 91-96	2025年	
(原著) 竹中 理紗 織田 崇 濱田 修人 高橋 克典 和田 卓郎 寺本 篤史	橈骨遠位端骨折を合併した第 4・5中手骨頸部 骨折に対し逆行性髄内スク リュー固定を行った1例	整・災外		67巻 1587- 1590	2024年	
(原著) 大嶋 崇史 藤本秀太郎 寺本 篤史 織田 崇 近藤 真章 和田 卓郎	観血的整復が必要な足関節後 果骨折の特徴	整・災外		1099- 1103	2024年	
(原著) 白戸 力弥 山中 佑香 伊藤 大登 織田 崇 和田 卓郎	運動恐怖が橈骨遠位端骨折掌 側ロッキングプレート固定術 後の短期成績に与える影響	作業療法		43巻 462-469	2024年	
(原著) 近藤 弘基 織田 崇 和田 卓郎	WALANTの経済的有用性 ー社会の観点と医療機関の観 点からの検討ー	日手会誌		40巻 797-800	2024年	
(原著) 近藤 弘基 織田 崇 藤本秀太郎	大腿骨転子部骨折における後 外側骨折の存在は術後の歩行 能力に影響するか	骨折		46巻 458-461	2024年	
(原著) 山中 佑香 白戸 力弥 織田 崇 和田 卓郎	5指駆動型の筋電義手である bebionicハンドを 適用した片側前腕切断症例	作業療法		43巻 393-398	2024年	
(総説) 織田 崇	上腕骨内側上顆炎に対する鏡 視下手術	関節外科		43巻 872-876	2024年	

学会・研究発表

部署名 (発表者)	演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月 日	場所(市町村)
緩和ケアチーム (地域連携課)	死後事務決定とプロセスでの医療相談員の関わりの一事例	福森 星輔	明石 浩史 菊地未紗子 藤原 大地	第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会	2024年 6月15日	兵庫県 神戸市
地域連携 連携	終末期における全人的苦痛緩和ケアにおける医療ソーシャルワーカーが対応した1事例	福森 星輔		第67回北海道医療ソーシャルワーク学会	2024年 10月5日	北海道 帯広市
リハビリテーション 室	大腿骨近位部骨折術後患者へのTimed Up & Go Testの有用性と限界	河原 健太	山中 佑香 菅原 良介 吉武れおね 三浦正晃 武田 康弘 藤 駿太 我彦 由樹 阿部 将也 平塚 渉 髙内 紀幸 藤本 秀太朗 織田 崇 和田 卓郎	第143回北海道整形災害外科学会	2024年 6月8日	北海道 旭川市
リハビリテーション 室(大泉忍)	脳梗塞により失語症を呈した若年患者へのリハビリ介入と退院支援について	大泉 忍		第77回済生会学会	2025年 2月16日	愛媛県 松山市
栄養管理 室	冠動脈バイパス術患者における栄養評価とリハビリテーション効果の関連	一島妃東美	若林 秀隆 百崎 良	第40回日本栄養治療学会学術集会	2025年 2月15日	神奈川県 横浜市
栄養管理 室	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士業務拡大による栄養摂取状況及び介入頻度の変化について	西澤 一步	一島妃東美 笠井 一憲 中山 祐子 安達 秀樹	第40回日本栄養治療学会学術集会	2025年 2月15日	神奈川県 横浜市
臨床検査 室	令和6年度北臨技コントロールサーベイ報告	岡本 晃光	なし	小樽地区ワークショップin小樽 北臨技サーベイ報告 他	2025年 2月1日	北海道 小樽市
診療部	著名な高CK血症を呈したギラン・バレー症候群の1例	藤倉 舞	田中 聡泰 平野理都子 松谷 学 林 貴士 久原 真	第115回日本神経学会 北海道地方会	2025年 3月1日	北海道札幌市 ハイブリッド開催
薬剤室	急性腎障害から高アンモニア血症となった一症例	一野 勇太	小野 徹 上野 誠子	第18回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2024	2024年 9月7日	北海道 札幌市
薬剤室	下剤の使用状況調査	笠井 一憲		後志病院薬剤師会	2025年 2月24日	北海道 小樽市
薬剤室	DPP-4阻害薬を長期間服用後、造影剤使用が契機と思われる水疱性類天疱瘡を発症した1例	青木有希子	村川麻里子 早川恵美子 三浦富美彦 城田 祐輔 舩岡紗也香 權城 泉 岡本 晃光 水越 常德	第30回全国済生会糖尿病セミナー	2024年 8月17日	熊本県 熊本市
薬剤室	DPP-4阻害薬を長期間服用後、造影剤使用が契機と思われる水疱性類天疱瘡を発症した1例	青木有希子	村川麻里子 早川恵美子 三浦富美彦 城田 祐輔 舩岡紗也香 權城 泉 岡本 晃光 水越 常德	第12回日本くすり糖尿病学会学術集会	2024年 10月6日	宮城県 仙台市
薬剤室	当院におけるオピオイド誘発性便秘に対するナルデメジン単独投与の有用性	鈴木 景就	村川麻里子 藤原 大地 菊地未紗子 明石 浩史	第17回日本緩和医療薬学会年会	2024年 5月26日	東京都
リハビリテーション センター 手・肘	橈骨遠位端骨折患者に対しデマンドに着目した作業療法プログラムを実施した一症例	杉下 智香	五嶋 渉 山中 佑香 高橋 靖明 須貝 隆旗 白戸 力弥	第54回北海道作業療法学会,北海道ハンドセラピー研究会SIG	2024年 6月23日	北海道 千歳市

部署名 (発表者)	演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月 日	場所(市町村)
肘 センター リハビ リテー ション 室／手 ・	屈筋腱断裂および骨折を伴う外傷 症例	高橋 靖明	山中 佑香 五嶋 渉 杉下 智香 白戸 力弥	第176回北海道 ハンドセラピ 研究会 症例検討 会	2024年 5月14日	北海道 札幌市／ オンライン
肘 センター リハビ リテー ション 室／手 ・	前腕筋電義手制御に必要な前腕筋 群の同時収縮法の検討ー健常者に 対する表面筋電計を用いた実験研 究ー	白戸 力弥	山中 佑香 小松 柚楽 真田 兼臣 千石 優里	第36回日本ハン ドセラピ学会 学術集会	2024年 4月	奈良県
肘 センター リハビ リテー ション 室／手 ・	ROC曲線による特発性手根管症候 群術後の満足度と感覚評価との関 連の検討	山中 佑香	瀧山 晃弘 織田 崇 白戸 力弥 五嶋 渉 和田 卓郎	第67回日本手外 科学会学術集会	2024年 4月	奈良県
肘 センター リハビ リテー ション 室／手 ・	重度手根管症候群に対する母指対 立再建術の効果ー管理上肢機能検 査STEFを用いた定量的検討ー	五嶋 渉	白戸 力弥 山中 佑香 織田 崇 和田 卓郎	第67回日本手外 科学会学術集会	2024年 4月	奈良県
肘 センター リハビ リテー ション 室／手 ・	最新の多指駆動型筋電電動義手 bebionicを使用した前腕切断の 一症例	山中 佑香	白戸 力弥 五嶋 渉 河村 結 高橋 靖明 我彦 由樹 明 崇 和田 卓郎	第143回北海道 整形災害外科学 会	2024年 6月	北海道 旭川市
肘 センター リハビ リテー ション 室／手 ・	音楽家へのリハビリテーション	白戸 力弥	音楽家へのリハビリテ ーション	第10回日本舞台 医学会学術集会 シンポジウム	2024年 6月15日	北海道 札幌市
肘 センター リハビ リテー ション 室／手 ・	前腕筋電義手制御に用いる手関節 伸筋と屈筋の同時収縮法の検討 - 健常者に対する表面筋電計を用 いた解析 -	真田 兼臣	小松 柚楽 千石 優里 白戸 力弥	第54回北海道作 業療法学会学術 大会	2024年 6月22日	北海道 千歳市
ン 室／作 業療 法課 リハビ リテー ショ ン	ICTを活用した地域リハビリテ ーションの一例	三野宮裕樹	山中 佑香 林 知代	第54回北海道作 業療法学会学術大 会(メイクデビュー セッション)	2024年 6月22日	北海道 千歳市
肘 センター リハビ リテー ション 室／手 ・	自動車運転のステアリング操作に おける利き手・非利き手の貢献度 の比較	白戸 力弥		北海道ハンドセ ラピ研究会	2024年 9月11日	オンライン
ン 室／作 業療 法課 リハビ リテー ショ ン	Comparison of outcome between dominant and non- dominant hand after arthroscopic surgery for lateral epicondylitis	Yui Kawamura	Yuki Wabiko Rikiya Shirato Wataru Goshima Yuka Yamanaka Yasuaki Takahashi Takashi Oda Takuro Wada	第8回アジア太 平洋作業療法学 会／第58回日本 作業療法学会	2024年 11月6日	北海道 札幌市
業 療 法 課 リハビ リテー ション 室／作 業	Investigation of trends in overseas and japan sleep research in the field of occupational therapy: A scoping review.	Shunta Saito	後呂 智成 長井健太郎 箕輪 和広 浜岸 佳介 宇都宮裕人	第8回アジア太 平洋作業療法学 会／第58回日本 作業療法学会	2024年 11月8日	北海道 札幌市
放 射 線 室	海綿骨構造指標 TBS の臨床的有 用性の検討	釜石 明		令和6年度一般 社団法人 北海道 放射線技師会研 修会(小樽後志放 射線技師会秋季 研究発表会)(第 436回研修会)	2024年 11月9日	北海道 小樽市

部署名 (発表者)	演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月 日	場所(市町村)
リハビリテーション 作業療法課 シオン室／作	Outpatient rehabilitation intervention in our palliative care medicine department.	Tomoyo Hayashi	Misako Kikuchi Yuka Yamanaka Kentaro Yoneta Jyunki Kaga Hirofumi Akashi	第8回アジア太平洋作業療学会／第58回日本作業療学会	2024年 11月6日	北海道 札幌市
リハビリテーション 作業療法課 シオン室／作	Efficacy of serial static splinting for limitation of elbow flexion after surgery for trauma around the elbow	Yuka Yamanaka	Rikiya Shirato Wataru Goshima Yui Kawamura Yasuaki Takahashi Yuki Wabiko Takashi Oda Takuro Wada	第8回アジア太平洋作業療学会／第58回日本作業療学会	2024年 11月6日	北海道 札幌市
リハビリテーション 作業療法課 シオン室／作	Comparison of the contributions of the dominant and non-dominant hands in steering wheel operation when driving a car: an experimental study using high-sensitivity capacitance pressure sensors	Rikiya Shirato	Shizuki Kishimoto Ryuki Sugai Ryu Yokouchi Yuka Yamanaka	第8回アジア太平洋作業療学会／第58回日本作業療学会	2024年 11月6日	北海道 札幌市
リハビリテーション 作業療法課 シオン室／作	橈骨遠位端骨折掌側ロッキングプレート固定術後患者の安全な自動車ステアリング操作はいつから可能か	白戸 力弥	五嶋 渉 河村 結 高橋 靖明 山中 佑香	第8回アジア太平洋作業療学会／第58回日本作業療学会	2024年 11月9日	北海道 札幌市
リハビリテーション 作業療法課 シオン室／作	システムティックレビューの知見に基づいた地域在住がん経験者に対する作業療法実践から入院がん作業療法のヒントを考える	林 知代	池内 克馬	第8回アジア太平洋作業療学会／第58回日本作業療学会	2024年 11月9日	北海道 札幌市
リハビリテーション 作業療法課 シオン室／作	作業との結びつきを意識した支援をしたことが病棟ADLの拡大と今後の生活の認識に至った一例	小柴 歩美	齋藤 駿太	第32回日本慢性期医療学会第12回慢性期リハビリテーション学会	2024年 11月14日	神奈川県 横浜市
リハビリテーション 作業療法課 シオン室／作	自宅退院に拘る繰り返しの転倒歴のある患者に対して「作業に根差した実践2.0」を用いたことで納得した有料老人ホームへの退院に繋がった事例	宇都宮裕人	齋藤 駿太	第6回神奈川県臨床作業療法大会	2024年 12月8日	神奈川県 横浜市
リハビリテーション 作業療法課 シオン室／作	作業療法士との目標の相違がある事例に対しての作業との結び付きの視点を用いた作業療法実践	浅井 雪乃	齋藤 駿太	第6回神奈川県臨床作業療法大会	2024年 12月8日	神奈川県 横浜市
リハビリテーション 作業療法課 シオン室／作	作業遂行との結び付きのカナダモデル(CMOP-E)を用いて主婦としての意味ある作業の再開を支援した事例	太田優太郎	齋藤 駿太	湘南OTWEB学会	2024年 2月1日	WEB
リハビリテーション シオン室	当院回復期病棟における転倒転落防止に関する取り組み	三野宮裕樹	室矢 康治	回復期リハビリテーション病棟協会第45回研究大会	2025年 2月21-22日	北海道 札幌市
リハビリテーション 手・肘・肩 ター室／手・肘・肩	楽器演奏における手指独立運動障害とLinburg-Comstock anomaly	白戸 力弥		第39回東日本手外科研究会	2025年 2月22日	北海道 札幌市

講 義（大学・専門学校他）

講師	講義テーマ	講義名	講義先	年月日	場所
本間美穂子	透析看護	成人看護学Ⅳ	小樽看護専門学校 2年生	2024年12月12日	北海道 小樽市
林 貴士	必修クリニカルクラークシップ 選択クリニカルクラークシップ	作業療法学	北海道文教大学	2024年11月8日 11月15日 11月22日 11月29日 12月6日	北海道 恵庭市
小野寺耕一	放射線診断学	中枢神経・頭頸部	札幌医科大学医学部 医学科	2024年4月23日	北海道 札幌市
松谷 学	症候診断学	けいれん・不随意運動について	札幌医科大学医学部 医学科	2024年6月19日	北海道 札幌市
松谷 学	作業療法学・理学療法学	内科学・呼吸器疾患	北海道文教大学	2024年10月7日 10月21日 10月28日	北海道 恵庭市
明石 浩史	医療情報と標準化	応用医療情報学	札幌医科大学医学部 医学科	2024年4月23日	北海道 札幌市
明石 浩史		作業療法学・理学療法学	北海道文教大学	2024年7月2日 7月9日	北海道 恵庭市
水越 常德		作業療法学・理学療法学	北海道文教大学	2024年5月23日 6月13日 7月11日	北海道 恵庭市
永洞 明典		内科学	北海道文教大学	2024年4月18日 4月25日	北海道 恵庭市
織田 崇	作業療法治療学特論 手の外科療法と画像診断	リハビリテーション学	日本医療大学	2024年6月21日	北海道 札幌市
笠井 一憲	（薬価）経腸栄養剤について	臨床栄養学実習	北海道文教大学	2024年10月24日	北海道 小樽市
笠井 一憲	静脈栄養について	臨床栄養学実習	北海道文教大学	2024年10月24日	北海道 小樽市
山中 佑香	緩和ケアにおける作業療法	身体障害作業療法治療学 （運動器・内部障害系）	日本医療大学	2024年7月4日	北海道 札幌市
齋藤 駿太	日常生活活動学演習	身体障害領域	医学技術福祉歯科 専門学校	2024年9月	北海道 札幌市
山岸 裕太	日常生活活動学演習	脳血管障害、脊髄損傷	医学技術福祉歯科 専門学校	2024年9月	北海道 札幌市
齋藤 駿太	がんに対する作業療法：作業に根差した実践から	新人研修	北海道作業療法士会	2024年	オンラ イン

講演

演者	演題	講演会名	主催者	年月日	場所
木村 雅美	1 総胆管結石の治療-外科治療と内視鏡治療 2 胆管切開法のKnack & Pitfall	腹腔鏡下総胆管結石除去術ハンズオンセミナー	北海道内視鏡外科研究会	2024年 9月21日	北海道 札幌市
木村 雅美	(腹腔鏡下胆管切開結石手術の胆管結石モデルを用いた実技指導)	腹腔鏡下総胆管結石除去術ハンズオンセミナー	北海道内視鏡外科研究会	2024年 9月21日	北海道 札幌市
堀田 浩貴	高齢OAB診療におけるβ3作動薬と抗コリン剤の位置づけ	北海道臨床泌尿器科医会学術講演会		2024年 9月6日	北海道 帯広市
菊地未紗子	総合病院 精神科新設における実践～高齢者の不眠・せん妄のリスク予防対策～	令和6年度全国済生会病院薬剤師会研修会	済生会	2024年 7月6日	大阪府 大阪市
菊地未紗子	ワークショップ1 緩和ケア 精神科リエゾンチームに役立つ向精神薬使い方のコツ WS1-1 緩和ケア 精神科リエゾンにおける抗精神病薬の使い方のコツ	第65回日本心身医学会総会ならびに学術講演会	日本心身医学会	2024年 5月29日	東京都
菊地未紗子	総合病院 精神科新設における実勢～高齢者の不眠 せん妄リスク予防対策とACPの実際～	不眠治療セミナー in いわき	福島県病院薬剤師会 いわき支部	2024年 8月27日	福島県 いわき市
菊地未紗子	コミュニケーション	緩和ケア研修会	勤医協中央病院	2024年 10月19日	北海道 札幌市
菊地未紗子	コミュニケーション	緩和ケア研修会	手稲溪仁会病院	2024年 11月9日	北海道 札幌市
菊地未紗子	コミュニケーション	緩和ケア研修会	斗南病院	2025年 1月25日	北海道 札幌市
菊地未紗子	事例相談	地域緩和ケア研修会 @北海道キックオフ ミーティング	筑波大学医学医療系 緩和医療学講座	2025年 1月17日	
菊地未紗子	総合病院精神科・緩和ケア新設における実践～高齢者の不眠・せん妄のリスク予防対策とACPの実際～	第2回目赤多職種連携セミナー in 東海	日本赤十字 愛知医療センター 名古屋第一病院	2025年 1月30日	
菊地未紗子	総合病院精神科・緩和ケア新設における実践～高齢者の不眠・せん妄のリスク予防対策とACPの実際～	函館不眠症診療セミナー	日本医師会生涯教育講座	2025年 2月3日	北海道 函館市
菊地未紗子	緩和ケアにおける精神・心身医学の役割～精神科医の立場から～	日本心身医学会北海道支部第34回教育講習会	日本心身医学会北海道支部	2025年 2月16日	
中村 圭介	二次性骨折予防継続管理料に関して～ケアミックス病院の立場から～	小樽・後志骨粗しょう症サポートネットワーク	アステラス製薬株式会社 ／アムジェン株式会社	2025年 1月23日	グランドパーク 小樽5階「海」
山中 佑香	個別性の尊重に対して柔軟に考える 新たな緩和ケアのリハビリテーションの挑戦	第6回日本緩和医療学会北海道支部学術大会	日本緩和ケア学会北海道支部	2024年 8月31日	北海道 札幌市
山中 佑香	筋電義手の臨床での現状と展望	第10回日本重度四肢外傷シンポジウム(特別セッション)	日本重度四肢外傷シンポジウム	2024年 11月	福島県
林 知代	緩和ケアの外来リハとACP	私の街の緩和ケア	第一三共株式会社	2025年 2月28日	北海道 小樽市

座 長

座長	学会・講演名	座長を行った演題	主催者	年月日	場所
菊地未紗子	緩和ケア勉強会in小樽		済生会小樽病院	2024年 9月6日	北海道 小樽市
菊地未紗子	第2回北海道痛みを緩和する研究会	1.斗南病院緩和ケアチームの活動とオピオイド処方状況 2.市立札幌病院における非がん性疼痛への鎮痛薬使用の実態	北海道痛みを緩和する研究会	2024年 11月9日	北海道 札幌市
岡本 晃光	小樽地区会員研究発表会	<i>Actinotignum shaalii</i> による尿路感染症の一例	小樽地区臨床衛生検査技師会	2024年 11月26日	北海道 小樽市
岡本 晃光	小樽地区会員研究発表会	症例から考える血液培養のサブカルチャー～複数菌種が検出された1例～	小樽地区臨床衛生検査技師会	2024年 11月26日	北海道 小樽市
中村 圭介	第2回小樽市医歯薬連携の会～共に診るBone Healthと医歯薬連携～	骨粗鬆症治療と多職種連携の重要性～医歯薬連携で防ぐ二次骨折～	第一三共株式会社／小樽市医師会／小樽市歯科医師会	2024年 7月4日	小樽経済センター 7階・ホールA
中村 圭介	小樽後志 骨粗鬆症を考える会	①多職種連携を中心としたFLS活動-チャンピオンドクター不在の当院での取り組み- ②コメディカル中心で進めるFLSについて ③転倒予防に向けた当院リハビリテーション科での第一法 ④診療放射線技師による骨折リエゾンサービス～骨粗鬆症の画像検査・検査数増加に向けた取り組み～	旭化成ファーマ株式会社	2024年 11月15日	小樽経済センター 4階ホール
鈴木 景就	後志病院薬剤師会学術講演会	バイオシミラー導入の実際と課題 薬剤師がバイオシミラーを理解する事の意義	後志病院薬剤師会	2024年 9月27日	北海道 札幌市
鈴木 景就	後志病院薬剤師会学術講演会	がん疼痛に対する鎮痛薬のうまい使い方	後志病院薬剤師会	2025年 3月13日	北海道 札幌市
白戸 力弥	第36回日本ハンドセラピィ学会学術集会	一般演題(口述)	日本ハンドセラピィ学会	2024年 4月27-28日	奈良県
白戸 力弥	第11回IMSリハビリテーション学会	育成演題(ADL)		2024年 8月31日	オンライン

認定資格

名前	認定学会名	認定資格	取得日
平野理都子	日本認知症学会	専門医	2024年4月1日
平野理都子	日本内科学会	総合内科専門医	2024年11月
藤原 大地	日本看護協会	緩和ケア認定看護師	
福森 星輔	国立研究開発法人国立がん研究センター	がん相談支援センター相談員(3)	2024年9月26日
佐藤かりん	日本栄養治療学会	NST専門療法士	2025年2月13日
一島妃東美	日本病態栄養学会	がん病態栄養専門管理栄養士	2025年2月
小路 璃沙	日本医療教育財団	ドクターズクラーク	2024年6月21日
荒木絵理奈	日本医療教育財団	ドクターズクラーク	2024年6月21日

V 職員福利厚生会

■ 総 括

【総 括】

当会は職員の福利厚生増進と職員相互の親睦を図ることを目的に平成15年4月に設立されました。毎年恒例でありますおたる潮まつりでのねりこみ参加や新人歓迎会、忘年会行事、クラブ活動の運営補助などを行っております。また、病院の特徴を生かした職員の医療費の補助も行います。ほかに令和6年度は、済生会福島県支部にて開催された済生会親善ソフトボール大会にチーム参加。惜しくも山形に次ぐ2位となりました。クラブ活動としては野球部、釣り部、自転車・陸上競技部があり、大会への出場、大海原でダイナミックな釣りをを行うなど、ワークライフバランスの一助を担っております。



新人歓迎会



ソフトボール大会



忘年会

【令和6年度実施行事】

6月16日(日) おたる運河ロードレース

参加人数： 7名

6月28日(金) 新人歓迎会

参加人数：173名

7月27日(土) おたる潮まつりねりこみ

参加人数： 88名

9月23日(月) 済生会ソフトボール大会(福島県)

参加人数： 17名

12月19日(木) 忘年会

参加人数：317名

【クラブ活動】

●野球部 夏季・秋季朝野球大会他

●釣り部 小樽周辺・積丹沖などでの釣り他

●自転車・陸上競技部

RedBull400

ニセコHANAZONOヒルクライム他

文責 職員福利厚生会総務理事 清水 雅成



潮ねりこみ



部 活 動

野 球 部

【メンバー】

看護師	1名
臨床工学技士	1名
理学療法士	12名
言語聴覚士	1名

【活動内容・報告・成績等】

春季大会 優勝！！

5月15日公式戦（ボンバーズ）	7-4負け
6月 6日公式戦（さとしーズ）	4-7勝ち
6月18日公式戦（オールドルーキーズ）	4-2勝ち
6月26日公式戦（ユニティーズ）	0-6勝ち
6月29日公式戦（野人）	5-12勝ち
7月 6日公式戦（市友小樽）	1-4勝ち

秋季大会

8月 4日公式戦（レイバンス）	9-3勝ち
8月10日公式戦（オールドルーキーズ）	3-4負け
9月12日公式戦（野人）	2-3負け

【野球部よりひとこと】

今年度は春季大会、秋季大会に参加しました。結果は春季大会優勝し、昨年の秋季大会から2季連続で優勝することができました。秋は残念ながら負けてしまいましたが、来年度は新人も加入予定で全勝を目標に掲げ取り組んでいきたいと考えています。これからもenjoy baseballをモットーに楽しく仲の良いチームを続けていきたいです。今後も応援よろしくお願いします。

文責 リハビリテーション室 中田 和希



祝勝会

釣 り 部

【メンバー】

リハビリテーション室 15名
地域連携室 P 1名 (計16名)

【活動内容・報告・成績等】

令和6年

・4.1～6.30	小樽港	イカ釣り	4名
・4.1～6.1	積丹	サクラマス釣り	2名
・5.10～7.15	小樽～豊浦	ヒラメ釣り	2名
・5.20	函館	釣り大会	1名
・6.8	岩内	ヒラメ釣り	1名
・6.18	森町	釣り大会	2名
・7.5～8.30	小樽港	ハゼ釣り	4名
・8.7	積丹沖	マグロ釣り	2名
・9.7	小樽港	釣り接待	1名
・9.14～17	枝幸～稚内	サケ釣り	1名
・9～11	小樽周辺	サケ釣り	2名
・10～12	小樽港	マメイカ釣り	8名
・10.18	積丹沖	ブリ釣り	2名
・11.12	積丹沖	ブリ釣り	2名

令和7年

・2.9-10	恵山沖	サクラマス釣り	1名
・3.8-9	恵山沖	サクラマス釣り	2名
・3.24	積丹沖	サクラマス釣り	2名
・3.28	積丹	サクラマス釣り	1名

部員の小島さやかさんが2020年1月より、週刊釣り新聞ほっかいどう「つりしん」にて“tsurikatsu”というページで、月1回の執筆をしていましたが、2024年いっぱいでは終了。

【釣り部よりひとこと】

今年度は釣り部で遊漁船を2回チャーターしてデカソイ釣りを楽しむことができました。初めて釣れるビッグフィッシュに、参加した一同が魚の引きの強さに魅了されていました。船中130本程度釣れましたが、ほぼすべてキャッチ＆リリースしました。

また釣り雑誌North Anglers6月号に春のデカソイ釣りの取材釣行を小島夫婦で掲載して頂くことができました。さらに9月の共生フェスで本部からいらした河内さんをサケ釣りに案内しました。残念ながら釣ることはできませんでしたが、ヒットすることはでき、小樽のサケ釣りの雰囲気と難しさを味わって頂くことができました。釣り接待の依頼も受け付けておりますので、早めにお知らせください。

釣り部フードバンクは好評で、サケ、マス、ヒラメ、ブリ、イカなど、そのときの良いものを欲しいと言ってくれる職員さんに提供できました。部活として、職員の皆様に還元していけるよう来年度も活動していきます。今年もマグロは不調だったため釣ることができませんでしたが、来年はマグロパーティーできるように頑張っ釣りあげたいと思います。

文責 リハビリテーション室 小島 希望



自転車・陸上競技部

【メンバー】

理学療法士	5名
作業療法士	2名
ケアマネージャー	1名

【活動内容・報告・成績等】

4月21日	春一番伊達ハーフマラソン	2名出場	完走
5月12日	ノーザンホースパークマラソン2024	1名出場	完走
5月18日	Red Bull 400 一般男子部門	2名出場	完走
5月19日	洞爺湖マラソン	3名出場	完走
6月16日	ニセコクラシック 一般男子部門	1名出場	完走
8月4日	ニセコHANAZONOヒルクライム	3名出場	完走
8月18日	美幌デュアスロン	1名出場	完走
8月25日	北海道マラソン	4名出場	完走
9月1日	そらちグルメフォンド	2名出場	完走
10月6日	札幌マラソン	3名出場	完走
3月30日	ふくい桜マラソン	1名出場	完走

【自転車・陸上競技部よりひとこと】

今年度はラン競技を中心に昨年度よりも参加出場イベントが増える状況となりました。競技部員の働きかけにより、部外のスタッフも健康増進のためランニング等で出退勤されるケースも増えております。

来年度は個々人への運動推進だけでなく、表彰や個人記録の更新などを目標に取り組んでいきます。

文責 リハビリテーション室 神田 充博



院内保育所「なでしこキッズクラブ」

職員の福利厚生の一環とし、子育て支援の充実を図っています。内装並びに備品等も子どもたちの安全面を配慮した施設になっています。一時保育も柔軟に対応でき、安心して働きやすい環境づくりに努めています。

所 長 和田 卓郎（病院長）
スタッフ 10名（保育士5名 保育補助5名）
保育所面積 222.64㎡
定 員 40名
保育対象年齢 0歳～小学校就学前
開所時間 8時～19時（月～金曜日、第2土曜日（祝日・病院休日を除く））

【年間行事実績】

6月 交通安全教室
8月 夏祭り・収穫祭
11月 ハロウィン
12月 クリスマス会
1月 お楽しみ発表会
2月 豆まき
3月 お別れ・進級おめでとう会
☆お誕生会、避難訓練、身体測定を毎月実施

【今後の目標】

保育目標「いっぱい遊んですくすく育て～心もからだもたくましく育ちあう子ども」を心がけ、子どもたちが怪我なく元気に笑顔で過ごせるように心がけていきます。



新しいチャレンジ

保育士 梶 ひろみ

院内保育所「なでしこキッズクラブ」では、0歳から6歳までの子どもたちが、毎日元気いっぱいに過ごしています。季節ごとの行事や遊びを楽しみながら、その時の子どもたちの姿に合わせて日々の過ごし方を工夫しています。

今年は病院敷地内の畑「そらし〜ど」で、じゃがいもの収穫のお手伝いをして、コロケにして食べました。とても美味しかったです。

年齢に合わせた遊びや活動を通して、「友だちと遊ぶ楽しさ」「やってみたい!という気持ち」「できた!楽しかった!」という喜び大切にしながら、子どもたちの【育ちの土台】を育てています。

そして今年度から、北海道済生会で受け入れしている「保育園留学」のお子様をお預かりする取り組みを

始めました。日本全国からの応募により、ご家族で1週間程度小樽に滞在。お子様は、午前中は「発達支援事業所きつずてらす」、お昼ご飯から午後の時間を「なでしこキッズクラブ」で過ごすプログラムです。不安もありましたが、子どもたちはすぐ仲良くなり一緒に遊ぶ姿がみられました。

また、保育所ICTシステム『コドモン』を導入しました。アプリを通じて登降園の記録や連絡帳、お知らせなどをお届けできるようになり、保護者の方と保育所のやりとりがとても便利でスムーズになりました。保護者からも、毎日保育所での写真や様子を配信してくれるのでうれしいとの声をいただいています。

子どもたちが毎日安心してのびのびと過ごせるように、一人ひとりにあった環境づくりや寄り添った保育を心がけています。

これからも、子どもたちの笑顔あふれる保育を目指して、保護者の皆さまと一緒に歩んでいきたいと思っています。



15年ぶりの出産・育児

総務課 川畑 有香

育休を1ヶ月ほどいただき、息子の首がすわってからすぐ、なでしこキッズクラブを利用させていただいています。

生後3ヶ月という、まだ小さな息子を預けることに、不安がなかったと言えは嘘になります。しかし、温かく迎え入れてくださった保育士の皆様の笑顔と、きめ細やかなサポートのおかげで、私は安心して仕事に向かうことができました。

朝、眠い目をこすりながら登園する息子を、いつも優しく抱きしめてくださる先生方。日中、私の代わりに息子の成長を見守り、小さな「できた!」を共に喜んでくださる姿に、どれほど感謝しているか分かりません。初めて寝返りができた日、離乳食を食べた日、そして初めて歩いた日。その一つ一つを、先生方は丁寧に教えてくださり、まるで自分の子どものように愛情を注いでくれているのが伝わってきました。

特に、体調を崩しやすい時期には、細やかな連絡と的確な対応で、私の不安を和らげていただきました。仕事に「大丈夫かな」と心配になることもあります

が、先生方が息子の小さな変化にも気づき、迅速に対応してくださるおかげで、私は目の前の業務に集中することができました。息子が保育所で過ごす時間は、単に預かってもらっている時間ではなく、先生方との温かい交流の中で、心身ともに健やかに成長していく大切な時間なのだと実感しています。

働く母親として、仕事と育児の両立は、決して楽な道ではありません。ましてや、夫が単身赴任で不在の中、私は大学生、高校生、乳幼児の息子たちの母として、日々奮闘する毎日です。

夜泣き対応から朝のお弁当作り、それぞれの送迎など、出産前と変わらない日々を提供するよう心掛けていた私にとって、分単位のタスク消費は意地と根性そのものでした。

ただ、そんな大変な日々ですが、そんな毎日だからこそ！充実した毎日を送れていると思っています。

これからも、私は病院の一員として、精一杯職務に励んでまいります。そして、息子が保育所で得たたくさんの経験と学びを胸に、彼と共に成長していく母親でありたいと願っています。

先生方、いつも本当にありがとうございます。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。



①入園当初（4ヶ月ころ）



②1歳

私たちの成長、そして感謝。

看護部 小野 慧佳

私には、現在2歳3ヶ月になる男の子がいます。

私にとって初めての子供であり、初めての育児。そんな中での仕事復帰には、不安が沢山ありました。育休中に忘れてしまったことも多く、「仕事にちゃんと戻れるだろうか」「家事と育児の両立なんてできるのだろうか」と不安でいっぱいでした。

初めての保育園。慣らし保育の時から泣くことなく元気に通ってくれた息子の姿は、そんな私の不安を和らげる大きな救いでした。ただ、実際には仕事と家事・育児の両立は想像以上に大変で、仕事の日には寝かしつけのつもりが一緒に寝落ちしてしまう日々…。残業で主人にお迎えをお願いすることもあり、帰宅すると息子はすでに眠っている、そんな日もありました。

「私は何のために働いているんだろう」「こんなに小さいのに、寂しい思いをしているんじゃないか」そんなふうに自分を責めてしまうこともありました。

でも、保育園の連絡ノートから見える息子の姿に、何度も救われました。お友達の名前や「先生」という言葉が息子の口から出てきたり、保育園で覚えてきたお歌やダンスを楽しそうに披露してくれる姿を見るた

びに、「息子はここで、楽しく過ごせているんだな」と感じ、安心できるようになりました。

今年に入り、連絡ノートはアプリへ移行されました。先生方が撮ってくれる日々の写真には、笑顔で遊ぶ姿、スヤスヤ眠る寝顔、美味しそうにお弁当を頬張る様子など、保育園での様々な姿が写っていて、見えない時間の成長を感じることができるようになりました。

沢山の子供たちを見守りながら、保護者にまでこんなに大きな安心を届けて下さる先生方には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、私はもうすぐ済生会病院を退職します。息子がなでしこキッズクラブに通える日々も、残りわずかとなりました。私にとって初めての職場、息子にとって初めての保育園。ここは親子揃って沢山の成長をさせてもらえた、かけがえのない場所になりました。

この先、息子は幼稚園、小学校と進み、沢山の人の出会いを重ねていくでしょう。その最初のステージとして、なでしこキッズクラブに通えたこと、温かい先生方やお友達に出会えたことは、きっと息子にとって大切な財産になると思います。

関わってくださった全ての皆様に、心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

登園の様子



登園初日。保育園の看板前でパシャリ。



1年経って、仲の良いお友達もでき、一緒に登園(*^_^*)

売店・食堂

ハマナスクラブ

病院棟 1階

営業時間

月～金： 8：00～16：00

土日祝： 8：00～13：30

食料品、日用雑貨、医療用品、その他季節限定商品など幅広く品揃えております。ハマナスクラブはセイコーマートの系列ですので、店内にはセイコーマート商品も陳列されています。



職員食堂

管理棟2階

営業時間 月～金曜日 11：00～14：00

全42席（コロナの為間引き）

管理棟2階にある職員食堂では、日替わりランチから麺類、カレーなどリーズナブルなメニューをとり揃えており、定期的を開催するイベント食は、いつも完売します。

文責 経理課用度購買グループ 木村 卓司



あ と が き

2024年度済生会小樽病院年報をお届けするにあたり、日頃より当院の運営にご理解とご協力を賜っております皆さまに、心より御礼申し上げます。

本年度も、地域の皆さまの健康と安心を守るべく、職員一同が一丸となり多岐にわたる病院運営に取り組みを進めてまいりました。新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着きを見せる一方で、医療を取り巻く環境は依然として厳しく、柔軟かつ持続可能な体制づくりが求められています。

そのような中でも、患者さん一人ひとりに寄り添う医療の実現を目指し、日々の診療に真摯に向き合う地域の医療関係職員の姿勢に、改めて深い敬意と感謝を表したいと思います。また、地域の医療機関や介護施設、福祉施設、行政機関、企業との連携を通じて、地域包括ケアの推進にも力を注いでまいりました。今後もより一層の連携を強化し小樽のまちづくりにも貢献して参ります。

この年報が、当院の一年間の歩みを振り返るとともに、今後の医療のあり方を考える一助となれば幸いです。今後とも、済生会小樽病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

文責 医療支援室長 阿 畠 亮

済生会小樽病院年報
令和6年度(2024年度)

発行者 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部北海道済生会小樽病院
病院長 和田 卓郎
〒047-0008 北海道小樽市築港10-1
TEL (0134) 25-4321 FAX (0134) 25-2888
ホームページ <http://www.saiseikai-otaru.jp/>

年報作成委員会

責任者 五十嵐浩司

委員長 蝦名 哲行

副委員長 松尾 覚志

委員 平塚 渉、堀 博一、吉田真知子
仙保 知子、菅原 充晴、石橋 慶悟
定 淳志、葛西 淳子、山崎 隆
川畑 有香

印刷所 株式会社 北陽ビジネスフォーム
TEL (011) 818-7770

